

328-314

前農商務次官 齋藤修一郎君題字
 正四位勳四等 在桑港帝國總領事館領事 永井松三君序
 新世界新聞主筆 藤井天彩君序
 桑港新聞主筆 二宮屏巖君序

伊奈
 藤井
 晚重
 松雄
 編

圖
 集
 之
 日
 本
 人

明治
 43. 7. 21
 丙交

桑港 金井通譯事務所發行

序

北米の成功の樂土として喧傳せらるゝや久しく大陸の兩岸に寄する潮勢に劣らざる外來轉住の民其後巨萬の多きに達するを年々の情勢とす。知らず幸運は常に此等敢爲の人に伴ひ實權果して其掌裡に落つるの易なりや否やを。成功の收穫は辛酸嘗め盡して而も新なる不折勇猛の精神を操行とし報はるのみ、期望の屬し易うして阻礙途に横はる多く決意造られ難きに非ずして遂行之に添はざるあるを知らば百難を凌いで勝利に誇るの人は如何に少かるべきかを察し得可く數ふる外來の人の多きに名を立つるもの、稀なるまた恠しむに足らざる也。本「北米の日本人」の著書廣く其檢索の眼を同胞來住者の間に放ち今其集め得たるところを鉛槧に上して之を公にせんこと。本邦立名を期するの人を米國に送る事茲に十數年來渡の同胞萬を重ねて數ふべし而も偶成功の人を求むれば本著の含むところに盡くすべしと云ふ、産を興し名を爲さんと欲するの後進思ふて茲に到らば一段の決意なかるべからざる也。成功の難きは成功を尊ばしむる所以、不撓の精神を保ちて難關を過ぎるの

人は當さに其勝利に誇るの權義ありと謂つ可しと雖も、翻て顧みんか本書の成功といふもの夫果して成功者自家に於て他に誇稱して憚らざるの成功なりや、借問す郷黨は渡米者に對して更に大なる希望を屬せざりしか知人は成功者に向ひ更に大なる賞揚措く能はざるの發展を期せざるか、惟ふに成功者自身も亦此所に想及して更に大成の日あらんが爲め現下尙ほ孳々努むる所あるべし。然らばかの小成に康んじて疾く郷黨に錦繡を着んと欲して歸國の裝を整へんとするが如き若くは一時の安を偷んと姑息更らに奮闘すべきを怠り僅かに植得たる基礎を不定に置くが如きは本書所述の成功者の須さに想到すべからざる所、本書所載の同胞發展は著書が本書の改訂を計るの日加ふる所あるも減ずる所無からんは吾人の誠切なる希望にして、其希望の滿さるゝこと否は懸けて所載成功者の堅志精勵と本書に龜鑑を求めんとする後進者の決心敢爲如何に在り。本書に序して愈諸士の奮勵を望むと云爾。

明治四十二年八月上旬

領事 永井松三

序

我大和民族の北米大陸に足跡を印して以來、未だ僅かに三十有餘の星霜を閱みするに過ぎず、其間敢て庇護を政府に仰がず、資力を祖國に取らず、徒手空拳、孤立單身、而も克く彼の熾んなる排日一派の狂猛なる迫害壓抑あるに係らず、奮戦苦闘、遂に今日の礎を成すに至れり。今や即ち加州一圓の地域のみを以てするも、優に七萬の同胞を算するを見る。農に商に將た工に、總有る方面に發展して、巨然一大殖民地を建立せんとするにあらずや。前大統領ルーズヴェルト氏曰く、國家に於ても、個人に於ても、偉大に赴くの途は、唯だ夫れ奮闘と精勵あるのみと。我大和民族の地を北米大陸の一角に相して、茲に一大殖民地を建設したる所以のもの、ル氏の所謂奮闘と精勵との賜物たらずんばあらず。

詞友伊藤晚松、金井重雄の兩兄、茲に著はす處の「北米の日本人」は、如何にし

序

て北米の大和民族が今日の殖民的基礎を築くに到れる乎、現下如何なる状態の下に發展しつゝある乎を叙し、加ふるに就中其成効者を稱せらるゝの士を録して汎く之を江湖に紹介せんとするにあり。或は以て在外大和民族發展史中最も異彩ある一章を爲すべく、或は以て活ける教訓を含める立志傳中の一節を爲すに足る者あらん、經世憂國の士、有爲立志の青年、此書に依て得る所のもの蓋し少なからざるべし。余は著者の勞を多とすると同時に、亦之れを江湖に薦むるに吝ならざらん。

明治己酉歲初秋

北米桑港の客舎に於て

天彩 藤井 宏 基

序

齊に行いて無鹽を見、歸つて人に告ぐるに齊人醜なりと言は、如何、越を訪うて西施に逢ひ、歸つて他に語るに越女美なりと語らば如何、所謂是れ管を以て豹を窺へる者世人の嗤笑を蒙らん事必せるなり、世に群盲の衆を評せる譬へあり、尾を執へたる者は尾を以て象とし、耳に觸れたる者は耳を以て象の形とせり、抑も知らず單に象の一部なりしを、外國の地に行いて局部を聞き、皮相を見て、以て之を評する者の如きは、恰もよく此に類するには非る乎。

堂々たる官職を擔ひ、豊富なる貨財を懷にして、米國視察に來れる者前後幾百人齎し歸つて之を新聞に載せ、之を鉛槧に附したる者、汗牛充棟も啻ならず是等の多くか果して能く事情を穿てる者ある乎、余等永く米國の地に生活せる者より見ば眞に噴飯に堪へざる也。友人金井重雄、伊藤晚松の二氏「北米の日本人」を著す、書中載する所は、米國に於ける日米人の關係にして、就中力を

序

同胞發展の史に盡し、あらゆる方面より材料を蒐めて、詳に同胞の實狀を悉せり、金井氏は素に外國語の智識に富めるの人、日米人相互の間に介して事に當るここ數年、見聞の誤らざるや勿論なり、伊藤氏は剛直なる新聞記者、其意氣は三槐猗頓を嘲罵し、其筆は尙方斬馬の劍よりも鋭し、阿諛輕薄の文字を用ゐざる亦當然なり、此の書の價值たるや蓋し茲に存す。

私に考ふるに、發展せる我國運は遂に海上に伸びざる可らず、其伸ぶるの方面多々なりと言ふに雖、沃野萬里、野には美果累累、山には貴金の壘々たる、北米の如きは實に其優なる者ならん乎、今や日米の貿易益頻繁となり、日米の外交益錯雜せり、斯の期に際して「北米の日本人」を出す、余は私に時宜に適當するを喜び、深く兩氏の勞を多とす、梓に上すに際して稿を余に示さる、因て聊か所感を吐露し以て序文となす。

桑港新聞社にて

辱知 二宮 屏 嚴

北米之日本人目次

緒言

第一 總論

北米に於ける日本人の發達 ▲加州概観 ▲加州の農業 ▲米國農業界に於ける加州の地位 ▲加州の製造業 ▲加州の鑛業 ▲加州の商業 ▲加州の特色

第二 加州同胞の現況

現況概観 ▲日本人の農業 ▲日本人の商業 ▲同胞労働者の現狀 ▲加州産業界に於ける同胞の功績 ▲母國に對する在留同胞の貢獻 ▲同胞の金融機關 ▲渡航及び歸國人數と死亡併びに出生數 ▲加州日本人慈善會の過去及び現在 ▲在米日本人會の沿革 ▲アラスカ鑛業に於ける同胞の活動と其作業 ▲加州日本人醫會小史 ▲在留民の教育機關 ▲日本人の宗教 ▲邦字新聞の發達 ▲通辨業者の今昔

第三 在留伊太利人を一瞥して我同胞に及ぶ

第四 サンフランシスコ

桑港概観 ▲桑港の日本人 ○代表的人物(イロハ順) ▲磯野徳次郎 ▲市田利助 ▲今井常吉 ▲穂積太郎 ▲橋本修吾 ▲馬場玉吉 ▲萩原真 ▲海東盛太郎 ▲香川常吉 ▲海田豊

二郎▲田川宇作▲龍野鉦次郎▲谷口文彦▲田村徳之助▲塚本松之助▲中林正己▲成富嘉太郎▲名和陽一▲牛島謙爾▲渡邊金藏▲牛尾萬吉▲植田憲三▲野田音三郎▲小門鶴松▲大久保逸次▲黒澤格三郎▲前木才次郎▲福井久 郎▲青木洋嗣▲安孫子久太郎▲小池實太郎▲高田喜三槌▲酒卷幸佐▲崎山信次▲光勢耕作▲中川若南▲臼井豊吉▲皆部梅太郎▲柴田徳二郎▲鈴木政吉▲杉原軍造▲鈴木賀六▲杉谷石太郎

州外の人物(一)宮川益次

一一〇

第五 アラメダ郡

一三五

アラメダ郡概観▲ヴァクレイ市▲アラメダ市○代表的人物(イロハ順)▲伊藤五郎▲同廉太郎▲石井豊二郎▲吉村治三郎▲中島守三郎▲中重榮太郎▲永井元▲内海牧治▲上野峯三郎▲山寺儀一▲山下喜四郎▲増田富三郎▲松崎愛二▲大坪金介

第六 サクラメント平原

一六六

サクラメント平原概観▲サクラメント市及び在留日本人▲サクラメント市附近同胞の農業▲フロリン村同胞の農業▲河下地方我邦人の農業○代表的人物▲岩立伍一▲東歸憲吉▲富永寅彦▲沖健二▲川西良平▲川崎寛吾▲吉田公輝▲吉田俊造▲吉永萬槌▲吉田信一▲竹岡亥之吉▲伊達大八▲谷口清太郎▲津田伊之吉▲歌崎太郎▲倉本乙八▲松九三郎▲圓谷龍衛▲貴志齊▲淺野恕一▲青木儀市▲清金静太郎

郎▲水谷萬嶽▲宮川常三郎▲水谷政右工門▲淺井龜次郎▲都商會▲柴太郎
州外の人物(二)高峯讓吉

一三一

第七 スタクトン地方

一三七

スタクトン地方概観▲スタクトン地方の同胞○代表的人物▲赤羽亥之助▲立石槌太郎▲石井曉

第八 ヴァカヴィル地方

一四六

ヴァカヴィル地方の同胞▲ヴァカヴィル市の同胞營業種別○代表的人物▲西口市太郎▲中村八重楠▲井芹又作▲南出盤雄▲南出孫助

第九 フレスノ

一六一

中央加州概観▲フレスノ地方の同胞▲フレスノ市の同胞營業別○代表的人物▲神川理一▲小此木文九郎▲松田立馬▲筒井嘉代藏▲北濱初次郎▲粟屋萬衛▲中筋三之助▲福島雷次郎▲隅田寶一▲金子幸太郎▲千濱一郎

第十 ロスアンゼルス

一九一

南加州概観▲ロスアンゼルス市及び同胞▲ロスアンゼルス郡及び同胞▲オレンジ郡及び同胞▲リヴァサイド郡及び同胞▲サンバナーデノ郡及び同胞▲サンデーゴ一及び同胞▲ベンチユラ郡及び同胞▲サンタババラ郡及び同胞▲ハリウッド▲ヴェニス▲オーションパーク○代表的人物(イロハ順)▲伊藤竹次郎▲飯野甚内▲生

田光次▲大友平藏▲大川八郎▲渡邊清太郎▲脇嘉吉▲高木梅軒▲竹川峯太郎▲中重平▲中根小市郎▲内田泰治▲土屋林平▲浦田毛佐次郎▲エービーシー商會▲山本晋太郎▲福嶋源太郎▲古澤孝▲湯淺銀之助▲澁谷清次郎▲四嶋一二三▲森文五郎▲守山純▲森銀之助▲須々木榮

州外の人物(三)……………四五二

横山醒舎▲富田耕馬▲荒木周三▲光石純璋▲小野寺治郎八

第十一 ワツソンヰル地方……………四六七

ワツソンヰル地方概観▲モントレイ町在留邦人▲サリナス町の同胞▲ワツソンヰル町の同胞○代表的人物▲井上龜一郎▲西博夫▲新納吉太郎▲片岡宗吉▲土井岡善之進▲山田久之助▲松岡逸人▲平林利作

第十二 ソノマ郡……………四七二

ソノマ郡在留同胞○代表的人物▲長澤鼎▲中島民藏▲古田權藏▲島田權藏▲兒玉善藏

州外の人物(四)……………四九六

關根永三郎▲寺澤六之助▲石川榮助

第十三 サンノゼ……………五〇二

▲サンノゼ市及び同胞○代表的人物▲東豊喜

第十四 結論……………五〇七

北米之日本人目次終

凡例

- 一、本書は元と在留民社會現下の状態に鑑み、聊か警告するあらんとして稿を起せるもの、偶々代表的人物の小傳を挿入せば、讀者の趣味に合するものあらんこの勸告を受くる多きを以て、終に此勸告に従ふ事となりぬ。
- 一、本書の編輯に付ては、帝國總領事館の大山書記生及び日本人會の久萬、若林、木庭、中込諸氏を煩はしたる事少からず、編者の深く感謝する所。
- 一、日本人墓地の調査に付ては、黒澤ドクター特に材料を供せられ、又中林ドクターは墓碑の寫眞を撮影して寄贈せらる。
- 一、前農商務次官齋藤修一郎氏編者の乞を容れて題字の揮毫を賜ひ、領事及び二新聞記者快く序文を寄せらる、字々皆な同胞の箴とす可き者。
- 一、材料の蒐集及び印刷の都合により、出版の意外に遅れたる爲め、脱稿後事情の變遷せるものも亦た少からず、讀者幸に迂遠を咎むる勿れ。
- 一、調査の不行届、活字の誤謬も亦た多し、編者更らに第二版を出すの時を待ちて、大に訂正増補する所あらんことす。
- 一、廣嶋縣人河野勝也氏、本書の出版に付て助力せらる、特に之を書して謝意を表すと云爾。

西曆千九百〇九年七月中浣

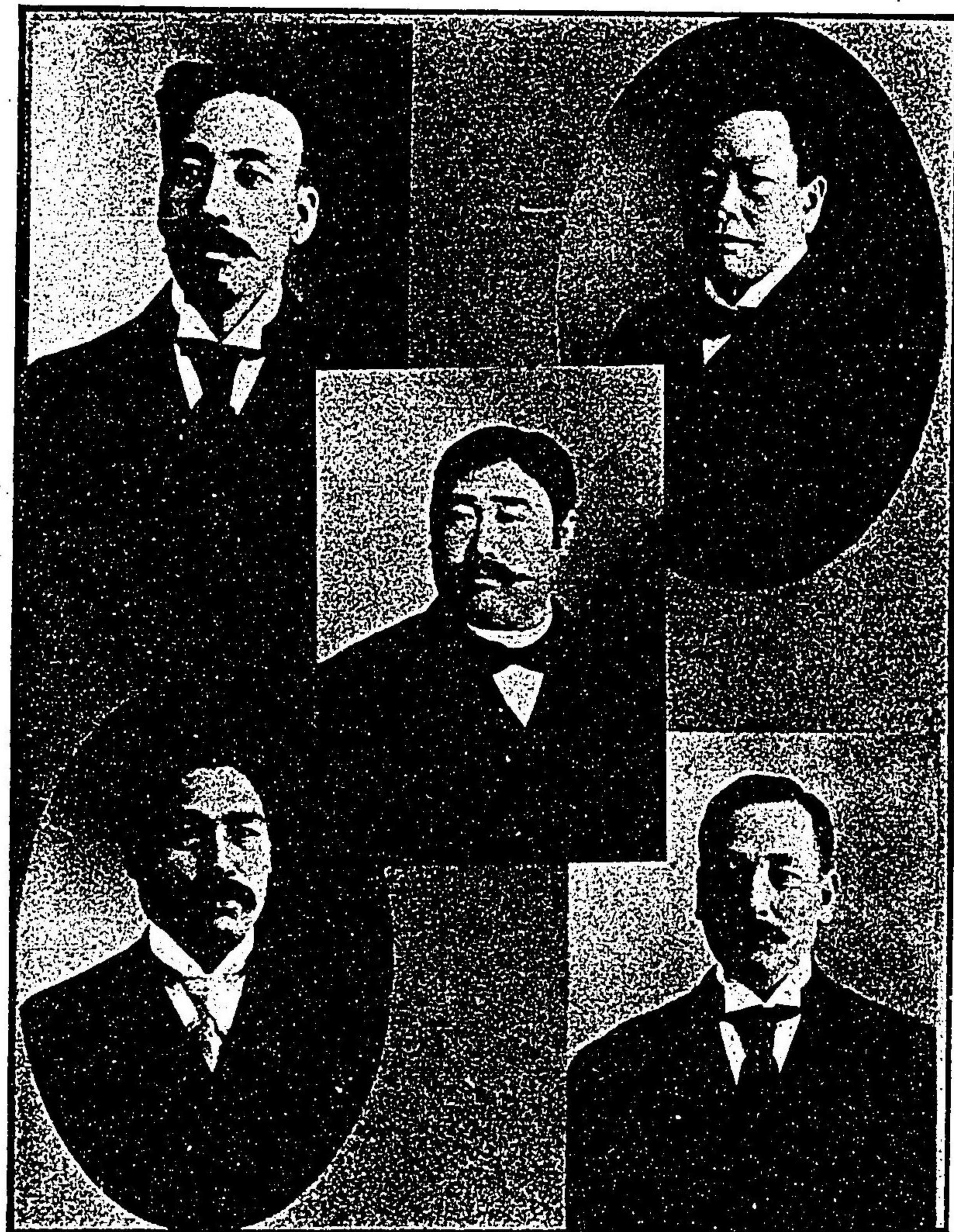
編者識す



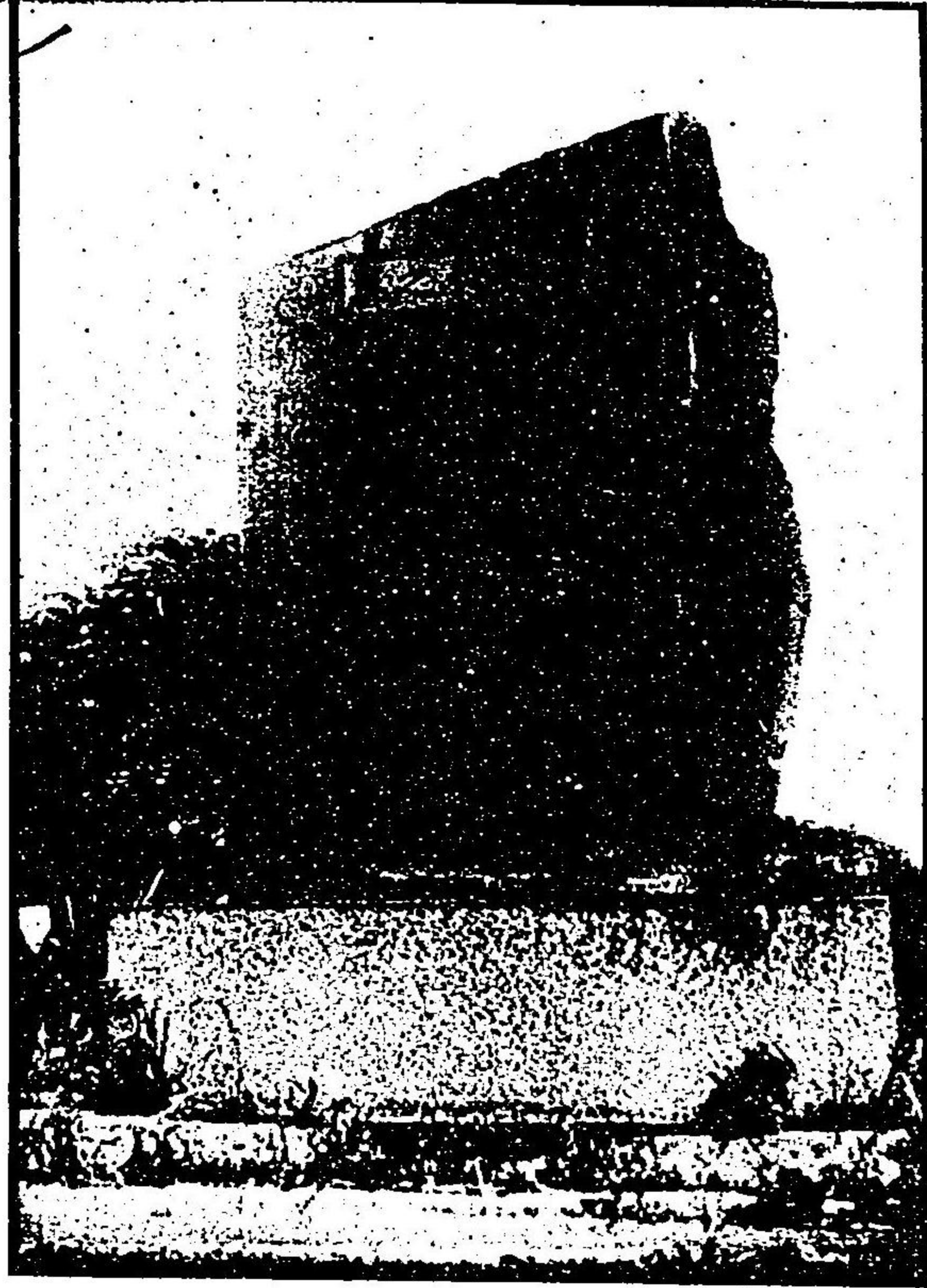
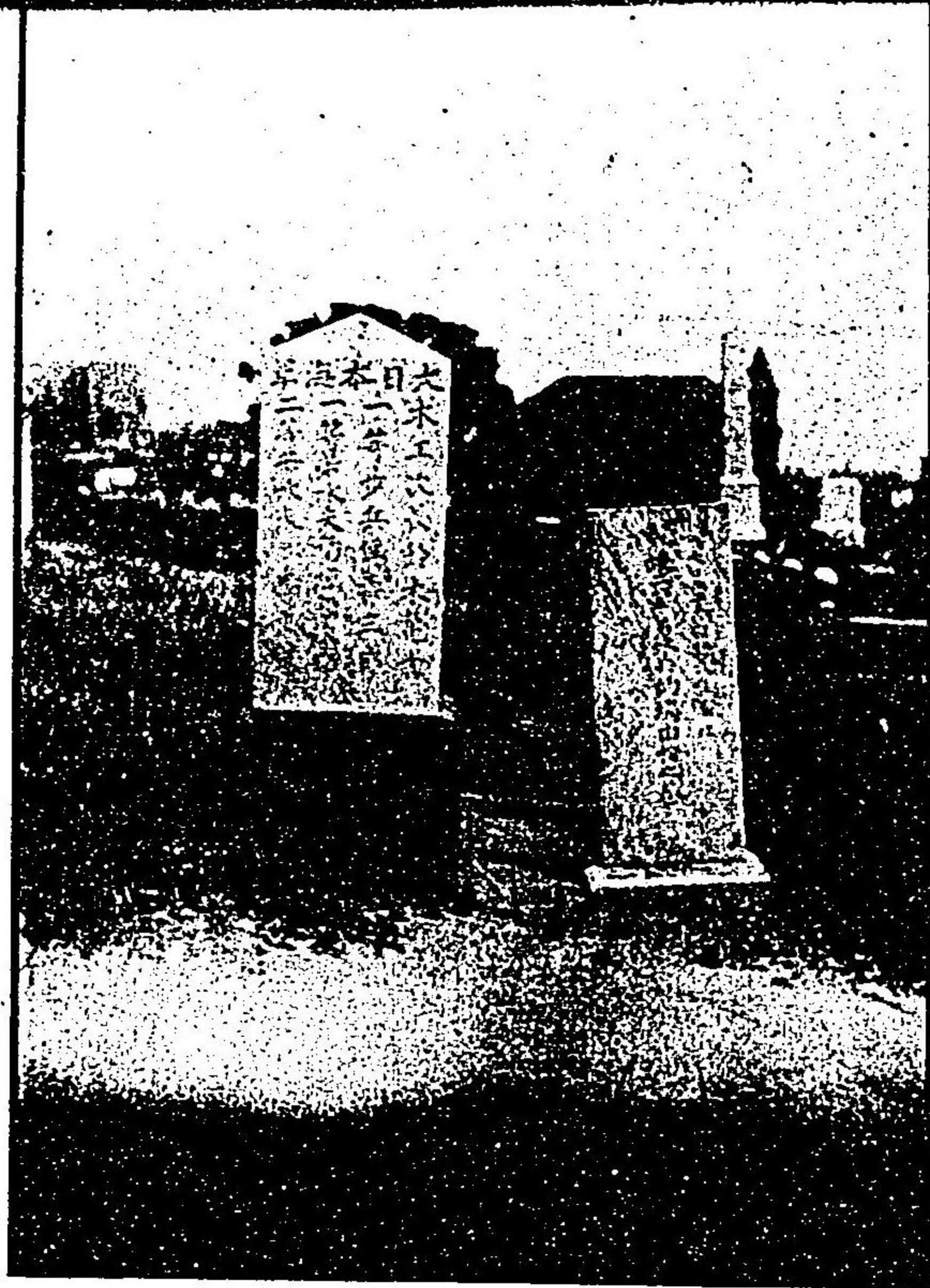
齊藤修一 君



君三松井永理代事領總事領港の最は央中
君一清橋高 左 君雄一原松 右段下 君造根池小 左 耶三季野上 右段上



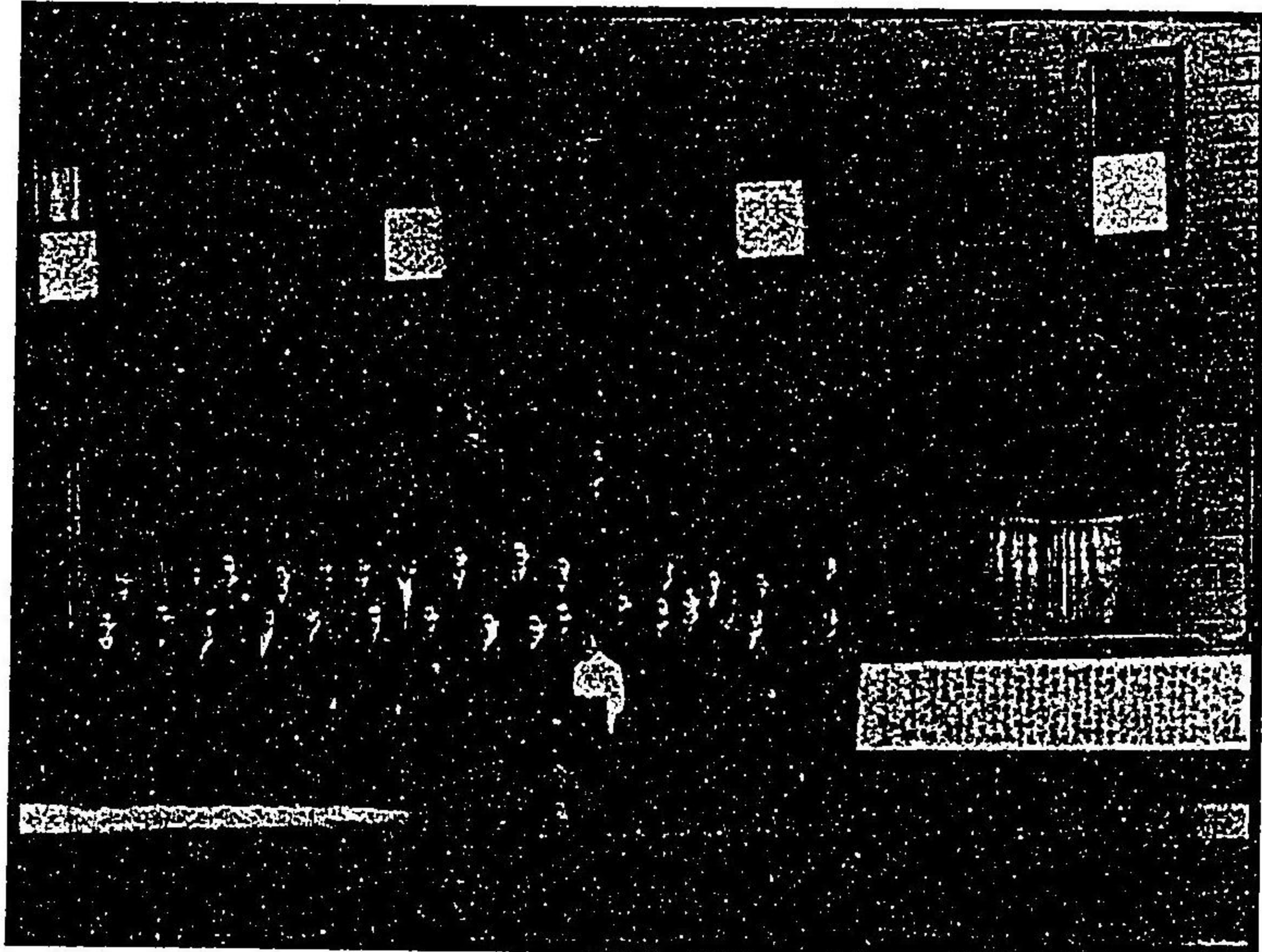
(王齋齡馬)君爾董鳴牛右段下 (長店支港桑金正)君那太積德左 (主地大)君鼎澤長右段上
(士博學醫)君那三格澤黑 央中 (取頭行銀米日)君三憲田植 左



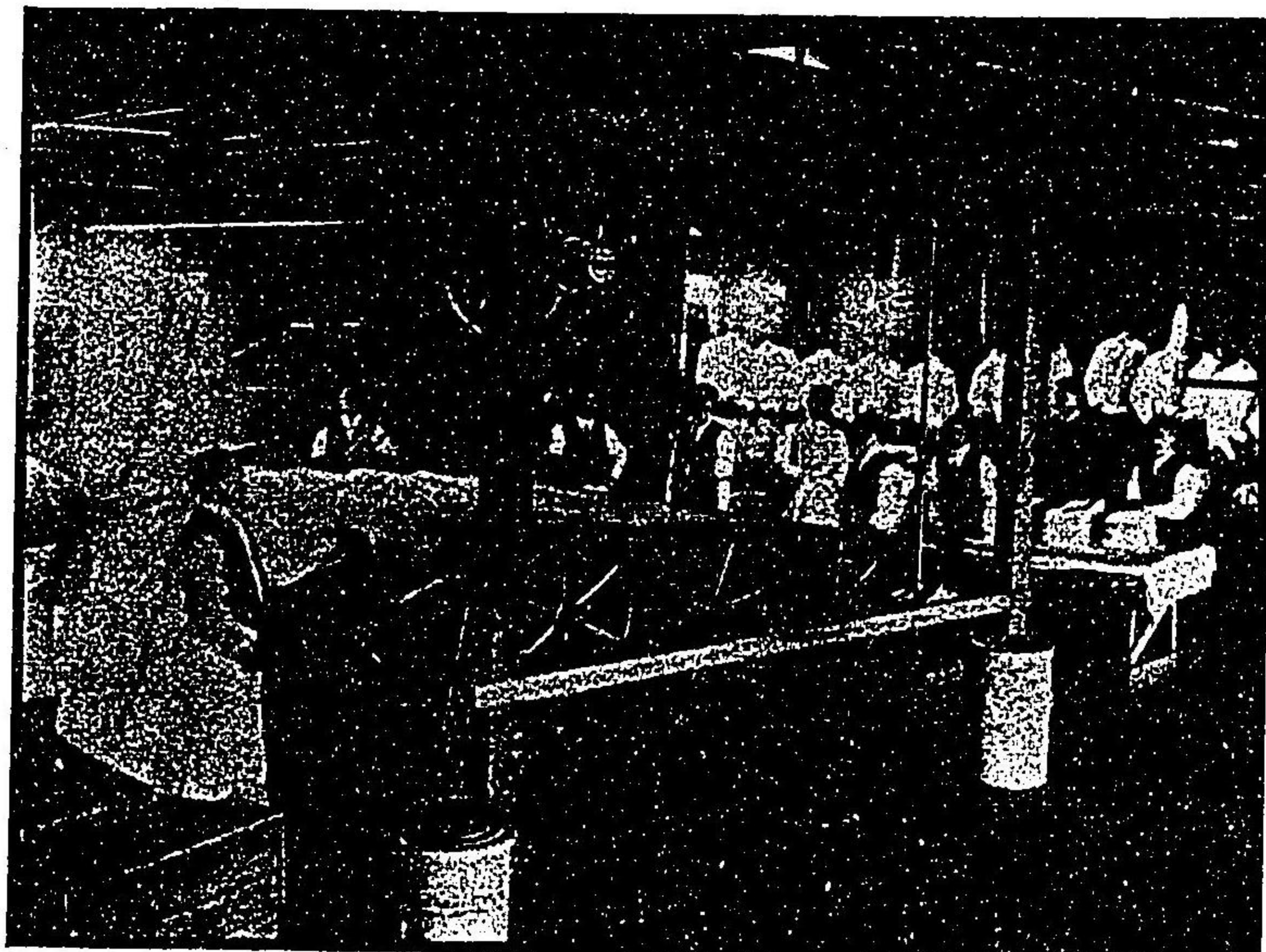
明治九年五月五日、佐藤元孫の墓に於て、佐藤元孫の遺骨を納めしむるに、
 右は明治九年五月五日、佐藤元孫の遺骨を納めしむるに、
 左は明治八年、佐藤元孫の遺骨を納めしむるに、
 右は明治九年五月五日、佐藤元孫の遺骨を納めしむるに、
 左は明治八年、佐藤元孫の遺骨を納めしむるに、



(士博學法)君次益川宮 右でつ向段上 (人名の撃射)君耶三永根關 央中
(士博學理士博學藥)君吉讓峯高右段下(長店支府ラ行銀米日)君郎太峯川竹 左
1
(取頭行銀弟兄川神)君一理川神 左



部外の社会濯洗トツケーマ府王るた睨白の所濯洗



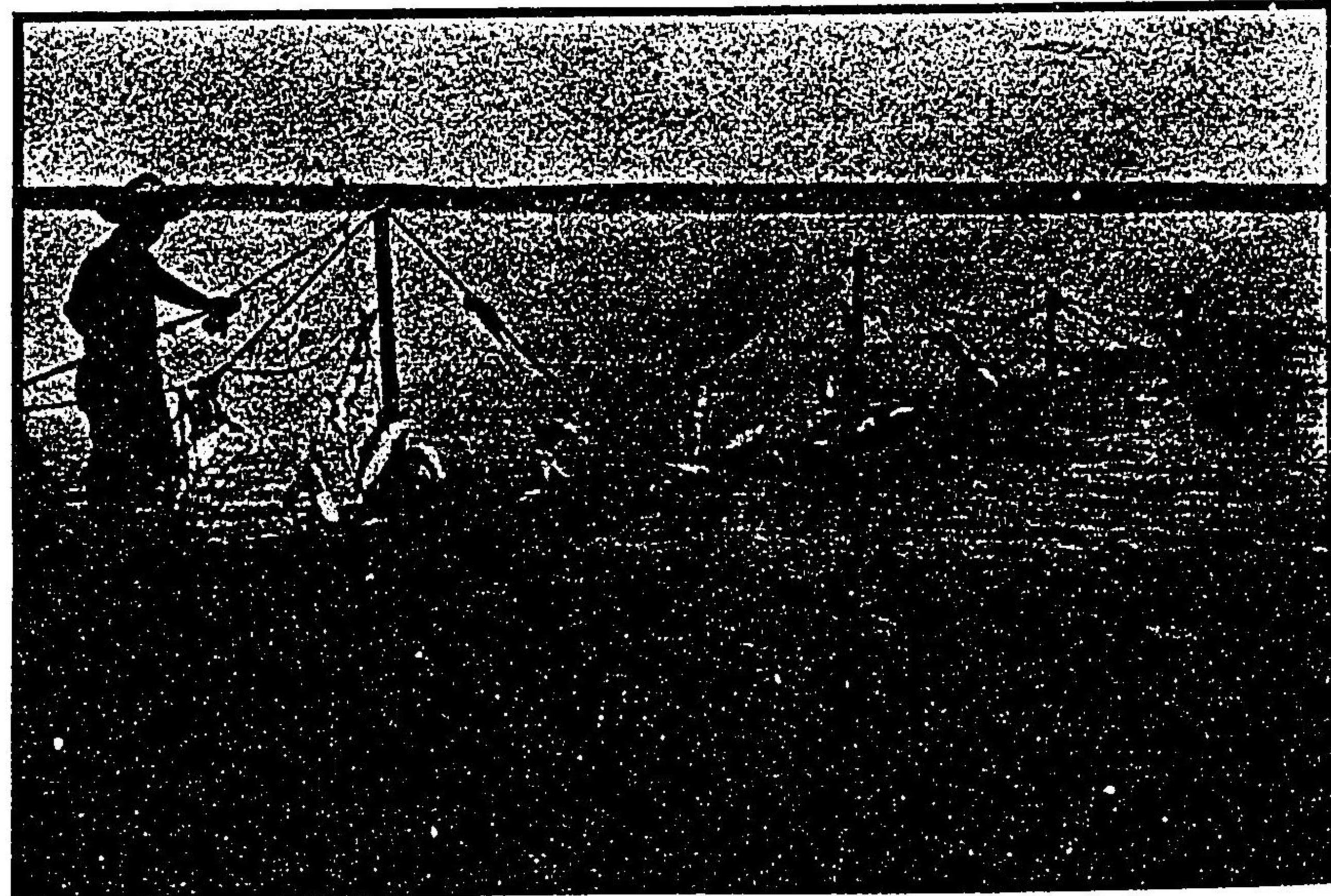
⑩ 寸位に一第岸沿でん並と濯洗トツメンサ港桑は所濯洗此し但場喫火の社会同



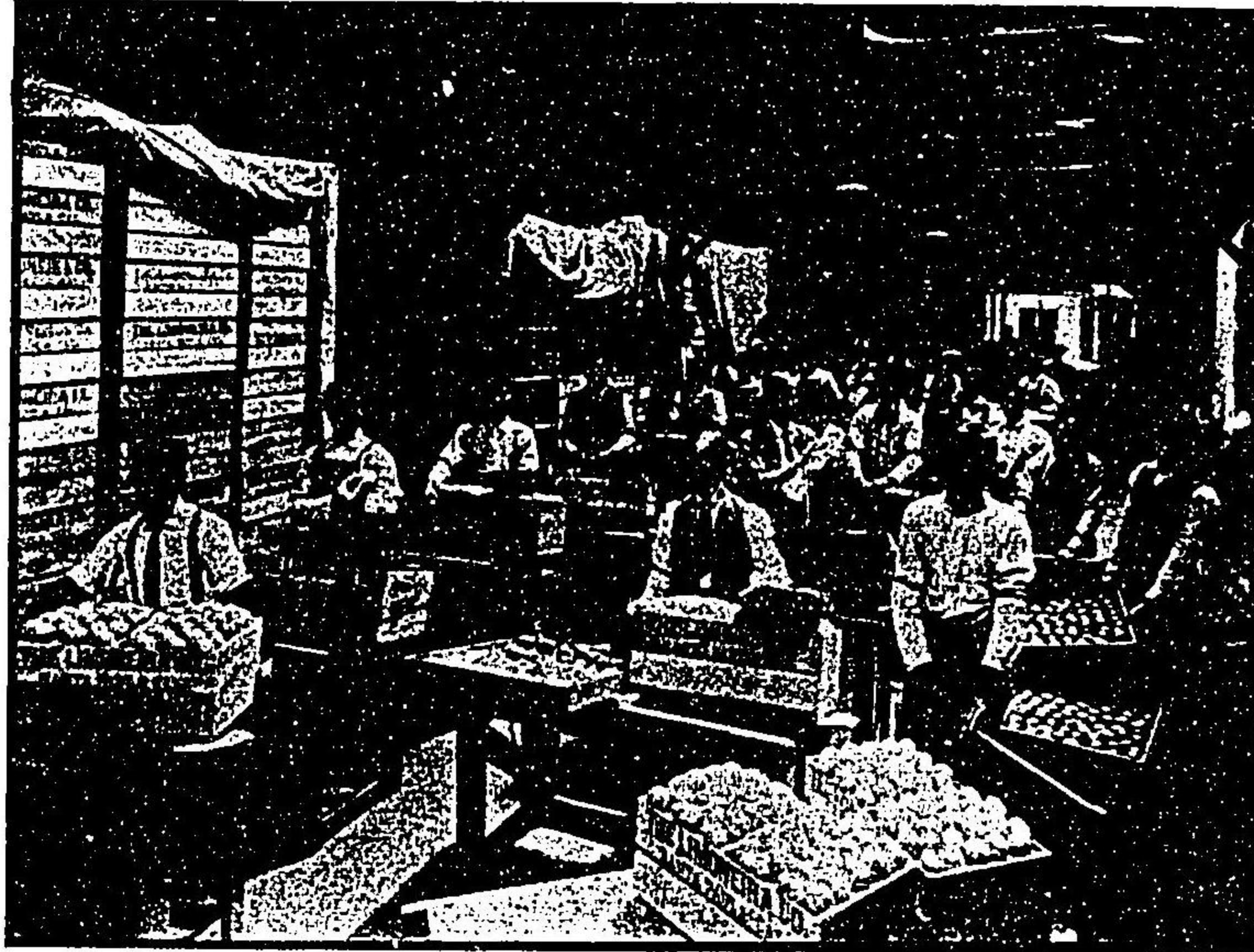
本派本願寺の北米開教師及夫人 前列右より 田中夫人 佐々木夫人 工藤夫人
内田夫人 井上靈奥君 中列右より 内田光融君 田中諦心君 紀開藏君
工藤惠達君 佐々木行應君 後列向つて 右 泉田準城君 左 藤井默乘君



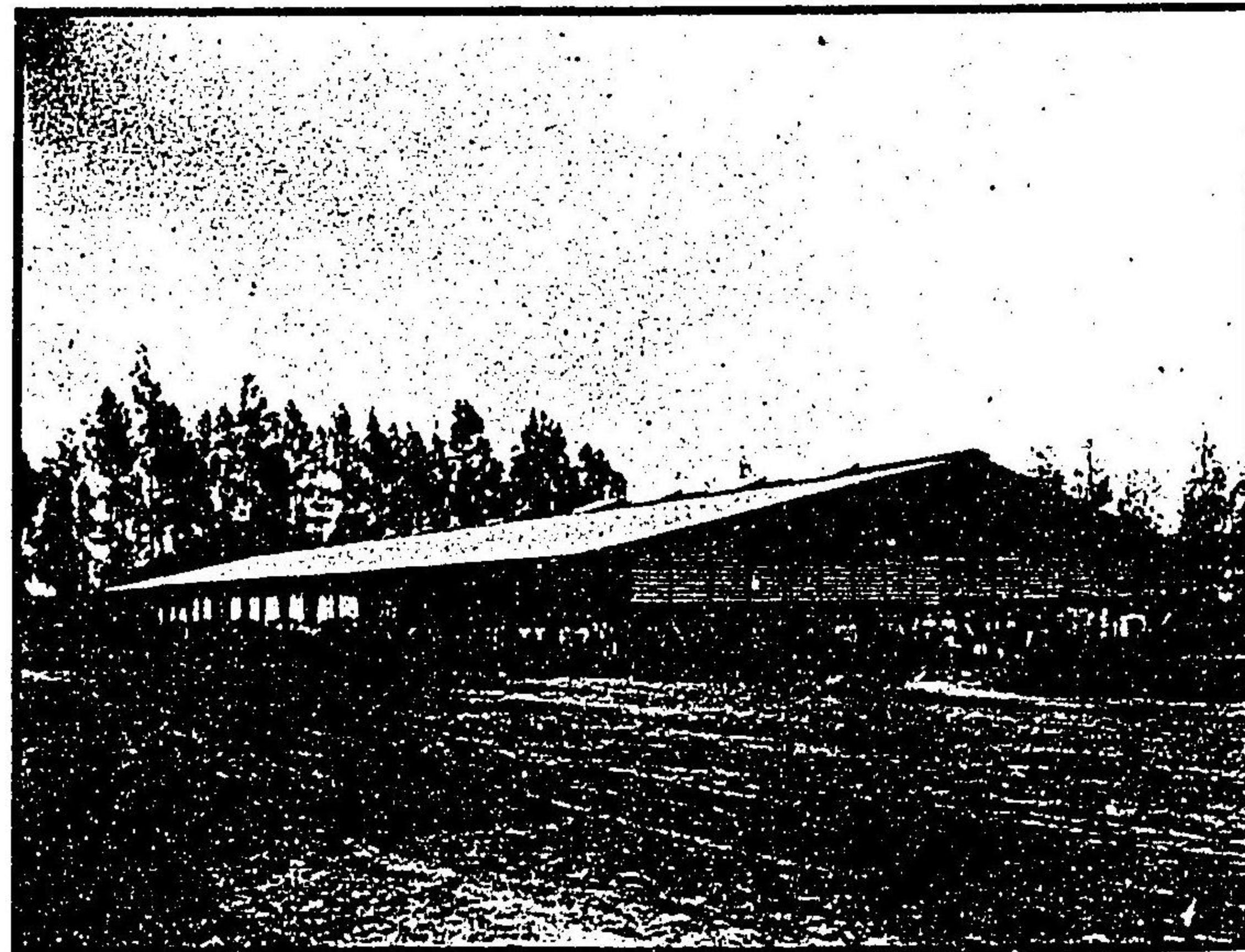
前列右より一 番目はスタンフォード大學助教市橋俊氏 二番目 米田切水氏
中列右より一 番目著者の一人金井他は大學及び高等學校の學生也



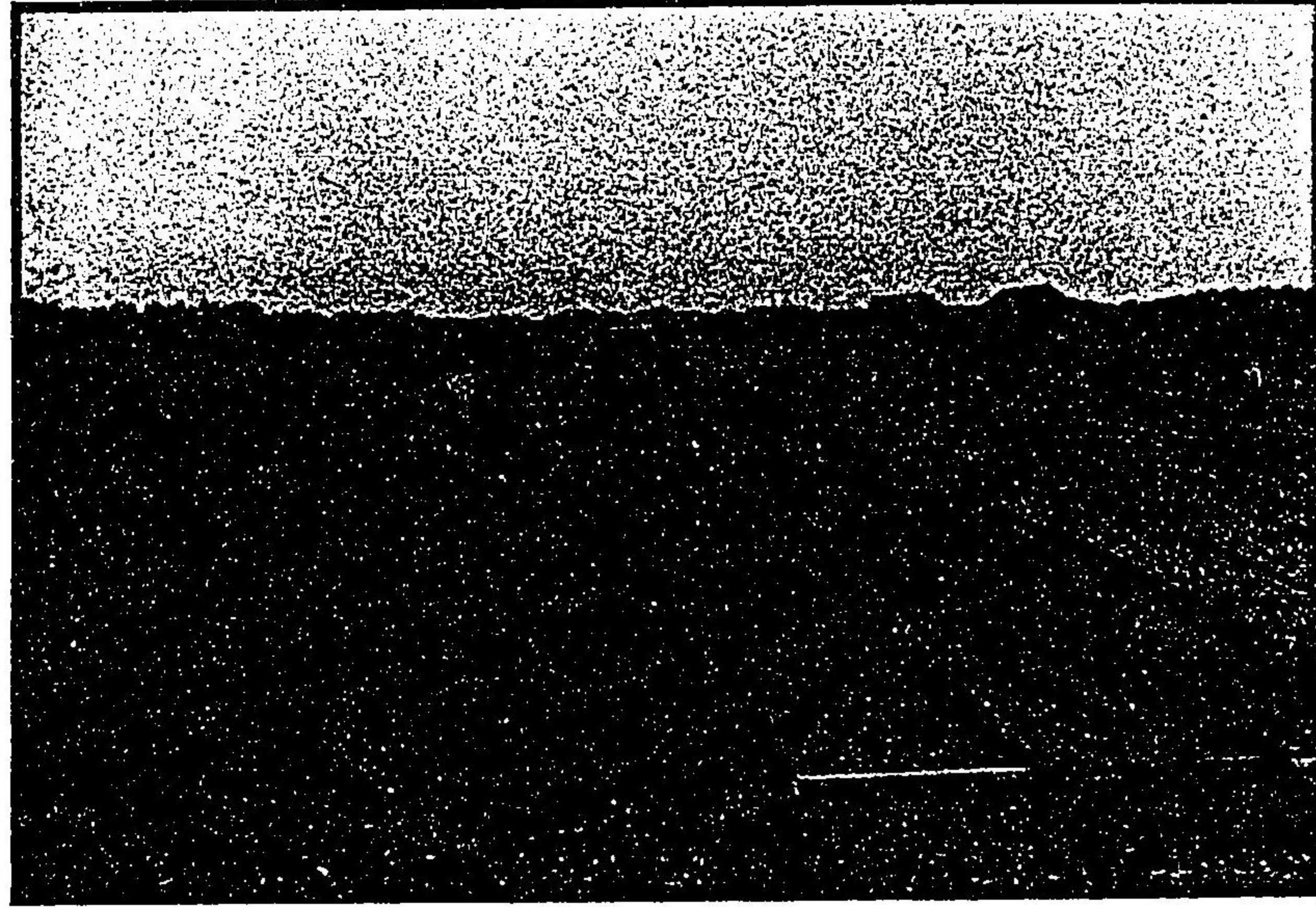
上下共アスラカニ漁業に如何に盛んなるを示す



場業作めづ箱ンモレの氏三二一島四ラIホタンサ



るらせと範模は アンヤキ此 アンヤキの氏同



場千氏耶太静金清ホシキア



畑スガラバニアの氏八音本倉るけ於にドンラルイア

有始有終

無終
護笑修題

北米之日本人

伊金 藤井 重松 雄編

緒言

北米合衆國の國狀の然らしむる所、的確なる統計に準據して、我在留同胞の數を知らんと欲するは、勢ひ不可能也。然りと雖も、種々の材料と、不完全ながらも官憲の移民出入の統計とに照らして、世人の稱ふる如く、七萬人以上拾萬人以下なるは疑を容れず。假りに拾萬内外とするも其數に於て決して多しと云ふ可からず、然らば其實數と其實力と相比較して、克く平均を保持しつゝありや、是れ研究を要する問題たり。日米間一問題の惹起する毎に、同胞の發展を口にして、或は一部米人の非禮を攻め、或は日本當局の軟弱無定見を鳴らし、其聲の大にして、其喧囂の甚だしき程、果して我同胞の實力は發展したりや、是れ更らに研究すべき問題たり。吾人以爲へらく、加州に於ける我同胞の發展は、北米社會機能の息まんとして息む能はざる、噴火的活動の勢に促進せられ、隨伴して現狀に至りしものゝみと。何を以てか斯く觀せしぞ。米國が進歩せし其年月と比較してみ、否日本人が最近十年間に發達せしを標準として斯く思考せざるを得ざるのみ。

緒

言

(1)

人あり曰く、憂ふるをやめよ、日本割烹店のみにて勘定し來れば、在留同胞の有するもの、二百有餘軒ありと、一見知言の如し、而かも翻て稽ふるに、是れ寧ろ吾人の疑問に一層の疑問を重ねるなり。人世何處にか衣食住を要せざるものあらんや、故に所謂割烹店の、かくも同胞の數に比して多きは輒ち同胞社會の發展と没交渉なるのみならず、却て或意味よりすれば同胞社會の不健康體を示す驗温器なりとす。已に然りせば、如何なる程度まで發展し、如何なる度量衡の貫目を有するやは、原ぬるに由なしとせんか。爾來此問題を解決せんとして、刊行せし書も僅少にあらざれど多くは誇大なる報告を基礎とせる樂觀的斷定に過ぎず、中には正確のものなしとせざれども、不全なる統計表の下に數字を羅列したるものゝみにして、普通一般の讀者をして、容易に理解せしめざる、即ち専門家用の書籍なれば、遂に苦心經營の痕跡も世人より認められずして、籠屑と一般に取扱はるゝは是非なしとせんも、遺憾は當に之に留まらず、永く在米同胞發展の真相を知る能はず次いて問題を解決する能はざるに至る。吾人此編を爲す所以は、敢て力を揃らず、在米同胞の實力を忌憚なく曝露して、其發展の程度を、在留者に知らしむると同時に之を日本の朝野に知らしめんとするにあり。勿論日本在朝の士は夙に其真相を知れりと云はんも、吾人の見る所を以てすれば、官命を帯びて來れるの士は、面従腹非的視察により得たる以外、何等知る無きを斷言するに躊躇せざるなり。吾人を以て亂りに奇怪の言を弄するものとなすなかれ、各國領事館の報告は横濱に於け

る片々たる一雜誌の海外報告にすら及ばざるは、是れ明かに吾人の此言に保證の印を押すものにあらずや。

記して茲に到る、同胞社會の現状を曝露するは、發展状態を知らしむる唯一の鐵條網ならずとせんや。而かも徒らに反別の多少を擧げ、在住年月の長短を記し、乾燥無味、一頁をすら讀むを嫌忌せしむるは吾人の忍ぶ能はざる所なるを以て、同胞にして經營しつゝある各種の事業を記述すると同時に其代表的人物を授入して、輕々に讀過し得るを期したるなり。要之吾人の意は多數の人をして讀ましめんが爲めなり。題して『北米の日本人』と云ふと雖も、寧ろ在米同胞發展外史と云ふの妥當なるを覺ゆ。

其現状曝露の如何なるものを示すかは以下、各地各種各様の歴史と狀況と、代表的人物とを逐次列記したるを讀過せば明瞭ならん。たゞ編者たる吾人の現状發展の程度に對する觀察は、之を卷末に添付したり、参照するも多少の利益あらんと信すればなり。

我同胞の北米に足跡を印せしより、大略二十有餘年の歲月を経たり。吾人は各種の材料によりて從來の發展を説きし聲は、餘りに小題大做的たりしを看破したり。然りと雖も吾人大和民族は、他くまでも、日本帝國と共に膨脹せざるべからざる運命を有する者、過去の發展の若し遅々たりとせば、之に鑑みて企劃する所なかるべからず、吾人の意も亦實に茲に存す。たゞにに現状を曝露して

我事成れりとする者ならんや、聊か編纂の主旨を叙して緒言となす。

●●●●●
編輯中併三味(一)

退歩

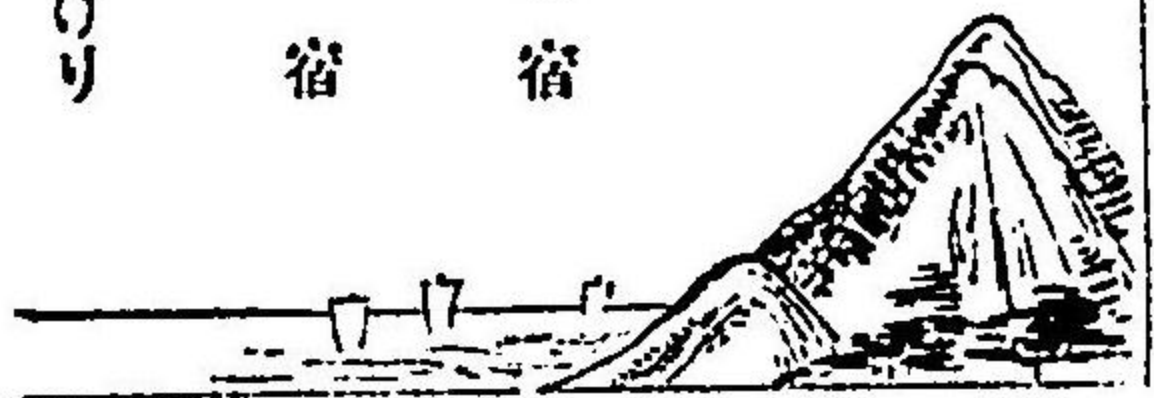
雲米り硯しめるや鮎の宿

前身のくしき女や鮎の宿

鮎釣は山の氣にあてられにけり

道骨の瘦せたる我や鮎の川

僧藉をはがれし僧やはた、神



第一

論

北米に於ける日本人の愛護
する所。在米同胞の小事亦之に漏洩する能はざる也。

榮枯盛衰、新陳代謝は人類社會の原則たるは、人文史の煌かに指示

明治初年以降、救済期に志を得ざりし者の、公憤を訴へんとしては言論の拘束を受け、悶々の情

禁じ難く、不平の夢を載せて北米の客となりし時代に於ては、黄色の顔面を有する、短身小軀の半

野蠻人として、寧ろ輕侮されながらも、我同胞は珍重されたりしなり、換言すれば愛犬を愛する程

度に於て愛されたりしなり、しかるに、或は直接日本より、或はハワイ諸島より、潮の寄するが如

く異様の服装にて、移民として續々渡航し來るや、支那人を排斥せしに次で、『日本人歸らざる可

からず』との聲は、彌次馬群聚の本場所たる桑港に起りぬ。無智にして無頓着、且つ加ふるに勢を以

てせし聲なれば、我移民は之れに對して傾耳するなかりしと雖も、前記の不平學生即ち老書生を以

て居然自ら任じたる輩は、携わ來れる日本刀を按じて、此聲の出所を訊し『米政府言はしむるか、

市民之を云ふか、將又市民の言を知りながら默認するか』と蹶起しぬ、時の桑港領事珍田捨巳は鞍

上大に奔走の結果、漸く之を沈靜せしめぬ。此の問罪的口調は痛く米人を驚かしたり、常に愛撫せ

し飼養の犬の案外にも理を知り、義を解するに驚かしたり。一片の肉と、些少の勞銀とに長く甘じて唯々諾々たる者にあらざるを看取せしめたり。而かも猶未だ斷然たる離縁を請求するの確案を與へざりしなり。即ち未練は残りつゝありしなり。然るに我移民の渡航は一層の増加を來したり、而かも支那人を排斥したる結果は、同胞にして農業に従事する者を歓迎せざるべからざるに至りしかば、同胞踵を接して來るも、猶ほ需要に應ずるに遑まらざりき。殊に記す可きは我同胞の農業に於ける技能は、巧妙にして、他國人の到底企て及ばる一事にありとす、故に所在到る處に我同胞は農園に名聲を博したり。此狀を目撃したる米人勞働者は非常の注意を以て我同胞の一舉一動を監視するに至り、延て非難の聲は『勞働賃銀を低廉ならしむる日本人』として揚れり。之を聞きたる野心政治家は、此聲を題目稱名として旗を政海に翻せり。是は常に野心家、勞働者のみにあらず、所謂有識者も、日清戦後に於ては内心日本人を畏怖するに至れり、茲に於てか未練の糸は切斷されぬ。珍重されし、黄色の短身郎は、恐る可き又不可思議なる精力を有する國民なるを想はしめぬ。隨て排日本人の條目は加州政界に流行し、此聲を旗幟として起たんか、サルーン（一杯賣の酒屋）の主人公も、グローサリーの番頭も、市參事會員たり、市會議員たるを得るの趨勢を示したり、此際に當り我同胞の状態は遺憾ながら輕燥にして大勢の走る所を知らず、たゞ日露戦争に於ける戦勝の萬歳酒に泥酔し、仰々敷き御祭り騒ぎをなして排日本人の材料を供給したるに過ぎず。此間排日思想

の傳播は長足に進歩して、三十八年には日韓人排斥同盟會なる秩序ある團體を組織したり、矢は已に弦上にあり、風は已に樓に充ちぬ。しかも持重して輕々に動かす。徐ろに機會の臻るを待ち居たり。而して賽は投せられたり、人為と又天災とによりて。

日露開戦中には非常の好意的記事を我邦の爲め記載したるクロニクル新聞は、俄然態度を變し排日本人を呼號して、全紙面中苟も日本人に關する記事は皆煽動的の筆鋒を揮ふに至りぬ。蓋し是れ利益以外何物も眼中になき歐米思想の缺點を發表したるものなり、即ち衆愚に附和雷同したるものゝみ、然りと雖も新聞紙の勢力は愚の大なる程或意味に於て大なるはなし、是れ米國に於て新聞紙の勢力の大なるに徴して明瞭なる所以なり。事態斯の如し。賭博の貸元は排日派に加擔したるが故に、何れに賽を振り出すも意の儘になし能ふ事となりぬ。更に加ふるに三十九年四月の桑港震災は、電車々掌、運轉手の同盟罷工を惹起し、日韓人排斥會に向つて一舉直ちに敵の本城に殺到するの機會を與へたり。固より電車會社の騒動は直接我同胞に關係するにあらず、たゞ勞働者多數の憤激は、移して以て排日の氣勢を援くるに絶好の機會たりしなり。見よや、自然界の一微動に因を發して炎々たる猛火の裡に包圍せられたる桑港の消火して間もなく、霹靂の如く、日本人學童を排斥して隔離學校に入らしむ可しとの決議は通過し、我同胞をして悶絶せしめんとしぬ。しかり而かも此案は彼等の奥の手にあらずして、邦人の厄鬼となりて權利を主張するや、之を中止し、交換的

に布哇より轉航し得たる同胞移民をば絶対に禁止する事となしぬ。此際の在米同胞の状態は、狼狽其度を越して、たゞ呆然として袖手傍觀するより他に策なかりしなり。是を具体的に排日の目的を達したる第一歩と爲す。

之と前後して桑港には惡童隊を爲して同胞を苦しむるあり、同胞の經營せる洋食店に對し、ボーイコットの末破壊を企つるあり、邦人の土地所有を禁止すべき法案の加州議會を通過せんとして幸くも中央政府の干渉により喰止むるを得たるあり。更らに直接日本より渡航するの移民をも禁止するの黙約となり。昨四十一年の如きは太西洋艦隊の日本に寄港して空前の歓迎を受けたるに日米の件案を解決したりと傳説し、太平洋沿岸の實業家を招待したるに殆んど排日の思想を掃倒したるかの如き觀を呈したる後、邦人洗濯業者に對する迫害を來たしたるあり、本年の加州議會は再び極端にして國際情義の何んたるを解せざる排日本人案を提出せし議員ありて、同胞を目するに獸類を以て擬するあり、幸か將た不幸か、遽かに豫言するを得ずと雖も、之亦中央政府の關與するありて否決に了れり。然りと雖も之を以て直さに排日案の撲滅と見做すを得ざるは過去の經歷に徴して餘餘ありと云ふべし。否讓歩に次ぐに讓歩を以てし、同胞の北米に隻影をだに留むる無きに到らざれば遂に排日案を根絶する能はざるやも未だ知るべからざるなり。

之を要するに、三十九年の桑港震災を中幕として、我同胞は勞作的に變形したる、二十年前後の

老書生時代に逆戻りしつゝありと云はざるべからず。其大策源地は何處ぞ、問はずして知る此加州なり、故に北米の日本人は加州の日本人にて代表すと云ふも決して過言にあらず。日本人在留者も加州人民との争を解決し得ば、日米問題は解決し得る也。之と同じく日本人の發展したるは重に加州々内なりとす。いでや斯くの如く嫌厭され、畏怖さるる我同胞の如何に發展したるやを記するに先ちて加州の米國に於ける地位よりして記述せん。

▲加州概観 北はオレゴン州に境し、南はメキシコ國と接し、東はチバタ、アリゾナの二州と城ひし、西は世界の通商貿易に至大至重の關係を有する太平洋を隔て、我日本と對し、北緯三十度より四十度に亘り面積十五萬三千六百餘方哩を有し地形恰かも我日本の本州に髣髴たる處を稱してキャリホルニヤ州と云ふ。一部分を除きて、氣候温順に、土地肥沃、東端海拔一萬四千尺の高峰を有するシイラチバタ山脈に源を發して太平洋に注ぐ、延長三百五十哩を流る、サンオークイン河あり、西方シヤスターの深山より因をなして蜿蜒々長蛇の如く桑港灣に朝するサクラメント河のあるあり、此二大河の支川細流縱横に貫通し灌漑に便ならしむ。是れ加州が星條旗の支配となりしより、新興の機運と相待ちて、今日の如き農産物を産出するに於て、世界に冠絶するに至れる原因なりとす。見る可し、曾ては五千人内外の住民に過ぎざりし者、今、百七十五萬人を示し、加州農産物の價格十二億以上を超過し、單に桑港を經由する輸出入品の總額一億萬を算じ、一千八百五十年代には一

エーカー（我四反廿四步）にて一弗に過ぎざりし地價は五六十弗に騰貴したるを。比較し、引照し來れば寔に隔世の感に堪へざるなり。

▲加州の農業 加州の農業は、大農組織なりや、小農組織なりやは議論のある所なり、しかれども専門の智識を有するの人より之を聴き、専門の書籍を参考として之を見る、事業的大農制にして土地的小農制たりと云ふを最も穩當なる所説なりとす。一方哩に十一人半の住民をすら有せざる加州の地に於て、土地的にもせよ小農制を採れるは「農業者の數、小なれば大農起る」てふ原則に反するが如しと雖も是れ培養する農作物の種類、多くは蔬菜果物の如き人間の注意監督を要する、則ち集約農業に屬するものなればなり。事能斯の如し、若し一朝勞働者の渡米減少し、或は國家政策の變革恰かも英國の如く、商工業者に逼まれ彼の防穀令を廢したる結果農業に従事する者欲乏するに至らんか、加州の農業は、宇内に誇張したる特權則ち果物栽培を斷念して、粗放的大農制を採るの餘義なきに至るや必せり。試みに農産物を大別して列擧すれば

麥類産額 三千三百七萬三千餘弗 果物産額 八千八百八萬餘弗（但し葡萄酒、ブランダールを含む）

野菜産額 一千五十三萬三千餘弗 雜類産額 一千六百五十萬一千餘弗

斯の如く、事實は加州の農業を説明す。按ずるに現在の如く經濟組織の進歩を來たしたるにも拘ら

ず、天然の制裁を蒙る事甚大に、報酬漸減の律に支配せられ、利潤低廉に更らに又増加し得ざる土壤と相待たざる可からざる農業にして、前途の洋々たる事加州の如きは他に稀に見る所なり。今後十數年の間、假りに毎年十萬の移民を増加したりとせんも、全而積の八分の一に該當する灌漑地を有するよりして、「人類の滋殖限り無く、天然の生産は既にして人類の誅求に應ずる事能はざるに至り、天地の化工を費くるに人力を以てし、深耕易耨的となる」てふ原理を實現するは蓋し是れ近き將來にあらざる可し。

以上説く所よりして、加州農業の特色は工藝作用農に屬するにあり。天恩の稔々たる、流入し來る資本の多大なる、政治上の政策にして誤る事なくんば、人類社會未だ曾て經驗せざる農業の新發展を促進するは、疑を容れざるなり。而して農業の時期及び經營の方法如何。春と雖も、千朶萬朶雪かと思疑ふ櫻花のあるにあらず、秋來りぬるも、雲水の僧をして銀猫を一擲せしむるの荒涼あるなき加州の風光。十一月末より翌四月の候に至るまで霏々雨を降らし多くは天日を見ず、是を稱して、レイン、シーズン（降雨期）と云ふ。勢ひ斯の如きよりして、其作業期間一定時期に局限さるゝを免れざるべしと思惟するは、恰かも朝菌の晦朔を知らざるに等しと謂ふ可し、同じく稱して蔬菜果物と云ふも、種類の多き、植付及び收穫時期も、其名を殊にすると等しく、皆同じからず、左に表によりて實例を示さん

▲アスパラガス(洋獨活) 植付時期 自十一月至二月 自三月至七月收穫
 ▲ビーンズ(豆類) 同 自四月至五月 自九月至十一月同
 ▲キャベージ(玉菜) 同 自九月至五月 自六月至四月同
 ▲ポテート(馬鈴薯) 同 自六月至九月 自九月至一月同
 ▲トメト(赤茄子) 同 自一月至五月 自七月至十一月同
 ▲ウオーターメロン(水瓜) 同 自四月至五月 自七月至九月同
 ▲シュガービーツ(砂糖大根) 同 自一月至六月 自七月至十二月同

夫れ此の千態萬容なる作業時期を有すればこそ、一年中殆んど休業時節なくして、労働者に福音を傳ふる所以なり。労働者をして他に赴かしめざるを得る原因即ち茲に存す、天何ぞ寵を此土に下せるの多き。土地の廣濶にして且つ豊沃なる世界無比とも稱すべき、人烟の稀なる亦比儔する無き加州に於て、農業の原理原則に反して集約的小農制を敢てし得るもの、主として天然の制裁の寛大なるによる。之を思へば加州民たるもの宜しく天に多謝すべきなり。然らば農業に従事せんとするに幾何の資金を要し、幾何の収益ありや。之を説明するに先ち、農業經營の分類を記せんに、左の四類あり

- A 自作農
- B 小作農
- C 折半農
- D 管理農

近世經濟的活動の特徴は、生産事業を大規模に經營するにあれば、あらゆる事業は概ね會社及び組合組織を以てするに反し、所謂天然と相交渉するの大なる農に於ては、漁撈、採鑛等の二三を除外しては單獨經營に係るもの多し、是れ最も健全なる基礎を有する企業家なりと稱せらるゝ自己の所有地を自ら耕作する自作農の儼存する所以たるなり。次に小作農を記せんに、一定の土地を所有者より借り受け耕作するを謂ひ、其借地代即ち小作料を支拂ふ者を云ふ、而して此小作料の支拂方に一時に仕拂ふと二期或は四期とに分割して仕拂ふの二種あり。更らに折半農なる者は土地所有者は、耕作に關する一切の資本を出だし、小作人は勞力を供給し、而して粗生産、若しくは純生産を二者の間に分配するものを云ふ。管理農とは一定の地域を耕作するを受負はしめ、之を監督するにあるを稱す、換言すれば労働者の請負業なりと謂ふを妨げず。以上四分類の中A Bを指してC Dの如きは、勞働賃銀の高價なる加州に於ては愚なる方法たり。且つ試みに之を我日本に於ける農業と比較せんか、小作農に於て借地料を收穫物によりて仕拂ふと、現金にて支辨することに差違を生じ。折半農に於て、土地所有者の企業資本を供給し、且つ患凶に拘はらず、生産品を二分するに於て組織を特にす。而して加州に於て百エーカーの土地を耕作せんとするは、借地料を一時に仕拂ふ小作農に就て見る、左の表を示し來るなり。

- ▲一千一百弗
- 馬五頭及馬具
- ▲百弗
- 荷物運搬車

▲百 弗	鋤、草切り等の農具	▲六 百 弗	種
▲四十五 弗	種 蒔 機 具	▲六百七十 弗	諸 給
▲一 千 弗	借 地 代	▲四 百 弗	馬 料
合計金四千十六 弗 (以上は蔬菜果物及び殺作にも見積り得べき豫算なりとす)			

即ち知る可し、百エーカー(我四十町餘)の土壤を耕せんには四千弗内外の資本を要する事を。しかも是れ現金拂の小作なれば、期間拂とし、其他農具の買入等も便利なる漸時拂を以て企業せんか其半額を以て優に經營し得ん。更らに収益の點に就て、馬齡著を假りに百エーカーの地に植付けたりとすると、一エーカーより百八十俵を産出すとし、一俵の價七十仙とすれば、百エーカーにて一萬二千六百弗を算出し得。約八千弗の支出と諸雜費を除却して純益は二千弗ありとし、猶洪水等の天災に遭遇するも、其多くの場合は全部流出さるゝが如き慘憺たる事稀なるを以て流出したる後の殘品の價格騰貴に依り其一半を補ひ得るあり。經濟界の變動により價格下落したりとせんも又他に填補の途あるが故に、其半額壹千弗は純收入として安全に見積るを得るなり、殊に記す可きは加州の農業は未だ報酬漸減の方則に支配せられずして、灌漑に便なる肥沃の地の幾多も存在する事はれなり。我日本の如く肥料を要する事尠少なるは、蓋し之が爲めのみ。之を要するに、新與國家の機運と、肥沃なる土地と相待で、愈々發展する程度の迅速なる、測る

可からざるは實に加州の農業たり。詳細なる農業區別は同胞の發展事情に就て看るべし。
 ▲米國農業界に於ける加州の地位 加州の米國農業界に於ける地位を説明せんに、農産物の價額全体を記し、加州の産額と相對して一々煩瑣極まる統計を掲ぐるも、別に益する所多しとすべからざれば、加州に於て産出する重要な農産物の額を示し、之を合衆國全体の額と比較する事とせん。壹千九百年代に、米國總ての葡萄産出額は壹千四百九萬弗なるに、加州は其中に五百六十二萬弗を産出し、果物の總産額八千三百七十五萬弗の中、千四百五十二萬弗を示し、砂糖大根の三百三十二萬弗を算する中、百五十五萬弗を出し、蔬菜二億四千二百十萬弗の中、七百十八萬弗を産し、麥類五億八千七百三萬弗の中、二千八百八十七萬弗を示し、玉蜀黍八億二千八百二十五萬弗の中、七十萬弗を示す。以上の農産物の米國總体の價額は即ち十七億五千八百五十四萬弗にして、加州の産出額は五千四百四十四萬弗なれば、約百分の三十五に該當するを見る。しかれども是れ壹千九百年代の統計より抜粹せしものなれば、元より正確とすべからず、殊に加州の葡萄の如き砂糖大根の如きは累年増加して他州をして顔色なからしめつゝあるを以て、恐らくは加州の農業に於ける地位は首位にあらん。否到底他州は其配下たる可からざるを逸るゝ能はざるは、既に爾來記清したる事實に徴して看取するに難しとせざる可きなり。壹千九百七年度に於ける加州葡萄産出高を調査せしに二千五百萬弗内外なるを見る、蓋し如何なる地位を占め居るやは、説くまでもなし。

▲加州の製造業 加州に於ける製造業は、鑄造、鐵工、製糖、屠殺、煉瓦、衣類製作の如き工業製造業は、何れも一年の産出額五百萬弗内外を出でざるを以て、大資本、大規模の工場を有する、合衆國工業に比して言ふに足るなし。獨り農業製造業に至ては、嶄然として群を抜く、孤峯の趣きあり、是れ蓋し加州に於ては如何なる事業と雖も農産物を主とする業より收益の大なるはなきと、同時に、東部諸州に比し、遺憾ながら資金の裕かならざるに職田する所たり。シャツと云ひ、ネクタイ(襟飾)と云ひ、カラー、及びカフスと謂ひ、靴と謂ひ、其他工業産物は概ね東部より輸入し來るを以てするも、理明かなる所一々枚舉するまでもなかるべし。然らば農産物製造業の現況は如何。之を葡萄酒に就て觀るに、米國産出總量一千九百六年に於て五千四百七十萬ギャロン(一ギャロンは我二升五合有餘)にして、内加州の産出量は四千一百萬ギャロンとす、即ち米國の葡萄酒は加州に於て産すと稱するも決して過言にあらざるなり。次に果物蔬菜の鑛詰業を記さんに、一千八百七十年前後に於ては、二十萬箱内外に過ぎざりしが、壹千九百六年の製産は四百萬箱以上を示しぬ。而して之等の鑛詰は歐州市場に輸出され弊價俱に他を凌駕し、遠く東洋諸國に及ぶ、以て其盛大なるを推察すべきなり、如何なる種類の果物を鑛詰とするや爰に記するに及ばざらん、何んとなれば各地の農業を説明するに當り等しく附隨して記し置きたればなり。

▲加州の鑛業 加州をして今日の盛況を來さしめし最大の原因は、其土地の豊饒なるにあるは既に

記せるが如し、而かも金鑛の發見も亦其一因たるなり、否加州を發見したる動機は即ち金鑛探索の目的を以て來りしにより出でたるものと謂ふ可し。故に現今も其産額少しとせず、一千九百六年の産出額を合衆國政府の調査により見るに、米國全産額九千六百十萬弗餘の中、加州の産額は一千八百八十萬弗強を示し、コロラド州の二千二百九十萬弗、アラスカ州の二千一百三十萬に次て第三位を占む。しからは、銀の産出は如何、同年度の合衆國總産出額は三千七百三十萬弗にして、内加州の産出は百三萬弗を示し、金に比して遙かに下位に居らざるを得ず、表に據れば、モンタナ州の八百八十四萬弗、コロラド州の八百四十二萬弗、ユタ州の七百七十八萬弗、アイダホ州の五百九十八萬弗、ネバタ州の三百五十萬弗、アリゾナ州の二百萬弗の次なるを以て第七位なりとす。銅に至りては全産出九億萬斤の中、加州は二千八百十五萬斤を産するのみなれば他と比較するの要なからん加州の鑛業界に於て合衆國鑛業界を睥睨し得るものあり、石油の産額則ち是れなり。東洋諸國に輸出する米國石油の總額は壹千九百八年(四十一年度)に於て壹千八百八拾五萬四千餘弗にして、全部加州産なりと云ふ。而して、合衆國産出總量壹千三百七十七萬七千パーレル(一パーレルは我七斗九升餘)の中、加州産量は三千三百九萬八千パーレルを含有す、而かも其平均價格を示せば總額七千零百九十三萬二千弗の中、加州の額は九百五十五萬三千弗に過ぎず。則ち産量に於ては第一位を占むるに拘はらず、價格にありては第三位に下らざるを得ざるなり。明瞭ならしめんが爲め一々枚

擧する事とせんに、加州の産量は三〇〇〇〇九萬八千〇〇〇バレルにて九百五十五萬三千〇〇〇。オクラハマ及カンサス州の産量は二〇〇〇〇七十一萬八千〇〇〇バレルにて九百六十一萬五千〇〇〇。オハヨー州の産量は壹千四百七十一萬五千〇〇〇バレルにて壹千六百九十九萬七千〇〇〇。ウエストヴァルジニアの産量は壹千二百五十六千〇〇〇バレルにて壹千六百九十九萬六千〇〇〇。以上の如く産量の大なるに比して加州産の石油は價額に於て遙に他州の産に劣れり。是れツラスト及び運輸交通の便不便、産出油の性質の善惡等に原因するものならんも、其大なる原因は資本の充實せる他州に如からざるにありとす。畢竟するに加州石油にしてツラストの壓迫によりて、價格を低廉ならしむてふ一事は、既にツラストに對抗する力量則ち資本の缺乏を証明するに外ならざればなり。更に他の見逃すべからざる因あり、何んぞやと問ふまでも無く労働同盟の跋扈により労働賃銀の暴騰を來たし、賃銀の騰貴は直ちに製造の精練を欠き遂に價額をして下落せしむるにあり。又他國他州の資本家をして不安の念を抱かしむるより、精練機械等の粗悪を招ぐの止む無きに至ればなり。資本と労働と相互扶助するにあらずんば工業界の發展を期待し得べからざるは、之を以て見るも熾かなる所なり。

▲加州の商業 加州の商業は、内は全合衆國に涉り、外は全世界に及ぶと雖も、米國商業政策の太平洋を重大視するよりして、勢ひ外國貿易に於ては、東洋との關係頗る錯綜を極む。しかりと雖も其重要なる産物は農産物にあり、是れ幾回も説明したる所なれば論ずるまでもなし、而して内國取

引に於て輸出品の重なるものは、蔬菜、果物、葡萄、砂糖大根、麥粉、石油、葡萄酒、ブランデー等也。更に州外より輸入し來る物品は、牛酪、乾酪、金屬類、雜貨、衣服調製材料、藥材、紙類等を主とす。而して輸入品の多くは大概生産を増進せしむるに使用する物品なるは、金屬製造、機械類の輸入に徴しても知るに難からざるなり、専門的に之を謂へば即ち固定資本として輸入し來る物品の多くして、消費せらるゝ物品の尠少なる事是れなり。是れ頗る着目すべき加州商業の特色なりとす。編者の意は加州在留同胞を以て北米の日本人と見做せるが故に、日米貿易の如きは記述するの要なきが如しと雖も、桑港は東洋貿易と至大の關係を有するを以て、聊か其大勢の如何なるを示さんが爲め掲載せん。讀者幸にアフリカの土人に氷山を説明するの愚に等しとして笑ふ勿れ。日本より米國に輸出せる金額を擧ぐれば、壹千九百三年に於て、四千四百十四萬三千〇〇〇、翌年には四千六百九十三萬七千〇〇〇、翌五年には五千壹百八十二萬一千〇〇〇、六年には五千二百五十五萬壹千〇〇〇、七年即ち明治四十年に於ては一躍して六千八百九十一萬〇〇〇を示し居れり。而かも米國より日本への輸出額は、一千九百三年度に於て二千九百三十三萬三千〇〇〇に過ぎざりしもの、一千九百七年に於て、三千八百七十七萬〇〇〇を算し居れり。而して之を米國の貿易額に比較して見ん、壹千九百七年度に於ける米國の他國より輸入せる總額は、十四億三千四百四十二萬〇〇〇にして、内日本よりの額は前記の如く六千八百九十一萬〇〇〇なり。總輸出額は同年度に於て十八億八千八百八十五萬一千〇〇〇、内日本への輸出

額は之亦前記の如く三千八百七十七萬弗たるなり。日本品の輸入さるゝ多きか、米國品の輸出さるゝ多きか(此文編者の米土にあるよりして輸入輸出共に米國側に立つものなり以下之に準ず)は一見して明瞭なる所、計算するまでもなく日本品の超過は三千十四萬弗に及ぶを知らん。以上合衆國貿易上に於ける日米貿易の地位は略竭きたり更らに日本貿易上に於ける日米貿易の如何なるやを説明せんに、壹千九百六年度に於ける日本の諸外國より供給されし總額は四億壹千八百七十八萬圓にして、内米國品は六千九百五十萬圓を示し、日本の諸他列國に供給せし總額は、同年度に於て四億二千三百七十五萬圓、内米國の需要に應せし物一億二千五百九十六萬圓なりとす。爰に於てか參考の爲めに米國の輸出額と日本の輸出額とを重複ながら捻提して讀者に示さん。米國の十八億八千八百五十五萬弗の總額に對し、日本の總額は僅かに二億二千萬弗に過ぎざる也。北米合衆國の國富の怖る可き知る可きにあらずや。數字を以て日米貿易を示せば斯の如し、其種類の重なる輸出入品を觀察せざれば佛像を刻みて魂を入れざるが如し、故に煩瑣なりと雖も大別して記載すべし。壹千九百七年度に於て、日本より米國への輸入物品價額は、生絲四千〇〇八萬弗。絹類五百五十九萬弗。茶六百十二萬弗。花莖二百六十一萬弗。陶器及び銅鐵器具類三百九十一萬弗。乾物類百九十一萬弗。米、酒、紙百五十五萬弗。野菜、果實、穀物壹百萬弗。木材(概ね鐵道用)七十二萬弗。ブラシ、帽子材料、粧飾品、百二十萬弗の如く。米國より日本へ輸出せる重要品及び其價額は、棉花一千四百

萬弗。石油三百五十九萬弗、小麥粉三百八十二萬弗。電氣機械、汽罐車、鐵材六百九十萬弗。紙類八十萬弗の如きは其主要なるもの也。上記の表中に於ける、日本よりの輸入品たる酒、米、紙、野菜、果實、穀物の大部分は在留日本人によりて消費さるゝものなる事忘る可からざる必用の點なり。しかも其詳細は次章に置きたるを以て、就て見る可し。たゞ加州生産物の日本市場に赴くは石油と小麥粉たるのみなるは、別に異論のあるなし。

▲加州の特色。世界各國に冠絶する果實を産出し、合衆國內、金の産額に於て第三位を占め、石油の湧出量第一位にあり、加ふるに四時の風光概して寒時人を寒殺せず、暑中敢て身の置き所なき程の酷烈を逞ふせざるが故に企業旁々寒暑を避くるの客東部より來る者甚だ多く。勞働賃銀の高價なるよりして市場他に比して常に活氣を帯び、隨て各國移民は踵を接して來り、恰も世界各人種の共進會の觀あり。是等は加州の特色として誇るに足る可きなり。且夫れ山河の景色に至ては、ヨセミテ、巒峰の奇觀あり、近くロッキーの深山あり、其平原の豊沃無双、廣茫無比なる又他に遜色あるなし。たゞ已に各國民の集合地なるが故に愚民も尠少にあらず、往々にして狂暴なる言議を議政府の公壇に叫喚して有識者をして憂慮措く能はざらしめ、勞働同盟の跋扈言語に絶へ、爲めに資本家をして放資を斷念せしむる結果、工業の發展を阻碍するの特色は吾人此加州の爲めに惋惜する所也。吾人苟かに思ふ、如何に國土大なりとは云ひ、又如何に自由思想に富み秩序を重んずるとは云ひ

加州を此儘に放擲して、而して顧みざらんか、合衆國を煩はす者は必ず加州なるを。此言をなす所以は我國と事端を滋くするを云爲するにあらずして合衆國夫れ自身の内政の爲め殊に是を云ふのみ要するに其生産の豊富と、勞働賃銀の高價なるは加州の一大特色とすべし。

編輯中併三昧(二)

退步

甘蕪なくさす女や青藤

奇才ありて佛いぢりや青藤

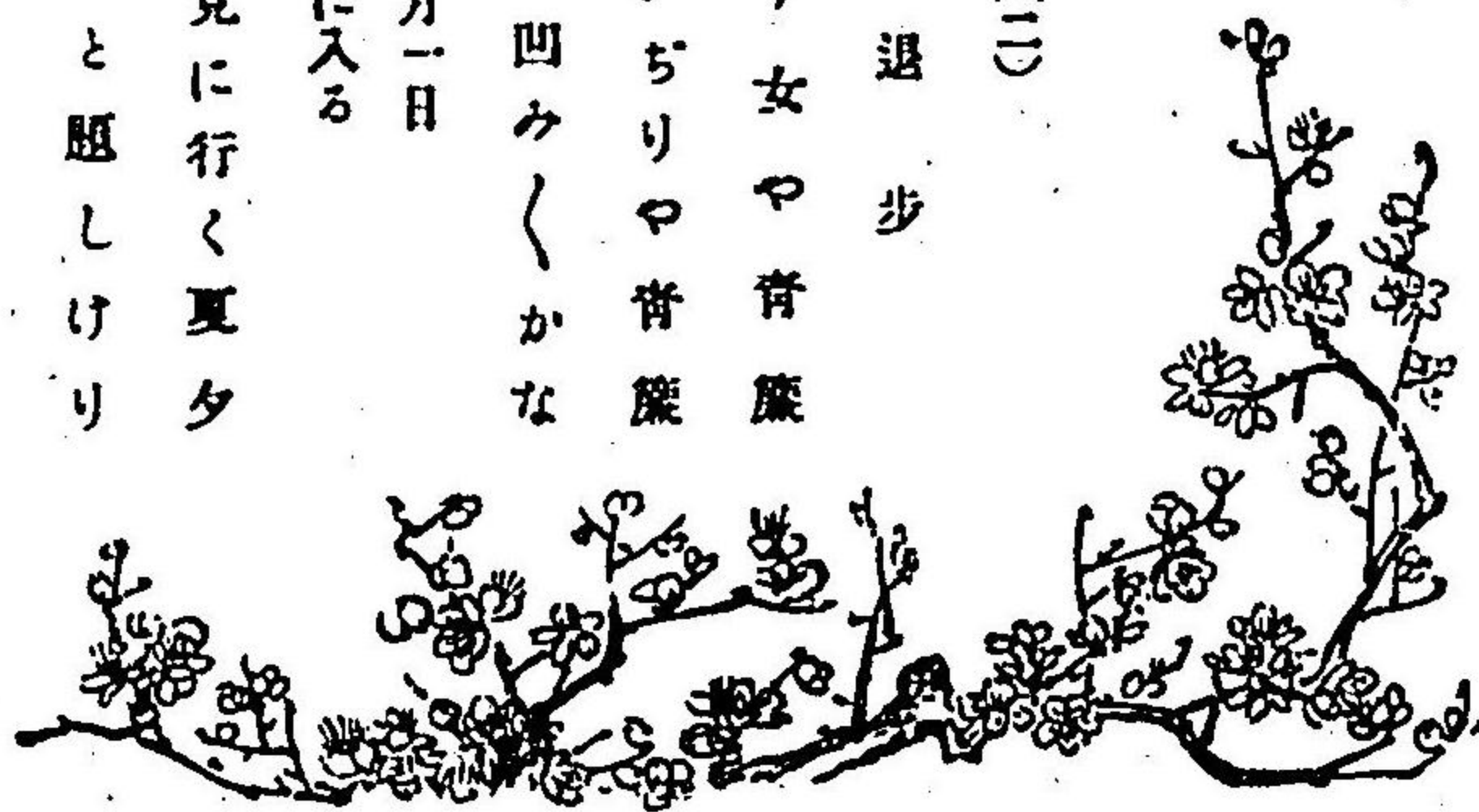
鬼百合は邸下の凹みくかな

千九百〇九年五月一日

練習艦隊桑港灣に入る

碇泊の軍艦を見に行く夏夕

憚りて蝙蝠論と題しけり



第二 加州同胞の現況

▲現況概観 桑港震災に次で、日本人排斥の聲、氣勢を高め、布哇より轉航し得たる同胞移民の禁止となり、世界經濟界恐慌の餘波を蒙るあり、前途を悲觀する者、同胞間漸く多く、直接渡航も不可能に同じき狀況を示し來りしより、田園にありて比較的健全に又多小の金錢を有する邦人は、續々歸國するあり、此勢を以てすれば殘存する者は、歸國旅費すら得難き勞働者と、事情故山に見ゆる能はざる少數者より他あらざる傾向を示しぬ。たと再渡航をするの困難なるより、緩かに之を阻止するにあるのみ。各農園の荷物は停滯し、美術雜貨の賣行敏ならず、日本人向食料雜貨商は賣上金の廻收なく、勞働者は桂庵の裡に電鈴の鳴る度毎耳を傾けて而して失望しつゝあるのみ。不景氣の間、田園もなく、市内もなく、誰人の口よりも發せざるなし。是れ三十九年以來今日に至るまでの現況なり。顧みれば三十二三年の頃よりして、震災前にありては、邦人の旅館業者の収益の如き門外漢をして聴かしめば、信する能はざる程大なりしと云ふ。一葉落下、時已に秋。通商局長石井菊次郎來りて、企業時代に入れりと贊するも奈何せん、勞働時代に還りつゝあるを。否未だ曾て企業時代に到達せし事は無きを。前項日米貿易統計表中の材料を見るに、日本より同胞の爲めに輸入

せし米、酒、紙、野菜、果實、穀物の額二百五十萬弗あり、此他精算し來らば四百萬弗に上るは斷するに難しとせず、加ふるに他國產の消耗品をも加算するあらんか、蓋し莫大なる消費額を示す可きなり。しかるに我同胞は如何に事業の經營をなしつつありや。空しく農作反別を擧げ、營業軒別を記すも益あるを知らず、又徒らに貯金額送金額を以て發展狀況を尺度せんとするも、正確を期すべからず。故に各般の状況を綜合して之を示さんとする。然れども大體に於て同胞の現狀は猶勞働者時代に過ぎずと云ふを憚らざるなり。何となれば、美術雜貨品商を除外して白人を華客とするの商賈なく、白人を雇役して農作事業を營む者なく、何れも邦人相手の商賈のみなればなり。農業の如き其生産は白人に賣却するものなりと雖も、邦人の仲介業者なきよりして、たゞ時價の騰貴と豊作とに待ちて僥倖を萬一に期するのみにして多くは勞働賃銀を得るに過ぎず、此勞働賃銀を勞働者より蒐集して、辛じて農業を持続しつゝある者幾千あるを知らざる也。故に曰く、土地所有者と稱し、現金借地者と稱するも、仔細に觀察し來れば皆勞働者の庇護によらざるはなく、又貯金送金の多くも其過半数は勞働者及び不正業者なるは辯護すとも蔽ふ可からざる事實なるを如何せん。畢竟するに日常邦人の使用する日本品の大半は勞働者の消費する所なるを以て勞働者時代にありと斷言し得べし。しかれども勞働者の健全なる發達は、不健全なる企業家の積出に優る幾千なるやは是れ論するまでもなし。斯く發展を否定するが如しと雖も事實を暴露し來れば、斯の如し。試みに可及的煩を

避け其事實を數字的に説明せん。

加州に於ける同胞の耕作反別は、總計十五萬三千エーカー餘あり。内。自作農（土地を所有して耕作する者）壹萬五千エーカー。小作農（土地を現金を仕拂ひて耕作する者但し一時拂なると期間漸時拂の二種あり）五萬五千エーカー。折半農（收穫を土地所有者と耕作者にて折半或は四分六の割合にて分配するもの）五萬七千エーカー。管理農（例令は一エーカーの土地を耕作するに幾千を以て受合ふ者）二萬六千エーカーにして、在留同胞の數を五萬人として、一人平均の耕作反別を算すれば、總反別、三エーカー強。自作農反別、一エーカーの三分の一。小作農反別、一エーカー強。折半農反別、一エーカー半。管理農反別、半エーカー。即ち以上の如く該當す。然らば加州に於ける我同胞農業者の數は幾千ありや、編者の精査せる所に據れば、自作農業者三百八人。小作農業者壹千二百二十八人。折半農業者五百七十八人。管理農業者百七十一人。總計二千二百八十五人なりとす。而して一人平均の耕作反別を見るに、總反別即ち前記十五萬三千エーカーを總農業者にて除去すれば六十五エーカー内外、自作農數を以て自作農反別を除去すれば四十八エーカー、小作農四十五エーカー弱、折半農九十八エーカー、管理農百五十二エーカーとなる。

果して然りとせば、『加州の農業』に於て記述せし最低標準利益により打算し來り（第十四頁を參

照せよ)百エーカー耕作の純利益金を貳千弗とすれば、自作農反別一萬五千エーカーにて、三十萬弗の収益を見小作農反別五萬五千エーカーにて、百十萬弗の収益を算し、更らに折半農に於て、百エーカーより五百弗の純益ありとして、二十八萬五千弗、管理農に於て、百エーカーより二百五十弗を得とせば、六萬五千弗、即ち一ヶ年純利益金百七十五萬弗は如何なる事情ありとも我同胞農家の掌裡に歸せざる可からざるなり。換言すれば我同胞農家總數二千二百八十五人の懷中に歸せざる可からざる也。

之を商業家に就て見る、加州在留同胞の營業者は大略二千戸あり、而して各戸五千弗の資本を有するものとせば總計壹千萬弗、年壹割の純益ありとし資本少額ればな少額なる程遞減する方則に準じて一ヶ年七十萬弗は、二千軒の營業者により掌握さるゝ也。

しからば労働者の状態は如何。在留同胞五萬人の中、一萬人を農商家企業人或は商家の使用人として控除し、更らに壹萬人を遊惰無頼の徒に隸屬せしめ、三萬人を以て純然たる労働者とし、一人一ヶ月最低額の給料たる十五弗となし、計算すれば六百四十萬弗は彼等労働者が賣汗の錢として彼等に歸せざる可からず。

斯の如くにして我同胞總計の財産及び所得の如何なるものなるかを算出せんに、農業に於て土地所有壹萬五千エーカーとし、一エーカーの價格を四十弗平均として六十萬弗。現金借地料を仕拂

ふ者五萬五千エーカーとし、一エーカーの借地料を十弗仕拂ふものとせば五十五萬弗、之に企業用固定資本及び流通資本を三百萬弗とす、然らば農業家の總資本金は四百十五萬弗にして百七十五萬弗の収益ありとす、商業に於ては資本金壹千萬弗にして利得七十五萬弗、労働者は自己の身軀を資本として六百五十萬弗ありとせざるべからず、更らに各銀行の資本五十萬弗、預金二百萬弗あるを以て、資本總額壹千六百六十五萬弗にして、一ヶ年總収益額は八百九十五萬弗に達する也。然れども預金二百萬弗あるに對し、二百萬弗の貸附金あるを忘る可からざるなり。而して故國に送金する高は一ヶ年七百萬弗内外を昇降す。一見甚だ其權衡を失するにあらずや。則ち總収益金總所得八百九十五萬弗なるに拘はらず、年々七百萬弗の送金ありとせば、農業家は資本を増殖する能はず、商業家は流通資本の逼迫を來し、銀行亦預金の増加を招致する能はざるにあらずや。しかも事實は之に反し送金の多き時に於ては、從て預金の多きを見商況又活潑なるは、過去の事實之を證明するを奈何せん、是れ抑も何に依て然るか。他なし労働者の収益即ち利得の消長によるのみ、前記の如く労働者の收得を六百五十萬弗と局限せしは、是れ労働者時代なりと云ふを證左せんが爲めのみ。重なる送金者、預金者は概ね労働者也。日本品の消費者は労働者なりと斷する所以、則ち之が爲めなり。

發展の大なるを呼號したる我同胞の財富は二千萬弗を出でず、約言すれば加州一ヶ年農産價格の

を以て、已に海外移住の現象は直ちに農業を意味すると云ふ可きのみ、加州在留日本人に於て殊に然るを観る。たゞ維新草創多難なりしが爲め其初營に於ては加州に在留せし我同胞は殆んど政治上の壓迫に因りたる者のみなるが如かりしも、此際には未だ以て移民と稱し得べきにあらずして我日本人が足跡を印したる小史中のものに過ぎず、既に一種の移民社會を形成せし頃、於て農業本位たりしは前に記せるが如く皎著なる事實也。我民族の海外に移住するに至れる大なる外因は、政治上社會上の壓迫、信仰自由の束縛、人種的偏見等に基くものにあらずして、唯一經濟狀態生活問題にありとす。乃ち是れ我民族をして風光明媚なる祖先墳墓の地を棄て、鐵笛一聲芙蓉の神山に分袖せしむる動機也。斯の如きを以て、其目的も遠大ならずして一生安逸の生活をなし得るの資本を掌握せば、『幾多の我』が存在せる故郷に歸らんとは、移民地航海の船中業に豫想し居る所。換言すれば、布哇歸りと云はれ米國歸りと嘆され、學校の先生と同じく彼も洋服を着して歸れりと、隣里郷黨より刮目せざる、を以て前途の樂みとして來れるなり。群態淺薄なりと嗤笑するも詮なし、是れ我民族の特色なりと知らずや。我移民の往住地在留年限は、其年數平均三年半を出でざるを以て見るも之を証明するにあらずや。論者或は言はん、加州の在留者何ぞ限らんと、しかり何ぞ限らんと、しかれども開は例外のみ。忌憚なく公言するを許さば、加州在留の我同胞にして比較的年限の長期なる者にして、成功の域に達せし者あると同時に、他人の珍饈佳肴を口にして永久之を食せん

し意外に墮落したる者の多數あるを認識せざる可からず。在米十五年洒然たる衣服を纏ひ、頭髮穿靴燦然たるも、米國人にもならず、日本人にもあらざる新開地獨特の浮浪漢の多きをも算勘せざるべからざる也。故に農園に於て孜々として勞働に従事する者の如きは、最もよく日本人の特色を發揮する所以にして、我日本人農業の特色は、即ち日本人の特色なりと云ふ可きのみ。素より近世經濟界の趨勢も如何ともなす可からざる農業の特質たる土地と相俟つ事言ふまでもなし。然らば加州農業界に於て、同胞の經營する分類如何と云ふに、已に説明せるが如く加州の農業は蔬菜果物にあるを以て我農民の之に適合せる、至る所可ならざるはなしと雖も僅かに園藝農たる花卉栽培の反別三百エーカーを有するを見、砂糖大根耕作反別二千エーカーを算するは大根培養の方法風に我同胞の經驗を有するによるのみ。五百エーカー以上を獨力にて經營するにあらずんば大農にあらずとせる現今の農業に於て、廣漠なる土地を有しながら、耕作物の自ら然る可き原因をなすとは云へ、我同胞の企業の小規模なる、依然として京都の箱庭を想起せずんばあらざるなり、遠大の思慮なく、圖南の志望なき、寧ろ憐む可き也。しかも是れ皆農作豊饒一攫千金を掌握するの僥倖に際會せば、直ちに故郷に還らん事を思惟すれば也。夢は常に故山、米國歸りと謳歌さるゝの邊を繞るを以て也。農三部商七部と稱せらるゝ加州の農業、我同胞にして生産及び販買組合の設立なき、たゞちに之を立證し來るなり。ア、永住、是れ一片の好辭令のみ。然り一片の好辭令、政治家的口吻の

有し、安價なるものゝみを販賣せざるべからざりしが故、數量多大にして、價格尠少なりしが、東部諸州より移住し來れる資本家の増加と、日露戦争後、日本を研究せしと同時に、聊か日本趣味を解するに至りしより望を囑するに足たん。たゞ遺憾なるは我日本品活殺の權、殆ど支那人商業家の掌裡にあるの一事なりとす。舊態墨守長髪を垂れて、利を争ふに生命を以てする彼清人、名を避け實を獲るに汲々たる不靈漢は、孜孜として蓄財に餘念なき事春風秋雨、加州の地に於てのみにて、約五十年、實力充溢の結果は、彼の支那街に蟠居して、白壁丹軒宏壯なる建築物の裏に、日本美術骨董雜貨を陳列し、我同胞の同業者をして渴仰せしめ、嘆息せしめつゝある也。鐵道枕木、流黄の如きは三井物産の專賣とも稱す可く、落花生、花蔴の數品僅かに我同胞居住者の手中により供給され居るのみなれば、實際に於て外人相手の商業は到底誇示するに足らざる也。しからば之を内國人即ち同胞を得意とする商業に就て見る、食料品酒類に附隨して起れる營業のみ、食料品商の得意とする所は、各地日本人農業者、商業家、料理店等に供給するのみにして、如何に大なるも在留五萬人の欲望を充たすに過ぎざるのみなれば、是亦事々しく記述するの價値あるなし。最後の内外人を顧客とする業は半は是れ工業に屬す可きものなるが、洗濯業及び洋食店、製靴併びに修繕業の三者は、我事業中最も刮目すべきものたる也。如何に不景氣の風吹き荒むとも、一食十五仙の食料を拂ふ能はず、破れたる靴を穿ち垢衣洗濯する賃なき程に窮乏するの加州にあらざれば也。是れ此三者

最も迫害の晚餐を供されし所以に他ならず。就中靴工の白人より壓迫せられしは最も早く、遂に購買同盟を結び、靴工同盟を設立したる動機即ち茲に存す。洋食店に對する同盟非買を企てしは火災後單に桑港に於て起りしのみにて他地方は此影響を受けたる事あるなし。たゞ洗濯業に至ては、最近の活動物質的文明の機械を利用するにより、彼の清人同業者を凌駕し、其他白人をも後に瞻若たらしむるものあるよりして、現今其反抗運動の熾烈を招ぎ、是亦靴工同盟に模し購買組合を設立し名けて共同消費社とす。左に加州日本人營業別中重なるものを掲げん。

- ▲食料品及び酒類販賣業二百▲旅館及び下宿屋三百▲貿易商五▲美術雜貨商八十▲洋食店百二十
- ▲日本料理店二百▲球戯場百二十▲洗濯業九十▲洋服店七十▲洋服洗濯業三十五▲靴工百六十▲
- 運搬業四十二。

右の表を一瞥せば我同胞商業の如何は無言にして、説明し得たるものに等しき也。我商人は遺憾ながら、現今の有様にては好望なる未來を有すと云ふ可からざる也。蓋し彼の靴工に於ては、洋食店に於ては、洗濯業に於ては、一人其業に従事して調子よく營業し居るを目賭するや、恰も蟻の甘に就くが如く、相後るゝを怖れて同業を開始し、無益の同志打をなしたる擧句、白人の眼を實力以上に刺激し遂に排斥迫害を招ぎし痕跡、歴々として指摘し得べきを以て也。

之を要するに我同胞の商業の如きは未だ言ふに足らず、移民に附隨して餘儀なくされし一種の事

業なりと云ふの適切なるに若かざる也。然りと雖も山來新開地の常態として、購買力の人口の數に比して大なるは、營業者の多き原因なりとす。殊に生活困難なる故國より來りし下等勞働者の、金錢を獲得するの容易なるを以て、新生涯に投入されし感を抱き、土臭き絃聲鳴り、廣島市や熊本市を以て天下の大都會と思惟する如何はしき婦女子の献酬を掌る料亭に一夕賣汗の錢を抛つ者擾々たるより、意外なる日本品の輸入を見るありて現狀を維持するに過ぎざるのみ。

▲同胞勞働者の現狀 其旅券面よりすれば、布哇より來れる以外、我在留者間勞働者の存在する筈なき也。而かも實際は全然之に反す。横濱埠頭、故山に告別して、漫々又漫々たる太平洋の航海中そもや何を夢みて來りしぞ。貯蓄も研究も、皆勞働の後に思惟せしや必せり。昨日に利あらず布哇轉航も直接渡航も不可能となりし今、我勞働者の現狀や如何に。之を記せんとして、先づ涙潸然だらざるを得ざるなり。

家内勞働に於て最も健全なる志想を有し、確乎たる信念を有するは、一週僅かに一弗五十仙より二弗五十仙を供せらるる學僕(スクールボーイ)と稱して通學の餘暇一家の主婦を補助し食事等の手助をなすものにして飲食及び住所は就働先より供與され居る者也、蓋し家内の勞働は皆然り故に給料は純然たる收得なりとす)以外殆んど他の職業に従事するものに於て尋見するに苦しむ。料理人(クック)の如きは勞働者中最も高額の給料を獲得する者にして其長に至れば同胞にして百弗内外

の給料を獲得するあり、平均に算するも三十五弗を下らず、給仕人(ウエーター)も亦然り、掃除人(ハウスオーク)の二十五弗、洗濯人(ランドリー)の四五十弗なるあり。皆孰れも掌中に入り來る賃銀は純然たる收得なるを以て、貯蓄せんごせば年二三百弗は容易なるに係はらず、彼等の多くは勞働を停止して、所在の市(シティー)町(タウン)に出で來るや、粒々數ヶ月間汗を流して收得せる貴重の金錢を、一夕の宴會、紅燈綠酒を喚むで意に満つるあらんか、酌に侍するの賤婦に五弗十弗の金貨を纏頭として惜しむの色なく、醉歩蹣跚青樓に至り、豪然熱を吹き財を散する恰も水の如きは未しも。彼の博賭場に足を踏み込み一六の輪贏を争ふて一敗地に塗れ呆然冥夢より醒めたるが如く、今更らに清人懐中の肥料となりしを残念と切齒するも如何せん。再び桂庵より勞働口を得て之に赴き、フライパン(コック鍋の一種)の油を磨き、イエスマンを繰り返し、ブレッドを焼き、コーヒーを運び、月經の附きたる下着を洗濯し、カーベットの塵埃を吸ひ、飼養の愛犬同様尙も大和民族、神洲男兒にして、チャレーと呼び倣され、デョージと輕侮されワン／＼と三度吠ゆれば此嗜好物を投げ與ふるごまで侮辱され猶且つ忍耐して勞働する者、そも何の目的ありて然るや。ア、何等の恨事ぞ、先きに失敗せし賭博の金錢を廻收せんが爲めなり。しかも取り返さんとして捲き上げられ、取り返さんとして、復た捲き上げられ、一轉再轉又三轉、遂に勞働の目的は清人に對して義勇奉公を取てするの一大奇觀を呈出しつゝあるよそ是非なけれ。若し夫れ眞面目に勞働し

貯蓄する者は、會ま之れなきにあらざるも、夙に男兒的氣魄を消磨し、所謂雇人根性を助成して宛然料亭の酌婦の如く、一片の心付け「テップ」の多寡を勘定するより能事なく、其貯蓄して何を爲さんとの定まれる希望あるなく、強いてありとせば妻を迎ふるか、歸國するの二途あるのみ。故國に送金する者は十中三四に止を刺すのみなり、而かも云ひ得べくんば送金者を以て華となす可き歟要するに彼等に向て大和民族の天職を説くは熱帯地の蠻人に向て氷山の存在を説くよりも愚也。然らば農園或は鐵道に勞働する者は如何、其境遇よりし四邊の情況よりすれば家内に勞働する者よりは清新也、健全也、篤實也、しかりと雖も故國田園に於ける男女間の陋習惡慣を遺憾なく發揮して姦通に、墮落に、其風俗の亂倫なる、少しく心ある者をしては眞に觀感せしむ、而かも彼等は之を尋常茶飯事の如く心得居るなり、人あり彼等に説くに人道の大義を以てすれば、彼等は如何なる國に斯くの如き規定あるかと反問するなり。彼等は自己責任の重す可きを知らず、契約は必らず履行せざる可からざるを思はず。一攫千金の惡夢に魅せられて、旅ならぬ移民地に日々耻を晒して得々たる也。かくて一年は鐵道工夫となり、塩田に二ヶ月、伐木をなす事一週間、鑛山に入り、炭山に走り、以て歲月の消ひ行く事を知らざる中、何時とはなしに、滞在年限の長さを屈指するに至りて、自暴自棄し、遂に鬼殺と稱するウキスキーを被りてポテト臭き怪爛を吐くに畢るなり。しからざる者にしても、成功熱に浮されて不健實なる企業を敢てする者多く、會々眞面目の勞働者あれ

ば極端より極端に奔りて、小麦粉を團子としたる味噌汁か、高野豆腐乃至は干瓢を一年三百六十五日の副食物とし營養不足と過度の勞働とに、勞働者唯一の資本たる身軀を脆弱ならしめ、歸國の止むを得ざるに至る者比々皆然らざるはなし。故に見るべし我家内勞働者の需用は近來頓然として減少したるにあらすや。田園に於ては契約不履行の弊舉りしにあらすや。在留社會唯一の財源は、新たに供給すべき途なきに拘はらず、需軍減少の奇觀を呈す。此一事是れ我勞働者の嫌忌され居る適證にあらすとせんや。

由來海外に往住する國民は、其移民たると殖民たるとに論なく、母國々民の反射鏡にして本國人間に於て試験するより、異國民間に於て之が長短を觀るに容易なりと云ふの説は、北米に於ける我民族に適用し能はざるなり。若し適用し得べきものを討求すれば、歸心矢の如き唯一事のみ。送金額の如きは即ち他の營業企業家に比較してある、大なりと云ふ可きも、之を他國民に比較し來れば實に雲泥の差と云はざる可からず。遠く壹千九百三年に於て埃國移民の北米よりせし送金は一億九百萬クラウン（一クラウンは我一圓廿五錢）あり。素より、人種を異にし、貨銀を異にするを以て一概に其多寡を以て標準として論するは偏見たるを免れずと云ふも、彼を思ひ是を想へば寧ろ悵然たらざる可からざるなり。論者或は云はん此の如きは排日本人の影響のみと、然れども排日に反對する唯一の論據は家内のにもせよ、農園的にもせよ、我勞働者の需要を欲するが故なりと云ふにあら

すや。

我國民の短所はを好み、實を採るに拙劣なるにあり。労働者の多數は其名に憧がれ、一宵の痛飲、紳士と目されざるを遺憾とし、金錢を抛て暗に卜せんとするの風流にあらずして、紳士の待遇を購はんことす。此一々此慾望と殺風景なる米土の風光と相結晶して、労働者としても猶未だ十分な發展を認むる能はざる也。然と雖も、加州は労働者の天國也、極樂也、理想郷也。我同胞にして一日八時間の家内労働をすれば優に二弗を得るなり、即ちデーウォーク（一日働にして概して家の掃除をするもの也）をなすも一週間十二弗を得ん。一日の食料を五十仙とし一夜の宿泊料を十五仙とし、煙草代を五仙とし、洗湯代を二十仙とし、雜費を十仙と計算するも一弗は貯蓄し得る也。況んや一家を借り受け自炊の方法に據る者に於てをや。何等の道具も有せず、單に床上を掃き、階段を洗ひ、窓を拭くのみにして天下何れの所に一日純所得一弗を手にし得るものがある。而かも此二弗の賃銀は最低位なるに於てをや。屈辱を忍び、目的を確立し孜孜として倦怠するなくんば、北米の地、労働者の所得に及ぶものあらざる可きなり。殊に農園に於て然るを見る。

▲加州産業界に對する同胞の功績 在留同胞の状況は既に記述せるが如し。即ち農業者は徒らに一攫千金の夢を追慕し。商業家は新發展の途なきより同一事業を濫りに開業して同胞相反嚙したる結果排斥の材料を供給し。労働者は貯蓄心なく、企業心なく、其日暮しを以て甘じ、貴重なる賣汗の

錢を清人博賭場に獻上し、料亭半夜の鄭聲に抛て顧るなきなり。しからば我同胞は加州産業界に對して何等の功績だもなしとせん歟、夫れ奚ぞ然からん。

自由、博愛、平等を呼號するの彼等白色人種は、たゞ彼等同人種間の自由博愛平等にして、異人種は此三福音を享受すべき權利なきものと思惟する也。かの宗教家の輩如何やうに陳辨すればとて彼等の心底に潜む思潮は時々刻々鋒芒を現はし來るぞ是非もなき。彼等は異人種に對して平等と自由と博愛の裙分を供せんとする者也。重箱のまゝ提供するを肯せざる也。世間任々にし見るが如く士道の頹敗を慷慨するの熾盛なるは半面士道の衰微をも意味するに等しく、勤儉貯蓄を唱進するの政治家あるは其必要ありて然るものあり即ち世の滔々として驕奢華美に流るゝを警むるにあるが如く。白色人種の三者の福音を旗幟とし蠻地開拓の天職を有すとすする深意は、他をして自己より下位に置かんとするものなり。加州現今の鐵路をして完膚なからしめ、金鑛の採掘により此盛況を來たさしめたる、大恩者の支那人に對して彼等が感謝せし表彰は、遺憾なく、之を曝露したるものと云ふべし。彼等は平然恬然として德に報ゆるに排斥を以てせしにあらずや。甚だしきは露人のブラゴイチンスクに於けるが如く、始皇の儒者に於けるが如く、清人労働者に賃銀を仕拂ふを愛惜し遂に之を坑にしたるにあらずや。蓋し加州は各國人足の集合所なり、英より來り、獨より來り、佛より來り、西より來り、伊より來り、露より來りて、産業を營みつゝあるなり。而して我日本人の産業に

對してなせる功績は埋没して、彼等の間に認められざる也。たゞ勞働賃銀を低廉ならしむる下等移民としてより認められざる也。而かもサクラメント平原に、サリナス地方に、フレズノ地方に、加州所在の農園に於て、無意識ながらも我二千五百年來不斷に積みたる經驗を以て蔬菜園藝農業の改良に資せしは争ふ可からざる事實也。彼等白色人種の手を措て傍觀せし荒蕪地を我移民の渡航によりて生産地たらしめ、果物類の摘採期を過たんか、價格下落して次年度の企業を害する事尠少にあらざりしを、我移民によりて漸く救済し得たる恩は何處へやら。例を擧ぐればフレズノ地方に於ける葡萄摘採に就て日本人排斥の巨魁タービー某すら我同胞を埃つが如きあるを以ても明白也。而かも我移民は既記せるが如く政治上の壓迫により渡航したるにあらずして、經濟上自然の狀態、事茲に至らしめたるものなるが故に、他國人に比して其雇主より見れば、單純にして且つ從順也、政治上の智識少なきが故に自己の資財せし事業を知らざる也。知らざるを以て之を吹聴する事を理解せざるは當然なり。是れ其所得僅少にして功蹟多大なるに拘はらず、認識せられざる所以なりとす之に反して彼等白色人種の勞働者は、其國狀の相似たるあり、殊に純粹の勞働者と雖も、多くは政治上の壓迫を免れんとて、此自由郷に來りし者なるが故に、官憲及び故參移住者に對する政策は頗る巧妙を極む。獨人の如きは加州の政權をすら掌握したりと云ふにあらずや、是れ適切なる例證なり。しからは彼等白色人種に愛國心なきか、祖國を愛するの念慮なきか、曰く大にあり、彼等が化

して米國人となり乍ら、其送金額の大なるは、是照々として愛國心の存在を皎著ならしむるものにあらずして何ぞ。素より我民族の如く先天的に愛國の至情に富むにあらずと雖も、伊人のローマを説き、獨人のカイゼル陛下の偉大を信じ、佛人の巴里の華麗を喋々して、常に憶がるゝは、争ふ可からざる事實也。乍ら至情より湧出する我民族の愛國心と彼の唯一出生地なるが故の愛國心とは自ら途を異にするは勢ひ熄む可からざるなり。乃ち彼等白色人種は平然として政策上米國の主權は吾人にあり、吾人にあらざる可からずと説くと雖も、我民族の至情は米國の主權は米國自身にありと謂ふに至る。茲に於て主客となるは明瞭なる所なり。しかりと雖も彼等米國人は一身二様の愛國心を有する者なり。熟思すれば噴飯すべき愛國心也。しかるに彼等は着々成功し、我民族の貢獻せし事項の煙没するは何ぞや。曰く東洋の異人種なるのみ。嗚呼加州に於ける日本人排斥の可否は姑く措きて論せざるも。一言すれば、妖狐、老狸、相提携して、義に富み、信を有する番犬を追はんとすと云ふ可きのみ。

▲母國に對する在留同胞の貢獻 移民としても完全なる意義なき在留同胞なれば、其母國に貢獻せるの多大ならざるは素より恠むに足らざるなり。しかれども時に獨特の國民性を發揮して、萬葉の花を思はしめ、百練の鐵を偲はしめたるもなしとせず。

有は無に優るてふ見地よりすれば、我同胞の發展の程度も、最初の一より十に、十より百に歲月

につれ、進歩し、同胞にして消費する本國産出品、一ケ年約百萬弗。送金額七百萬弗、歸國者の懷中より本國に流入する者二百五十萬弗（一人五百弗とし五千人と概算して）ありとして喜ぶ可き現象なりと云はざる可からざるも、并は在留同胞の數増加せしによるものにして、寧ろ當然たる也。否以上の消費額と、送金額と、流入額とは各國民に比して大に遜色あり。且つ本國産出品の消費の如きは、彼我の俗習慣を異にし、飲食物を特にするより起るものにして、歐洲移民の如くんば、或は怖る更に消費せられざるを。猶一步を進めて論ずれば、日本米及び清酒の消費せられざるを以て却て本國を益するものと云ふ可きなり。蓋し世人の熟知する如く我日本の食料は人口に比して頗る小量なればなり。識者の植民地政策を誦道し移民政策を絶叫して已まざるは之が爲めなり。同胞の夙に在味に深淵に北米に足跡を印したるも即ち之が爲めにあらずや。詳言すれば此北米に於ける在留同胞は、植民にあらざるを以て本國生産の過剰を需求し本國に向て食料品を供給するは不可能にして、且つ本國産出の食料品を消費するは却て本國生産界に貢獻する所以にあらざるが故に、獨り送金額の多少に準據して、其貢獻の程度を商せざるべからざるにあり。しからば我同胞の本國に對して貢獻せし實質は洵に小なるものと云はざるべからず。しかり小なるは誰か疑ひ得べき、たゞ一の大なる貢獻せしものあり何んぞや、他なし非常の際に非常の決心と覺悟を有せし事即ち是れなり。日露の風雲蒼りに險惡の兆を呈し來るや、日本國民たるもの威心竊かに恟々たりしが中に

も、身荷も海外にありて、國旌の振不振によりて直接外形的に打撃を蒙るものは、海内の同胞以上に痛心せざる可からず殊に衆愚是れ事とし、一戰一勝により向背常なき北米民種の間介在せし同胞に於てをや。獻金々々の聲は何處よりともなく起り、本國の貧乏を呼號するあり、露の雄大を叫ぶものあり、喧々囂々たる中、各縣人會は立て報公會を作り、市内の在留者と云はず、田園の居住者と云はず、無賴漢も、醜業婦も、等しく報公の大義を感知したるは是れ大なる貢獻にあらずして何ぞや。一々明細に記載するを得ざるは遺憾なりと雖も、桑港領事館取扱高のみにても軍費金十三萬弗、愛國婦人會支部の送金額三千三百五十九弗（此會員數二百二十七人）赤十字社入社金四千四百三十五弗、同寄附金千六百六十二弗あるを以てす、在留同胞は此一點に於て大和民族なりと謂ふを得べきなり。漫りに金高を云々する勿れ、精神の貢獻はれ物質を凌駕するにあらずや。筆路餘波に渡るが如しと雖も、我民族の精華は即ち此に在す。例令植民に失敗し移民に蹉躓し、外交に於て長蛇を逸失し去らんも此の精華の我民族にあらん限りは、安じて可なるなり。しかれども我在留民の此一事は非常の事。平常の覺悟にして向上するなくんば非常の際遂に非常の覺悟をなす能はざるに至らん。要は我同胞たるもの經濟界の戰爭を忘却せずして母國に貢獻すべきにありとす、是れ編者の婆言のみ。

▲同胞の金融機關 其意義よりすれば、金融機關即ち銀行の興廢の如きは經濟界の活動と沈滞とに

左右せらるゝ可きものたり。換言すれば、餘裕ある資本を不足せる場處に轉換せしめ、其の媒介料を營業所得とする銀行に於ては、其種類の、預金銀行たると、貸附銀行たると、割引銀行たると、爲替銀行たるとに論なく、皆な經濟状態と一致せざるべからず。況んや預金も貸附も割引も爲替も借に共に取扱ふ銀行に於てをや。殊に況んやたゞ日本人間といふ一の範圍に營業するものに於てをや。而かも經濟界の恐慌にして一時不安の念に驅られたるに原因するものごせば、之を救済するは銀行の力に存在すと強も。他に原因する、例令ば農業上に起因する恐慌の如き、貨幣政策を誤れる恐慌の如きは、到底銀行の如何ともなす能はざる所にして、此潮流に反抗して、掉さゝんごすれば直ちに其渦中に投入されて破産するより他無けん。特に小資本を擁する銀行に在りては、貸出を引き締め、たゞ預金の取付に供ふ一方法あるのみ。我同胞間の銀行業者とて、豈此數を出づるを得ん。しかるに一昨年より起りし世界經濟社會の恐慌につれ、米國に於ては有數の銀行破産せるものさへ尠少にあらず、又我在留同胞も此餘響を受けて、農業者は收穫物の停滯に苦しみ、商業家は營業の思はしからぬに不景氣を繰返し、勞働者は就働口なきに困難し。帝國銀行扶桑銀行の二個破産せるありしが之れと相前後して四十年十月サクラメント市に櫻府日本銀行の設立あり、四十一年二月にはオークランドに王府貯蓄、王府日本の二銀行及びフレズノ市に布市勸業銀行の創立を見、同年三月桑港に於て合名會社會社會金門銀行と株式會社桑港日本銀行の合併したるあり、同年十月に

フレズノ市に神川兄弟銀行の設置せらるゝありて、經濟界の恐慌と相反比例して、金融機關の勃興を招きたるなり。編者ば之に對する評論の筆を把るものにあらず、故に其是非は暫く問ふを敢てせずと雖も此一事を以て我國民の大なる短所、乃ち名に拘泥して實を得ずてふ事を遺憾なく發揮せしものご云はずして何んぞや。しからは現存する銀行の状態は如何。最も古き歴史を有する日米、金門二行を記して之に答へん。

既に已に記載せるが如く三十二年以降、同胞の渡航者、日本より、布哇より每便船増加の一方に傾斜するや、隨て同胞社會凡てに於て活氣を帯び來り、こゝに金融機關設立の必要一部有志者間に唱導せらるゝに至り遂に三十二年安孫子久太郎、佐藤信忠、津田立一、笠原養太郎、中村東吉、市橋俊三、等六名合資組織の日米金融社の創立を現實にせり。かくて同年市橋俊三に代りて中村東吉支配人となり、三十六年九月日米銀行と改稱するや、植田憲三入りて頭取となり、而して翌三十七年には竹川峯太郎を支店長に任じてロスアンゼルスに支店を開設し次て三十九年二月株式組織とし間もなく四月の震災に類焼したり、此株式會社となるや、中村東吉歸朝、現支配人皆部梅太郎其椅子を継ぎ、同年十月ユタ州オクデン市に支店を設け、支店長に市村三郎を擧げ、更らに四十年十二月横濱市に支店を開設し、市川好廉を代表者とし、藤田禎經を支配人とせり。以上は是れ同行の變遷なりとす。しからは同行の現況は如何、其資本は二十萬弗にして悉皆拂込済となり、預金總額六

十萬弗平均を示し、總貸附金額四十萬弗内外なるを見る。此他他店勘定及び荷爲替手形の額の如きは煩瑣極まるを以て略せん。此日米銀行の株式組織となりし前三十八年には桑港仕留商人の重なるもの、主唱により桑港日本銀行の設立を見たり、其重役は加藤誠六、駒田常三郎、松崎愛熊、高山喜三槌等也。しかれども加藤誠六の死亡するや四十一年今名會社金門銀行と合併するに至りぬ。

三十九年四月の桑港震災は我同胞社會にとりては今よりして觀察すれば、實に發展を害したる事非常なりき、しかれども我同胞の此後たる非常の際に於ける反撥心は、一時慘憺たる災後の状態に沮喪せしめしが、暫時にして猛然として恢復し。各般の事業病的に勃發し前途の險夷を顧慮するに遑まなかりしなり。是れ寧ろ當然のみ。誰しも天災に次ぐに人事界の波浪狂湧我同胞を根底より洗滌せんとする者あるを豫期せざりしを以てなり。しかも況んや震災前に於てをや。此年二月美術雜貨商として多年實力を養ひし柴田又吉、同徳二郎、宗方茂八等は十萬弗の資本金を以て今名會社金門銀行を創立し、間もなく新燒に遭遇し、諸般の設備をなして開業するや、自然界の一微動は、人心をして古なく新なからしめたる際なりしかば、一躍苦心經營の功を有し最も古き歴史を有する日米銀行と比肩するに至れり。斯くて新興の盛運頗る見る可きものあり行務漸く圓滑ならんとするや此年十月白奴の強賊二人白晝公然燒跡の瓦斯管を携ひて同行に入り、支配人宗方茂八、行員佐々木確を毆打し、宗方は即死し、佐々木は辛じて一命を取り留めたる慘劇あり。而して行金は彼等盜兒

の掌中に歸したりと傳説せしに、多少の頓挫を招きしが、直ちに名和陽一を支配人とし善後策を講じ、遂に昨四十一年桑港日本銀行と合同して株式組織とし、資本金を五十萬弗となし、ローサンゼルには、支店長として前桑港日本銀行の支配人たりし田和玄之太をして其任に赴かしめ、而して横濱支店は頭取柴田又吉自ら行務を監督し居れり。同行現在拂込済資本金は十六萬弗、預金總額六十萬弗平均、貸附金高五十九萬弗内外を示せり、最も古く又た最も大なる二行の過去現在は斯くの如し。他地方の銀行を一言すれば、王府の二銀行設立の動機は、桑港震災後、難を避けたる同胞の多數なりしに起因し、其二個設立の原因に至りては、たゞ感情によるものと云ふ可きのみ。果然此稿を草しつつありし際兩銀行合同の議起り遂に決行せり。櫻府の銀行に至りては、サクラメント平原に散在せる我同胞労働者の預金を吸収し、爲替を取扱ふを以て唯一の目的とするにあり。しかもフレスノに於ける二個の銀行は是れ頗る觀を殊にし、一種の勢力争ひに起因するものと云ふ可きなり其外觀の美、内容の實力は各地の状況と共に詳細に記せるを以て茲に之を省略せん。

乃ち知る可し我同胞の金融機關は、金門、桑港日本二銀行の合併及び王府二行合同以外、經濟界の趨勢に反して興り猶且つ存在するを。而かも怪むを要せず、是れ亦其個數の増加にして、實質の發展にあらざるを。疑ふ者あらば、桑港日本銀行と前後して設立せし伊太利亞銀行の現況を見よ蓋し思半ばにし過ぎん。

附記す此稿將に上梓せんとするや、金門銀行は險惡なる潮流のため一時閉鎖し、紛々として未だ収まらざるなり。

▲渡航及び歸國人數と死亡併びに出生數 我國民の海外に移住する數は、歐洲諸國民に比較すれば及ばざる事頗る遠遠なり。最も多數の移住者を出だせる明治三十二年度の三萬一千餘人も、總人口に比すれば、一萬人に付僅かに七人の割合に過ぎず。之を海外諸國に就て見るに、アイルランドは二十四五年の頃七萬三千人を出し總人口の(百六十パーセント)に當り、イタリーは二十九萬七千人にして(百パーセント)に當れり。此二國は人種上の偏見と(即ちアイリッシュと稱され下等視せらるゝが如き)政治上の壓迫あるが原因をなすが故に例外とせんも、イングランドの十七萬人を出だして約六十(パーセント)に當り、ドイツの十萬五千人にして二十三(パーセント)スベエンの七萬一千人を出だして四十(パーセント)に該當するあり。是に由て之を観る我海外移民の如きは未だ以て云ふに足らざるなり。加ふるに我移民の移住年限の短期なる長くも五個年を出でざるに於ては、漫りに彼等歐洲の移民が永住の地と目睹して赴く者と比較し得べきにあらざるなり。しかも我國と生活状態の難易高低の差太甚しき當北米太平洋沿岸の如きに到ては、渡航上陸して簡單に自由なるものとせば、自然の大勢上我移民をして増加せしむるや必せりと雖も、たゞに艱難なるのみならず、迫害排斥は所在到處に烽起して、宛然文明國民の義和團化せしにあらざるかを疑はしむ

るあるより、渡航人數と歸國人數とは、漸時權衡を失し昨四十一年度下半年期即ち六月より十二月に至る六ヶ月間に於て我國より渡米せしもの、總計一千三百五十四名にして、歸國せし總數三千五百名あり、しかも歸國せし者の中三等船客、三千餘名に達せしは實に注目すべき現象なりと云はざる可からず。以上の統計よりして我在留民社會は二千四百四十餘名の在留者を失ひしものと云ふ可き也。しからは死亡及び出生數の割合は如何なる状況にありや。もし夫れ此一點により、在留民今後の運命を龜卜し燭照すれば、暗夜一道の微光の輝くを見ん。

●明治三十二年度▲出、五人▲死、四十九人▲差引死過數四十四人。三十三年度▲出、十八人▲死四十八人▲差引死過數三十人。三十四年度▲出、四十人▲死、百三十五人▲差引死過數九十五人。三十五年度▲出、五十二人▲死、九十四人▲差引死過數四十二人。●合計、出生數百十五人。死亡數三百二十六人。差引死亡者超過數二百一十一人。

即ち死亡者の數、出生者に超過する事約三倍たるなり、しかるに三十九年以降は之に反し左の表を現出し居るなり。

●三十九年三月以降。▲死、二百人▲出、二百二十八人▲差引出過數二十八人。▲結婚數七。▲私生兒認知届四。●四十年度。▲死、三百七十七人▲出、五百二十四人▲差引出過數百五十四人。▲結婚數六。▲離婚數二。●四十一年度。▲死、五百七十五人▲出、壹千三十四人▲差引出過數

四百五十九人。▲結婚數百二十▲離婚數十一▲私生兒認知届五。●合計、死亡數壹千四十五人
 出產數壹千七百八十六人。差引出生者超過數六百四十一人。▲結婚者數百三十三。▲離婚者數
 十四。▲私生兒認知書九。

之を以て看るに、三十五年に至るまでは、死亡者の數出生者の數に超過したるに、三十九年以來其
 反對なるを了解し得ん。たゞ其趨勢を目睹すれば乃ち知る可し一燈漸く在留民社會を照らし居るを。
 然りと雖も仔細に觀察すれば、是れ亦三十二年以來の墮勢により保持したるものなりとす。猶結婚
 數離婚數且つ私生兒認知届の少數なるは、決して健全なる状態を説明するものにあらざるを知らざ
 る可からず。在留民社會亂倫の風調熾烈にして、紛擾と云ふ紛擾、殆んど一として男女間の痴情に
 他ならざればなり。浮草ならぬ在留の婦女子の昨は甲郎に據り、今は乙郎に靡くを以て結婚も結婚
 ならず、離婚も亦離婚ならざるなり。故に私生兒の生るゝも、之を認知するものなき、勢ひ無藉た
 らざるを得ず。極言すれば之を認知すと雖も其養育の責任を果たす能はざるより、産婦と出産兒と
 を抛擲して顧みざるなり。産婦も亦強へて之を争ふ能はざるは、平常の舉動自ら然らしむるのみ、
 斯くの如くにして、我民族の子弟は一種の畸形兒となりつゝあり、嗚呼是れ果して誰の罪ぞや。
 色に飢え、肉に渴し、小刃を振り、短銃を發ち、所謂警察事故を起すの原因は婦女子の少きにあ
 り、否婦女子の少きにあらずして、我在留者に適合する婦女子の少きに存す。即ち我在留民中我婦女

子の少數なるにあり。人は皆な君子聖人にあらじ、其原因を訊して之を救濟するは、是亦我在留民
 社會先覺者の責務にあらずとせんや。

▲加州日本人慈惠會の過去及び現在。自ら文明の洗禮を受けたりと云ひ、自由を愛し慈善を好むと
 誇稱する米國なれば、一見する所實に然るが如し、而かも其裏面を觀察すれば、汚穢眞に驚く可き
 ものあり。漫然幾百萬を投じて教育費となせり、教會に寄附せり、慈善病院を建立せりと云ふも、學
 校は學問の商賈、教會は婚姻の媒介所、病院は親切の賣買所たるに過ぎざるなり。名は慈善病院た
 り、實は偽善病院なり。病者にして診察施設を受くるの資なき者を收容すべき病院にして、却て公
 々然金錢跋扈し、情實跳梁せざるはなし。我同胞にして一度爰に到らざる可からざる運命に接すれ
 ば、實に四千涯外、暗涙潛々として下り、文明國の慈善事業に吃驚し、身未だ癒えざるに、心正に
 死せん。況んや加州の如き我同胞を以て人間以下に目する者の多き土地に於てをや。加州日本人慈
 惠會の起る亦已むを得ざるに出でたりと云ふべし。特に我移民は實際に於て富裕ならざればなり、
 否各國の移民とて富裕なるにあらずと雖も一言白色人種に及ぶ、我同胞の如き取扱を受けざるは事
 實之を證明して、疑を挿むを容すなし。

三十年前後より我同胞渡航者を増加したるよりして、病に襲はるゝ者、災に罹る者、漸時多數と
 なり、故山に歸臥して保養せんとするも、費なきに苦しむ者自ら生じ來りしかば、茲に之を救濟せ

んとして、三十四年二月此會の創立を致したるなり、今左に其趣意書を記さん。
五千涯の海波遠く故國を離れ此のカリホルニアの地に來住する我日本の同胞は日に月に其數を加へたり、而かも其中の最も多數は未だ一定の家居をも有せず、只管自己の身體を資として稼穡或は勉學を事とせる者なれば、時として病氣其他の災難に罹り困窮に陥るに方り之を助くる者なければ其不幸言語に盡されず、此故に近來は在留同胞の間に或は職業の同じきに由り或は目的の同じきに由り、或は出身の地の同じきに由りて組合又は會合を作りて同心一致團結して緩急相援くるの用意をなすもの少からず是れ誠に喜ぶべき現象なりとす。

しかれども是等の會合或は組合は孰れも其範圍を一部分に限り、未だ汎く在留同胞全体を通じて職業身分故郷宗旨等の異同を問はず、専ら博愛慈善の働きを爲すの目的を以て結ばれたる會のなかりしは皆何人も私かに遺憾とせし所なるべし。此故に今回在留同胞の仁慈に依頼して茲に純然たる慈善會を組織し、而して其の主働者は婦人之に當り亦た各宗教團體の布教者教役者其他公職にある人々も其事務を補佐する事とし、廣く同胞の寄附を醜集して其目的を達し、一には困窮せる同胞の扶掖をなし、二には我國民の體面を此人種競争の巷に維持せん事を期す、願くは加州在留の帝國同胞たる人々は老若男女の別なく、此會に加入せられん事を切望の至りに堪えず。

此趣意書に記載し居るが如く、加州日本人慈善會の特色は、宗教臭味を帯びずして、日本古來の仁

愛趣味を有するにあり、言を換へて云はゞ武士道的精神に基くに在り、現代の語を以て謂はゞ教育勅語に準據したる日本主義なりとすべし。古來我同胞は恩を他に售りて他に誇稱するを非常に耻づ故に彼の賤しむ可き賣春婦猶且つ義侠の何たるを解す。加州に在留する我婦人奚ぞ慈善の何んたるを解せざらんや。しかれども人は又虚榮偽善の動物なり、少數者より醜集したる金錢を以て慈善事業をなさんか、往々にして有爲の所作となるを免れず、即ち歐米の如く病的慈善に墮落する事なしと限らざるなり。茲に於てか可及的多數者より喜捨を仰ぎ、同胞全体の慈善事業として同胞の不運者を救済する組織となせしは、例令規模小なりとは云ひ、其精神範とするに足らん。

團體として野心を抱藏するもの無きは、其團體をして發展せしむる唯一の策たり、慈善會の如き之を表徴して餘りありと云ふべし、たゞ其目的他人の不幸に同情するにあるを以て金錢を支出するにありと雖も、基礎の鞏固なる同胞間他に之に比儔する團體あるを見ず、又非難なき此會以外絶無と稱して可なり、かの三十九年の桑港震災に際し、罹災日本人救済會の殘剩二萬弗を同會に寄附したる以來、益々鞏固を加へ、現今の如きは基金の利子を以て、優に同胞の不幸者を救済し得るに至れり。たゞ惜む同會の救助を受くるは、多く桑港附近に在留する者にあらずして、各地方に散在するものたるに拘はらず、各地方同胞の同會の存在を認めざる一事を。而して救済を要する同胞の有るに際しては必ず同會の存在を認むる事を。

試みに同會の昨四十一年二月より本年一月までに至る人員を擧げ、桑港と地方とを色別すれば、被救濟者壹百二十一名の中、桑港及び附近は僅々三十一名に過ぎざるを以ても知る可きなり、而して同會現在の基本金は八千四百五十弗にして會員の數二百十四名を有す。

更に同會の爲めに記述す可き一事あり、同胞の死亡者を埋没する墓地の設定及び修理即ち是れ也在留民社會の草創に際して最も勢力ありしものは、云ふまでもなく宗教家なり、特に基督教國と云ふ可き當國に於ては、牧師宣教師等の同胞間に於ける威望は其監督者の概ね米國人なるよりして甚だ大なりき。然るに一方に於ては暗黒社會なる醜業婦に附隨する一團あり、勢望を到底前者に比倖する能はずと雖も、所謂經濟狀態に波及する事頗る大なるものあり、彼基督教一派の諸氏が矯風連動を事とし極力反抗せしにも拘はらず、其功果の尠少なりしは明白なる事實とす。事態斯くの如し基督教徒は支那人同教徒の墓地を當時の宣教師キブソンの好意により分與され居りしが、同教徒以外の死屍は博愛を顧みず、平等を念はずして埋没するを拒みしかば、猫額大の地常に紛擾を醸すの因をなしぬ。黒澤格三郎、安孫子久太郎等の有志者之を座視するに忍びず、時の市墓地監督官トーマスエーカーの許に赴き、日本人の墓地を下附せられん事を懇願したる結果、之を許され、三個所の地を與へ、其中一個所を選擇すべきを以てせられしかば、檢分の後ち金門灣頭東洋に去來する船舶を送迎し得るの地をトし三百五十呎に百五十呎を區劃して許可を請ひ、日本人總代醫士黒澤格三郎

の署名を以て下附されぬ、此地域を廻らすに塀を以てし、日本人共同墓地と扁額せり、時正に二十八年、是を日本人共同墓地の嚆矢とす。三十一年市法合により同所一帯墓地となすを禁せられしかば暫時の間ローヤルヒル墓地に埋没する事とせり。而かも何んたる事ぞや、彼等白色人種、文明の先驅者を以て居る慈善專賣の輩、同胞の死屍を埋没したる附近には、棺を埋むるを得ずと叫び出たせしより、已を得ず日本人墓地として一區を劃して借り受たり、しかれども約一ヶ年半にして之亦墓地たるを禁せられしかば、之に共同墓地設定の必要を來し、三十四年、慈善會の設立せらるゝや此附屬事業として、之を設立するに決し牧師吉村大二郎等加州聖公會の僧正ウィリアム、エオルド、ニコルスの紹介にて、ワイブレツス、ローン墓地の支配人ノーブルに就き適當の墓地の有無を聽きしにマウントオリベット墓地附近にジョージ、コクニアの所有地あるを以てせり。廣濶なる所有地の中僅々一二エーカーを分與するを肯せざりしが、幸ひ正金銀行支店長戸澤鼎の知人なりしかば賣却する事となり第一敷地としてアベーホーム、ステット、ブロック七十四を壹千八百二十五弗にて買收し、第二の敷地は加州サンマテオ郡のホルマ村、字クラーク、ツラクトホーム、ステット、ブロック十二の中、一より八までの全部及び十の一部を五百七十六弗にて買收し、之に初めて我同胞は、異郷一陣無常の刃風に誘はれて、白玉樓中の人となるも空骸骨かに地下に眠るを得る事となれり。日本人墓地を完成せしめしは、實に加州日本人慈善會たるなり。二百五十の死者、も

し靈あらば、幽明たごひ處を隔つとも、同會に感謝して可ならん。猶同會の役員左の如し

▲會長津田榮子 ▲副會長黒澤錦子 ▲幹事大山卯次郎、内田晃融

而して同會の前記墓地に對し昨年度支出したる總額は壹千二百八十一弗有餘にして、其中臨時費として墓地營繕費に投じたる金額は壹千九十六弗餘なり、是れ待合所の塗換、植木の手入れ及び買入等に消失したるものなりと云ふ。寧ろ外觀の美に過ぎたりと云ふべし。以上を加州日本人慈惠會の過去及び現在とす。

▲在米日本人會の沿革 在米同胞間第一流に位する有識者に由り組織され。唯一代表機關たりとの稱ある在米日本人會の沿革を記せんには、勢ひ移民初期の時代に遡りて原ねざるを得ず。

明治二十一年、河北俊弼領事として、桑港に來任し、在留有志者と相談し日本人會を設立し以て官民の調和を籌りしより、三十三年に至るまで唯在留民の懇和會たるに過ぎざりしなり。しかも三十年前後に於ては殆んど有名無實の有様にして、人心既に日本人會の名に倦怠し、其舉句には名も忘却せし程なりしが、在留民の増加と、機運は遂に新名稱を呼號して復活するに至れり是を在米日本人協議會とす。即ち名は新設なりと雖も、団体組織の濫觸は以上に起因したるものなり。

三十三年の春、桑港に黒死病の發生するや同胞の豫防注射を必要とするに際し、寄附金を募集し其殘餘金の處分をせんとするに當り、日本人排斥の聲高まり來りしかば、時の在桑港有志者は此殘

金を基金として、在米日本人協議會を組織したり。しかるに三十八年に至り、日本人排斥の氣勢はクロニクル新聞紙を急先鋒として、猖獗を極め、加州々會は、具体的案件を附して日本人排斥を合衆國々會に請願するの決議をなせしかば、從來の如き小規模の団体にては、到底折衝し得ずとし、各地方の日本人をも促がして日本人會を起さしめ、之と相聯合し極力排日の聲を鎮壓せん事必要なりとて、各地方遊説の結果、同年五月日本人聯合協議會創立總會を桑港市に開催し、正式に會を組織せり。而して其主義とする所は、加州に於ける日本人排斥の事情、日本人在留者發展の狀態を内外に知らしむるにあり。かくて或は代議員會なるものを開きし事あり、同胞渡航者の上陸難に奔走せしあり、矯風運動に参加せしあり、排斥案を撲滅せんと努力せるあり。試みに其重なる事項を同會の發せし書類より抜萃せんか、同胞學童隔離事件の發生せし際に、三十九年十月附を以て同會の宣言せし所は左の如し、

夫れ桑港教育局の在留日本兒女隔離教育決議は大にして日東帝國の威嚴體面を汚漬し小にして幼少各個知徳發育を沮害する空前の暴舉なり默過せんか國家の威信茲に墜落し在米新社會發展の根源茲に枯涸せん是れ豈沿岸同胞高枕熟眠以て自ら安んずるの秋ならんや

本會此點に見る所あり外帝國政府の國際談判と相應じ内在留志士の後援に依頼し適宜の方途を講じて以て此過根を絶ち我が兒童教育百年の安全を謀らんとす

國を思ひ同胞を思ひ年少兒女を思ふの志士仁人願くは資を投じ力を致して以て本問題の解決を助けよ

斯く如き宣言書を撤布せしと同時に、同會の執務報告書に據れば、駐在領事を通じて外務大臣、駐米大使に此旨を電達し、故國の重なる新聞紙に通信し、メカトフ卿の來桑するや事情を具陳し。兒童に何の罪かある、日本を侮辱する勿れ、權利問題也と絶叫せし反響は効果を奏し、大統領は桑港市長併びに學務局員を召喚したる後該案は撤回に決して落着したり。爰ぞ知らん。時已に青天の霹靂は在留同胞の頭上にありしを、乃ち知るべし三十九年二月十七日の合衆國々會上下兩院は、政府の提出せし布哇轉航移民禁止法案を可決するに、拾票に對する百九十票の大多數を以てせり。之と相前後して加州々會には無期限附土地所有權、土地家屋賃借權禁止法案の提出ありしが、大統領の訓諭と、協議會の運動とにより中止せり。しかも、在留日本人聯合協議會に於ては、大打撃問題に驚き、早卒として、大要左の如き文章を印刷の上配布せり。

加州々會に於ける土地所有家屋賃借無期限禁止法案と學童問題は落着したり。しかも日本人排斥はクロニクル新聞及び日韓人排斥會のみの素望なりと思ひきや、三月十日を以て大統領の加州知事に與へたる公電に依り、大統領も亦同胞を排斥せんとするものゝ如し。排斥後の同胞を假定せんか、縷説するまでもなし、活教訓は支那人にありと。熾んに煽動的記事を掲げたる後。本會の

方針なりとて、一、外務大臣及び駐米大使に對し日本人排斥の不可なる事を通告する事。二、故國の輿論を喚起して國民的後援を藉る事。三、青木大使の實地視察を請ふ事。四、前項即ち大使にして實地視察不可能とせばワシントン府に陳情委員を特派する事。五、陳情委員を日本に派遣する事。六、加州々民の日本人に對する意見書を徴する事。七日本人の實力を統計的に調査して日本に知らしむる事。八、日本人最負の輿論を高むる事。以上列擧したるに附記して運動費を調達するを急務中の急務とせり。

然れども、米當局は學童問題の失言を捉ひて巧みに我移民排斥の口實を作り、婉曲なる外交辭令の許に、交換問題として、轉航移民の禁止となり、又如何ともすべからざるに至りぬ。同會の執務報告は曰く是れ實に在留民の發展に對する一大打撃と云ふべきものたりしが百方を盡して能はざりしは遺憾なりしと。仍ほ此他三十九年五月以來即ち震災以後同胞の經營に係る洋食店破壊事件に關與し、桂庵鑑札下附不許可問題に就て桑港警務局と交渉し好結果を得たるあり、陳情委員として野田音三郎をワシントンに派遣し青木大使に陳述せしめたるあり、其他領事館昇格運動に、全力を傾倒したる感ありしも、設立以來同會は黨同異伐を事とし、專横の處置ありしかば、痛く在留民の怨府たる觀を呈し。常に其行動を注視されたりしが、前記轉航禁止問題に關し、サクラメント平原の在留者と歩調を共にすべきを約したるにも拘はらず、通商局長石井菊次郎の來桑に藉口し、在米日

本人聯合協議會報告書を複製して曾ては極力揚言せし、日本特派員の派遣を中止するや、反旗はサクラメント河の一角に樹てられ、幾多の紛擾の末竹崎犀吉をしてサクラメント平原在留者を代表して日本に赴かしむ。竹崎の桑港に来るや、慍々たらざりし同胞は、示威運動の一種として、熾んに聲援を與へ、竹崎の爲めに盛大なる送別會を開催し、席上同會に反對の決議をなし、後二三日にして桑港日本人會を起しぬ、時に明治四十年十月なり。此一舉は實に是れ聯合協議會に對する致命傷にして、反對するもの、善惡是非を論ずるは姑く措き、政治は勢力なりてふ言を遺憾なく活躍し、幾多の紛紜を経て、遂に時の總領事小池張造の調停となり、兩會とも任意解散を告げ茲に一段落を來たしたり。既にして四十一年二月、在留者の巨頭公を以て自らも許し他よりも許さると稱する三井物産支店長津田、正金銀行支店長穂積、東洋汽船支店長島田等の連名を以て在米日本人會を設立したり。而して此會の成立要素は奇妙なる色彩を有し、自治を重する團體としては不思議なる現象を呈したり、群少怒號の喧囂なるを排除せんとしたる結果、在米同胞間に於ける藩閥團體を組織したる也。之に與て力ありしは小池張造なりとす。かくて其財政を填補せんが爲め、運動の末在留同胞證明保證權を、日本當局より與へられ、特派員渡邊金藏の日本朝野の士より寄附金を募集して歸れるあり。略其基礎の安きを見るに至り、今四十二年には正式に各地方團體と聯絡し、幾分專制的の規約を改正したる所ある也。然りと雖も團體完美して、團體を必要とせる同胞の數漸減するを奈

何ともなす可からざる也。以上其沿革及び事業の梗概にして、團體設立の主意の如きは在米日本人協議會設立の當初と何等の徑庭あるを見ざるなり。たゞ聯合協議會と相違するは桑港に桑港日本人協議會を置かざる一點のみ。

▲アラスカ鮭罐詰業に於ける同胞の活動と其作業　めぐらすに、四面皆海を以てせる我日本。若し

徳川幕府の政策にして、鎖國主義を採らざりしならば、我國民が海を利用して國富の増進を計りしはと少からざりしなる可しとは、史家の萬口一致して稱ふる所。倭寇の一事を拉し來て徴するも其然りし所以を察知し得べし。我同胞の冒險的性質を帶ぶるは先天的と云ふも過言にあらざる也。見よや、維新の宏謨一度開國進取を標榜せしより、世界至るところに我民族の影を認めざる處なし。ふ狀況なるを。我同胞の北米に在留する者も豈此數に漏れ得べき。學生時代の氣風未だ消えざる三十二年頃に於ける在留者は、着實なる農工商に従事せんとする者より、四千湮外容窓の夢、夜々一攫千金を繞りし所謂少壯氣銳の者多かりし也。しかるに、アラスカ、コロンダイキに金鑛發見せられ、該地にて事業を營むものは、理想とせし夢を實現するを得、且つ金塊の如き、土中を掘り去れば必ず發見に難からずと傳説風聞頻々たりし矢先、三十二年アラスカ鮭罐詰事業に邦人を使用する事となりしかば、たゞアラスカの四字に勇躍一番、金塊を目的として、支那人受負の下に同地に赴きしを嚆矢とす、しかも當初は目的金塊にありしかば、勞働賃銀の如きも漁撈期間僅かに九十弗に

甘じたりしが、其事業としては失敗し又金発見としても素より失敗し、爾來二三年間は有望と稱するを得ざりしが、漸く経験を積むに隨ひ其緒に就き、金塊を目的とせずして黄金を目的とする事となり、毎年四月の候に至れば日本人社會に一道の活氣を興ふる程となり、殊に三十六年以來、支那人の羈絆を脱して、會社と直接受負を訂結する者出でしより、面目を一新し來れり。今年の如き排日本人運動の熾烈なるにも係はらず斯業は何等の痛痒を感せず、一葉の扁舟に據り極北の地に向はんとす。而して其當初にありては航するもの、概ね無頼の徒のみにして、心ある者をして矚目せしめしが、時勢の促す所、輕々に看過す可きにあらずとし、労働者を選択するに至り、又受負人側にありても秩序ある組織をなさんとし、今後數年を期とし一大會社を創立せんとする機運に達せり。蓋し文明的事業は其組織の秩序あるを要す、遲滞ながらもアラスカ事業家が此點に着目せしは、多とするに足らん。年々單に桑港より航する者のみにして二千名、沙港、ポートランド等より赴く者を加算すれば約五千人の労働者ありとす。然らば最少額に計算して、即ち一人百五十弗平均に獲得する事として七十五萬弗を得ん。半ケ年の内に七十五萬弗の労働賃銀、盡ぞ少なりとするを得ん。邦人の事業として前途有望なる事斯の如し、故に其邦人の作業の概略を述べんとす。

漁夫は皆伊太利亞人にして、三十三年の頃一たび邦人を使用したりしかど、經驗なかりしと、労働同盟の迫害あるが爲め、遂に彼等の手に委するに至りし也。故に邦人のアラスカに於ける事業は

鐘詰作業にして機關と相俟て労働する者也、其概略を記せんに、漁夫の撈り來れる鮭の、頭、尾、鱗、臟腑等を取り去り魚肉を清潔になすをフィッシュドックと稱す、フィッシュドックを結したる後、フィリングマシンによりて、重量を二磅とし長さを鐘に準じて切斷し、更らに鐘に詰まりしまゝ卓上に出で來る、之を檢定し量の過不及ならしむるをテーブル廻りと稱す、蓋し前記フィリングマシンは一分間七十ヶ内外の鐘詰を製作する精緻なる機械なり。夫れより、クリーニングマシンにより肉の外面に喰み出でたるを洗除し、チップ（ブリキの小片）を載せたる上、タツパーと稱する者の許に至りて、覆蓋をなしたり、クリンバーなる機械の力を以て壓迫し、容易に、鐘と其覆蓋とをして離るゝと勿からしむ。以上を總稱して、ゼチラルウオーク（普通作業）と云ひ、婦女子と雖もなし能ふ労働たる也。かくてサーダミシンと云ひ、塩酸を配置し火の加減を以て鉛を熔解し得る器械にて蓋覆したる上、冷水を潜りて鐘取り人夫の之をクローラー（鐵製二百磅）に取上げカバンの上の穴を閉鎖する作業手たるタツパーハンドに渡りたる後、ウォーターテストと稱して熱湯の中に前記クローラーに載りたるまゝ投入しハンダーの良否を試験し終れば、釜中にて約三十分煮し、穴を穿ちて真空となし、ライを混じたる熱湯にて洗濯す、是をサイライと謂ふ、冷却せしむる三三時間の後、マスターの手裡へ渡りて、完全に完全の物品となるものなり。しかばマスターとは、如何なる作業をなすものなりやと云ふに鐘を敲き其音聲に據りて、良不良を識別する者を謂ふ、蓋し

此作業者多くは支那人にして、邦人は會社にて信用を措かざるが故に之をなし得る者殆んど無しと稱するも可なり。更らに然らば労働時間は如何、漁撈熾盛なる期間は約二ヶ月にして、此間の労働時間は十八時間なり、しかりと雖も其最も多忙なるは二週間内外に過ぎざる也。斯く記述すれば、労働時間頗る長きが如しと雖も、是れ漁期短きを以て、止むを得ざる所にして、前後の航海日数を控除せんか即ち労働者の最低賃銀を以てするも、二ヶ月にして百五十弗を獲得するものと云ふ可し。金塊を目的とせずとも、アラスカ漁業の如きは其遺利の多き、世界稀に見るの處にして、資本を投じ、勢力を供給せば此後の發展や刮目して見るに足らん。

▲加州日本人醫會小史 加州日本人醫會の現状を自筆する者は、其萎靡不振なるを以て、敢て題目を設くるに及ばざる可しと思惟するならん、しかも永き歴史を有する點に於て、常に同胞間、公となく私となく中樞となるに於て、醫家より以上の人あるなし。且つ多く他人に知らるゝに至ては到底他業に従事する者の企て及ばざる所なりとす、故に其小史を記述せんとする所以也。

明治二十年前後、醫學會と稱する團體あり、其會員には、醫家あり、醫を志す書生あり。菅原傳渡邊勘十郎、大和正夫等が割據して、慷慨の氣を吐きし愛國同盟會と同じく、頗る蕪雜なる組織にして、今より之を思ふ、所謂滑稽百出を日に演じて、平然怪しとせざるものなりしが、同胞の在留數増加するにつれ、開業する醫家の増加するや、同業者のみの團體を必要とするの議起り、遂に加

州日本人醫會の生るゝに至れるなり、時に明治三拾四年なりとす。時の會員を列擧すれば、桑港に西片朝三、橋本修吾、黒澤格三郎、立石槌太郎、松崎愛二、宮部唯太郎、王府に、吉田俊造、櫻府に唐木保藏、竹岡三之吉、サンノゼ、小林正巳、羅府、池内清光、綿引朝光、布市、小此木文九郎、阿部正之伊藤竹次郎の十六名なり。其設立の動機、開業し得る資格を有する醫士と、未だ然らずして、學識經驗共に患者を診察する能はざる醫學生との分離にありしかば、醫會の歴史の大半は、開業免狀を有せざる者の診察するを非としたるを以て埋めらる。年號に就て略記すれば三十四年九月に於て唐木保藏が物せる「日本人醫會に一言す」てふ一文の日米新聞に掲載せらるゝや、會長より會を中傷するものなりと取消を命じ、唐木之れに對して謝罪狀を出だして落着したる事あり。三十五年一月、アラメダ郡に在住せる原田某の少女(十六歳)白人少年六名の爲め辱められたるを憤り在留本邦人、總舉訴訟を提起し、費用の負擔は在加州同胞一般より募集する事となりしより、同會も率先運動し且つ金錢を支辨したるあり。同年七月、大磯屋旅館に宿泊し居りし水原きんなる者墮胎の疑ありと日米紙上に現はれし記事中、同女を診察せし松崎愛二を以て同女より依頼されしが如き筆録ありしかば、同醫士は之を醫會に提出し事實の調査を請求したるあり。十二月、西片朝三方に松井滋雄なる者あり、加州政廳の開業免狀を有せずして、西片と共に診察に従事する旨廣告せしかば、臨時總會の請求となり、開會するや殺氣堂に充ち中途閉會するの已むなきに至れり、しかも開會する者あ

りて無事落着するや、加州所在の無免許醫に餘波を及ぼし、同會は警告を發して、今後診察に従事するを發見せば斷然たる態度に出づ可しと附言せり。三十六年三月、ベスト病に就き、同胞の醫士を嫉視したるに起因せし、衛生局吏との紛紜あり、問題聊か大なるよりして巷説紛々、新世界紙上の時の領事より醫會に向て訓諭する所ありしなど、一時頗る喧擾を極めぬ。八月に至り同會は加州政廳より公認せらる。此間依然として開業免狀と無免許との争ひ絶へざりし。其他催眠術の研究あり、佐藤三吉、丹波敬三の兩博士、石坂助教、西村學士の來桑せるを歓迎したるあり、三十七年三月、邦人上陸に際し眼病嫌疑者の多數たるを以て、桑港日本人會の依頼に由り、調査の上故國に於て乗船の際注意すべき事項を起草したるあり、三十八年一月軍醫總監高木兼寛の來桑あり、三十九年四月の桑港震災には黒澤格三郎、立石樵太郎等の奔走、尋常にあらざりしは、別項加州日本人慈善會史に就て参照せよ。震災後の同會は、會員にして、羅府に赴くものあり、主府に行きしものあり、名は會員なりと雖も、昔日の如く、策源地の桑港ともつかず、羅府ともつかざる事となりしより、殆んど有名無實の如し。しかりと雖も、小なる團體を組織して氣焔を吐くを以て能事とせし氣風は、漸時同胞間減少しつゝあるよりして見る、同會も亦此風調に準じたる者と云ふ可きが如し。

▲在留民の教育機關 我在留民の兒童程、世に不幸なるは恐らく他に類例なからん。日本に於ては

お米さまと拜跪せざるを得ざりし境遇に在りし者の兒童すら、魚腥獸肉欲するがまゝに與へらるゝを以て物質的にこそ頗る幸福なりと雖も、一たび思を精神に寄す、長出息を禁する能はざるなり。日本に於ける方言の、パツテンもイコラもソーダンベーも敢て左程の支障なし、たゞ半は是れ下等なる英語にして、半は是れ邦語、其たしきに至りては支那語に混するに、布陸土人の語を以てす而かも常に言語のみならんか、未だ憂をなさずと雖も、其言語の如く統一なき四邊の情況は、蒙る精神状態に至ては實に寒心せざるを得ず。此狀況より救済する唯一の方法たる教育機關の不完全を目睹するに至ては更に案を打て、我兒童を如何せんと叫ばざるを得ざるなり。同化力を以て最大要素とする文明が却て反對に同化せざるべく勉むる傾向は此北米加州に在留する彼等文明人に由て明かに表現され、堂々たる加州議會には毎年我學童をして公立學校に入らしめざらんとする議案の提出あるを見る。しかも我學童数は現在幾千ありやと云ふに、彼等日本人排斥を目的とし商賣とする羊皮的文明人の調査せし所を以てすれば僅々五百二十六人に過ぎざる也。我兒童の彼等虎心文明人の子孫に悪感化を與ふると假定せんも、猶且つ五百名内外なるにあらずや。況んや我國民の膨脹とは相容れざる教育を此國公立學校に於てせしむるは是れ我在留同胞中に於ても教育あり人格ある者の子弟なるに於てをや。之を彼の劣等極まる歐洲大陸の移民の子弟と俱に教育せしむるは決して我同胞にぞりて感謝すべき理由を發見せざるに於てをや。たゞ同化せざるの非難を恐るゝが故に將又

居るものは確固たる信念あるが如く見ゆるも、別段に他に改宗する必要もなければ也。尤も基督教に入りし他の原因は外國語、學習に便なるにも據りし所あり。兎に角我日本に於ける宗教は僧侶牧師殿堂宗派の形式のみを有する幽霊にして、魂魄は遠き昔より宿らざりしものと云ふ可し。佛教盛なりと云ひ、基督教衰へたりと謂ふも、それは名簿に記載されたる人名の多寡、或は寄附金の多少なるのみ。我在留民社會も此數を出でざるものにして、何處には佛教の會堂ありて坊主幾人ありとし、彼處には寺院の宏壯なるものありて牧師ありと數ふるも、是れ形式のみなり。しかれども基督教一派が我同胞に對して偽善にもせよ盡力せしは争ふ可からざる事實にして、十中八九直接渡航の者は教會の厄介にならざるはなし。たゞ夫れ厄介にならざるはなしと雖も、教勢の振はざるは即ち前記の如く宗教心の稀薄なるを、搗て加へて黄金はクリストもお釋迦も、左へ前めと號令し、大隊横隊と掛聲し得るの權威を示す國情の然らしむるあればなり。前記の如く或は説をなして、桑港には美以派あり會員百名あり、教會あり、フランスノ然り、ロシアノ然り、オーストリアノ然り、サクランボノ然らざるはなし、又長老教會も、組合教會も、佛教會も皆隆々たらざるはなし、是れ即ち宗教を信仰するの證左にあらずやと問ふものあるやも測られずと雖も、是れ却て自殺論法に陥ゆるもののみ。高天ヶ原に神とまじりまします神道教會すら存在を容すにあらずや。斯の如きは一事として在留民が生活状態の餘裕あるに起因するもの。寧ろ彼等の存在を認むるは、たまに一夕安老居を覗きて金

錢を仕拂ふに等しき金額にて相濟むを以て存在を認め居る也。宗教家に局限して云ふべき問題にあらずとは云へ、聖壇と號する上に立て人間を導かんとする輩は、特に其責任を負ふ可き義務あり且つ又此弊の甚だしきを以て一言せんか、彼等宗教家は、殿堂にあり、牧師たり、僧侶たり、故に心にもなき極端なる禁慾主義を鼓吹せざるを得ずと心得ふるが爲め、自ら其天地を躊躇せざるを得ざるべからざるに到達し。却て教祖の眞意を泥土に委し、教勢の不振を招き、信仰を退轉せしむ。更らに此定則よりして偽善虚榮を跋扈せしめ、反動の結果教徒をして其所屬教會に出入するを嫌厭せしむるに至る。是れ何處も同一なりと雖も我在留者間殊に此趨勢を認むる所。而かも自ら口にするところ自ら行ふ者なりとせば詮方なしとせんも、自らは攻むるに頗る寛にして他を誡むる事嚴なるを以て、一種高等乞食と擇ぶなきなり。

日本に於ては、其信仰薄く、精神界の事過度時代にありて、混沌として分別し難く、歸入し難しと稱せらるゝも、二千五百年來養ひし云ひ知らぬ、精神的氣の、眼々の裡人心に磅礴として迫るあり。又時々刻々見聞をして廣からしむるあるを以て暗々の中常に光明あり、紛紜の裏自ら統一あり一代の師表となる者も尠少にあらずれば、編者等の容喙すべきにあらずれば、我在留社會に至ては歸一するに所なき有様なれば、かく一言する所以なり。もし夫れ我國民に宗教的熱烈の情操なしとの言に對し異論ありとせんも、宗教の論をなすを目的とするにあらずるが、編者の直覺と歴史と

に照らして、断ずるにあり。但だ其情操の無き所、即ち狂的分子を含有せざる所、是れ我大和民族をして今日あらしむるにあるのみ。敢て宗教心の無用を叫ぶものにあらざる也。

▲邦字新聞の發達 邦人新聞の發達は同胞社會の發達と正比例をなし、又其同胞社會の發達は遂に新聞雜誌のそれを助暢せしむるに及び、其發達の順序は左の如し。

▲第一期、ミメオグラフ印刷時代

明治廿年頃より同廿五年まで(1887-1892)

▲第二期、石版印刷時代、月刊新聞の發生

明治廿五年より三十年まで(1892-1897)

▲第三期、活字印刷時代、日刊其他

明治廿八年より現今に及ぶ(1885-1909)

此順序に従へば第一期は原始時代にして、第二期は將來の進歩發達萌芽となる時代なり、第三期は發達の極點に達し之れ以上の發展をなすや或は反て退却すべきやは今後の一疑問なり。

第一期ミメオグラフ印刷時代は、在米邦字雜誌の極めて幼稚なるものにして、明治十九年頃に東京諸新聞が學生の渡米を奨励したる結果として、多數の學生は太平洋を横きりて渡來せるが、彼等は多く學僕の生活をなし、同志相糾合して一室を借受け、餘閑には此處に集つて壯談放語を恣にせり

此種の團體にてオーケランドに起りたるは、新日本社と稱するものにて、石坂公歴、中島半三郎の徒相集つて『新日本』と題するミメオグラフ印行の週刊雜誌を發行す、其文字には劇烈奇矯なるものあり、盛んに自由主義を鼓吹し、爾來桑港オツファレル街に移り、愛國同盟と合し、相變らず週刊雜誌を繼續せるが、治安妨害の爲め屢々日本政府より内地發賣頒布を禁せられしも、其都度改題し或は『自由』と稱し、『愛國』と云ひ、改題凡そ數回の多きに及び、繼續數年明治廿五年頃に至りて亡びたり、此外山本某等『桑港通信』なるものを發行せるあり、服部綾雄の率ゐたる桑港ミツション街一致派の青年會(ヘート青年會の前身)デニッシュ街福音會にても(佐藤信忠、安孫子久太郎等の從屬せるもの)時々ミメオグラフ刊行の會報を發せり。

第二期、石版印刷時代 明治廿五年の秋、東京の人中田某なるもの、初めて中形の石版印刷器械を携えて渡米せるが、之ぞ端なくも一方に於ては在留同胞社會に於ける印刷界の革新を喚起し、他方に於ては社會全般の一大進歩を促がすの動機となるに至りたり、明治廿五年の十二月大和正夫は此器械により一頁半紙半枚大四頁の日刊『桑港』新聞を刊行す、定價一ヶ月三十五仙、是れ米國に於ける邦字日刊の嚆矢なり。翌明治二十六年二月に至り、永井元は寺澤六之助、金子幸太郎等其他二三の有志と共に、黒澤國手を金主として、新たに大形の石版器械を購入し、『金門日報』と稱する日刊新聞を發行す、其大さ一頁幅一呎堅二十吋位にして、四頁或は六頁印行、定價五拾仙、論說雜報雜

録廣告等をも掲げ、漸く新聞の体裁を成せり、其の後雑誌には山田亮、竹川藤太郎等の發行せる雑誌『遠征』あり、青年會福音會にても會報を發し、岡田依三郎發行の雑誌『桑港文庫』あり、河原兄弟は繪入り大雑誌『愛嬌』なるものを刊行す、皆な石版印刷にて、其文字は一々細筆にて書きたるものなり、當時の新聞雑誌は無政府的在留同胞社會に一大制裁を加へ、或は新事業、土着、教育、妻帯獨立心を奨励し、世に裨益を與へたる者少ならず『金門』は明治二十八年日清戦争後に及び廢刊し『桑港』新聞も問もなく同様の運命に及びたり、但し石版摺り日刊新聞の運命は之にて亡びたりとせず、明治三十年四月頃『ジャパン、ヘラルド』なる日刊は米田切水、鷺津文三、岡田溪水等によりて石版摺りにて發行され、更に『桑港日本新聞』と改題し、發行し居りしが、其處有權は福音會派の掌中に歸し、後ち同派にて活字を購入し石版に代ゆるに及び、全く石版日刊は亡ぶるに至りたり、此間鷺津尺魔は『臆はづ誌』なる滑稽雑誌を發行し、白婦人に關する狂畫の爲め誹謗罪にて投獄せられ高橋畫工、米田切水も共に災厄を被むる、之を同胞新聞記者が筆の爲めに罰せられたるの初めとす。

第三期、活字印刷時代 日本活字の初めて米國に輸入されたるは、明治廿七年の初めに、菅篤次等之を用ひて、愛國同盟の機關雑誌を發行したるを、米國に於ける活字新聞の鼻祖とす、同年秋ヘート青年會の一派、本國より活字を取寄せ日刊『新世界』を發行す、副島八郎之が主任たり、之れ活字日刊新聞の開祖なり、新世界はヘート街に居る事數年、青年會と分離して、ブッシュ街よりバ

ウエル街に移れり、此頃は副島全盛の時にて、それより倉永の手に移り、ゲリー街にて刊行、大災の爲め王府に引擧げ再び桑港に戻り、今日に及びり。

ヘート青年會は新世界を放逐し、更に醜金して活字を買入れ、明治三十一年川崎筑峰主幹となり勝安房伯の題字を得て、『北米日報』を發行す、翌三十二年福音會派の『桑港日本新聞』と合併し、改題して『日米』と稱し、ヘート街を立退き、金門街に移り、川崎は主幹にて小林彦次郎持主たり其後川崎歸朝し、小林も一時歸國し、爾後『日米』の全權は安孫子の手に歸し、火災後同じく王府に移り、再び桑港に歸り、今日まで繼續せり。

桑港大火災の後、捲土の勢を以て生れたるは『桑港新聞』なり、曾て新世界記者たりし藤井天彩は同志數名と共に之を發行す、後吉岡金太郎、石川福太郎二人の經營に屬し、藤井天彩、大塚則鳴等主任記者たり。

新世界は發刊以來既に十五年、日米は十年、桑港は四年、共に桑港三大新聞として發達の極點に達せり、此の他米國中ロシアアンゼルス、サクラメント、シヤトル、ポートランド、晚香坡等より遠くは紐育、内地はソートレーキ及デンバーに至るまで活字新聞の發刊を見ざるなし、尙ほ幾多の雜誌會報等或は起り或は亡び、一々記載するに遑あらず、印刷業は同胞間事業界の一大部分を占め活版業者の數は米國全体を通じて既に數十箇所の多きに及び、之を第一期第二期時代の印刷界に比すれ

ば實に隔世の感なき能はず、吾人は今日の進歩の退却せざらんことを望むや切なり。

▲通辨業者の今昔 故國に於て新聞記者を目指すに蛇蝎を以てし、若くは高等無賴漢を以てしたる既に十年の昔となりぬ。たゞ十年前も今日も同じく稱して新聞記者と云ふ者にして、探訪も議論も新聞紙の爲めならず、自己發澤の爲めに恐喝取財の材料とする者あると同時に、天分頗る高く一世の風潮を白眼にて睥睨し侃々諤々の筆、上は天下の宰相より下は村會議員の輩に至るまで、之を指導訓戒して、一枝苟も自己の爲めにせざる者あるは、争ふ可からざる事實也。在留同胞社會の通辨業者も亦之と等しく、單に理窟を捏ね英語を操り得るを奇貨として不正の金錢を貪る者あれば、高等の教育を受け素養十分なるもたゞ歸化權なきより、已む無く通辨業に従ひ、正理公道によりて進退する者もある也。

吾人は曾て不當の金錢を要求したる者ありしより、一斑以て全豹を窺ひ知る可しとして、痛く通辨業者が在留同胞の指彈を受けたるを知る。而して不當要求を拒絶し得ざるは、如何なる理由に基因するやと云ふに、曲直の司吏唯金錢在るを知て、國家人道の在るを知らざるにありと雖も、主として初期の通辨業者が不正業者と密接なる關係を有したりしに由る。換言すれば醜業者が、醜的通辨を必要としたるより生ぜし自然現象たる也。是れ蓋し渡航し來る邦人の數増加するにつれ、先きには置酒高會して時事を慷慨したる書生連のみなりしが、布味等より眞に勞働を目的として來る者

多くなりしより、勢ひ醜業婦の需要を喚起し、茲に通辨の必要を來たしたる也。

在留民社會に於て、太田公允なる者明治廿五年斯業を開始したるを鼻祖とし光勢耕作、宮川益次永井元、中田辨吉、谷越勝太郎、金井重雄、谷口文彦、高田喜三槌、横澤直人、常光友輔、仁木八郎、西村佐太郎等順次桑港にて斯業に従事せり、而して現今の在留民社會は秩序略ぼ定まり、且つ又完全に近き團體もあり、旁々不法通辨業者の横行濶歩を容さざるに至りしかば、概して之を謂ふに在留者間の紳士を以て遇さるゝに至れり。然りと雖も玉石混淆たるは吾人の斷言するに躊躇せざる所とす。

茲に聊か通辨業者の爲め陳辯しをかんに、市民たるを許されざるが故に如何なる法律學校を出づるも、辯護士たる能はざる我同胞の通辨は、日本内地の同業者とは全然趣を異にし、常に法廷に入して、辯護士を補助し、判檢事をして事件の進捗に便ならしむるにあり、故に通辨と云ふも、前記の如く歸化權否認に據り餘儀なく通辨として甘する次第なる事是れ也。乃ち知るべし或意味に於ては在留社會必須欲く可からざる職業なると共に公利公益を計る者なる事を。

英語の本場所なる米國に在るを以て、我同胞は皆英語に堪能なる者とするは非常の間違にして、凡そ在留の事業家の如きは其事業に専念なるの結果、語學を顧慮するの閑暇なき者多く、一たび事端を醸せば必ず通辨業者を煩はざるなし吾人は此の一點よりしても此の業に従ふ者の誠實を要するは

論なし。嘆ず可きは之を顧みずして目前の利益をのみ追ふ斯業者の存在する者多き事なるが、是れ亦期年ならずして撲滅の運命に接するを信じて疑はざる也。

編輯中併三昧(三)

退 步

銅山王竹奴を抱いて眠りけり

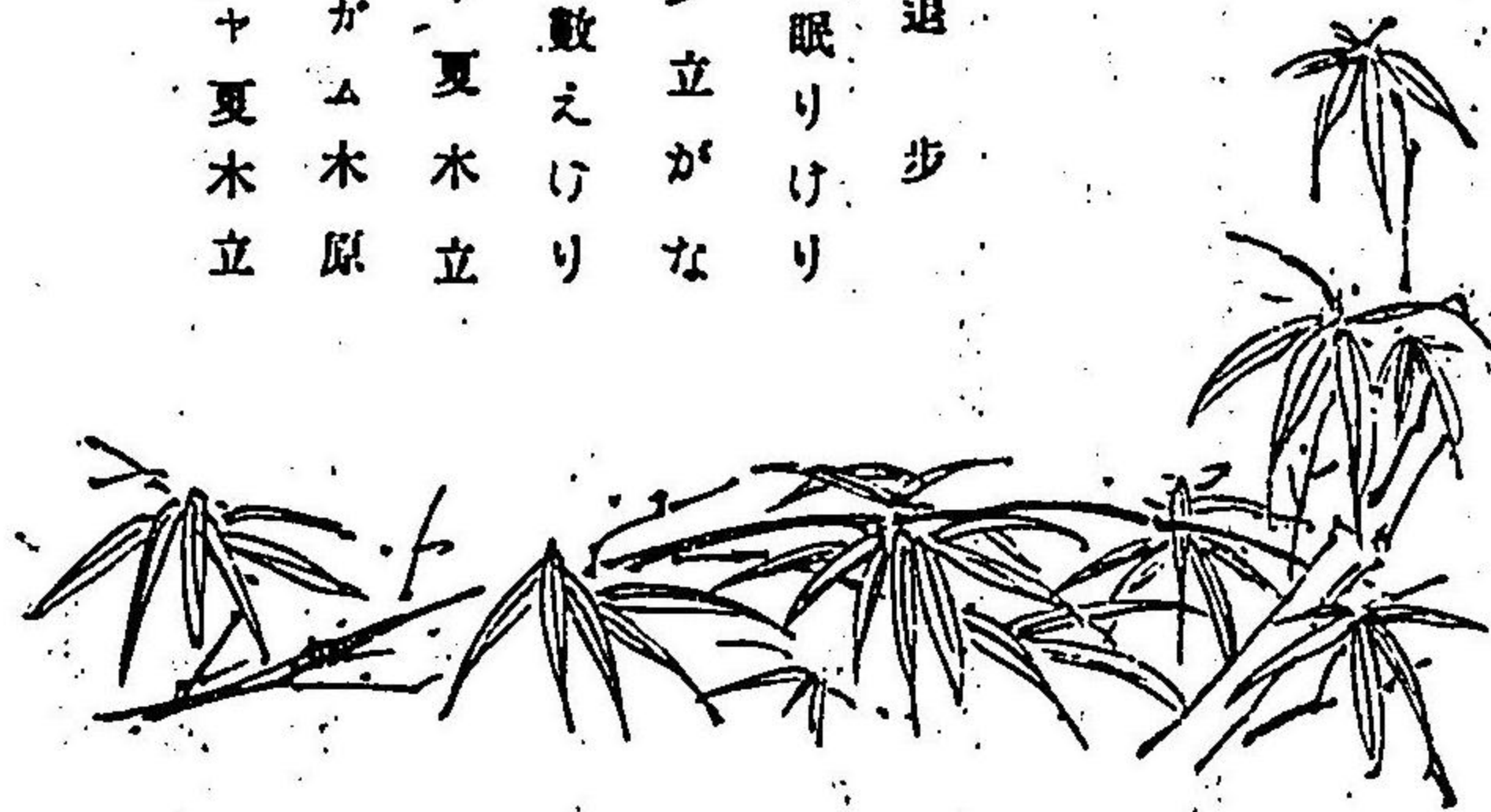
綿羊仙人掌原の夕立がな

腐れ儒者藁の十徳敷えけり

海近き郷の霧露や夏木立

水漕ぐ夏の月夜やガム木原

風起すオートモビルや夏木立



第 三 在米伊太利人を一瞥して我同胞に及ぶ

淺薄にして蕪雜乍らも、我在留同胞の實力如何は數字の示し來るが如し。乃ち未だ以て實力の發展を叫ぶの時期にあらず、否叫ばんとして能はざるの狀態にありとす。吾人は能く二千五百年來暗々裡に咀嚼され消化されたる文明を有するを知る。然りと雖も我帝國の位置は、決して吾人同胞が思惟する程諸他列國に於て認めざるを如何ともなし能はざるにあらずや。是れ當然の理也。北米合衆國は各國民集合して國を建てしものなり。而して其建國の際に於て既に已に在住せる人民を以て合衆國民となし、他の後に移住し來れるを殖民とし移民として取扱ふは、理に於て矛盾せるが如しと雖も、是れ背理せる至理也。矛盾せる一致也。之と同じく我帝國が日清戦争によりて存在を認められ、日露の役によりて世界の舞臺に登りしとは云ひ、此背理の理にして國家組織の缺く可からざる要素とせば後進國として遇せらるゝを甘受せざるべからず。唯吾人は實力を養ふて此侮辱に酬ゆるの時を、今よりして期するにあるのみ。實力なき者如何様に威張ればとて何等の反響をも來たさざるを以て也。換言すれば北米に在住する同胞は、口に日本外交を云々する無く、米國一部の愚民を對手とせずして、他までも實力を培養し、根底を鞏固にするにあり。之を譬ふれば彼の我練習艦隊來航の際の如きに於ては、吾人同胞自ら歓迎するを避け、當國民の歓迎場に至りて當國民のビールを飲み、サンドウキツチを喰ふにあり。斯の如きは大和民族として實に忍び能はざる所なりと雖

も、斯くせんか我同胞を以て恐怖に償する國民と目せし者も漸く安心放念して、自然に排斥の聲を絶つに至るや必せり。又排斥の聲騒がしければとて、平然知らざるを装ふれば遂に滅却し去るは自明の理なるを以て也。

吾人をして忌憚無く云はしめんか、日本人排斥は、彼等白人の愚者のなせしものにあらずして、愚者をして排斥を叫ばしむるに至りし、日本人の所業也。我同胞は十の實質實量をすら有せずして百千の外容を示し、自ら排斥の聲を招きしと斷言し得る也。

見よ斷片零碎ながら、伊太利移民の實力を。『北米の日本人』と題する此編中に伊太利人を引照し來るは蛇足の嫌なしとせざれど、他山の石以て玉を磨く可しとせば、強ち無用の業にもあらざる可し。殊に發展の意義をすら知らざるの徒、無暗に之を口にする者の多き我在留同胞社會に向ては一服の清涼劑と信すれば也。壹千九百四年度紐育市調査に據りて見るに、伊太利人の同市居住人口は四十八萬六千餘人。貯蓄銀行預金は壹千五百萬弗。土地所有者四千名にして地價二千萬弗。伊太利人街總財産見積金六千萬弗。商業家壹萬軒有餘にして此資本金壹千五百萬弗。更らに之を單に同市よりの送金に就て見るに壹千八百九十六年代に於て四千萬弗を本國に送附し居る也。而かも壹千九百年合衆國政府の調査せる同國人全人口は百二十一萬七千餘人あり。其實力の大なるは西南部にして到底紐育の如きは足下にだも及ばざるを附記せるを以てす、其狀況は智者を俟て後知る可きにあ

らざる可し。

然りと雖も彼等も亦、吾人同胞がジャツプと呼ばれて排斥せらるゝが如く、デイゴウと嘲罵されつゝある者なり。而かも彼等の多數は塵埃取人足、靴磨の如き最も下等なる職業に従事し、マカロニ(日本のウンドンに同じ)を喰ひ、最劣等の葡萄酒を飲み、悠々寛々として労働し、嘲罵の聲も耳朶に徹せざるが如き觀あり。而して已に彼等が着々として實力を養ひ眞の發展をなしつつあるは吾人の實見に徴して明瞭なりとす。

よしや伊太利統一の業、近き過去にありしが爲めとせんも、古昔幾世紀の間ローマの文明を擴布し、歐米文明を産せし國民の末流にてあり乍ら、斯の如き屈辱を其後進國より敢てせられて、嚇怒せず、喧囂せず、能く労働し能く貯蓄するの點、吾人同胞が乳牛の角を見て恠獸視し、數片の瓦礫を投せらるゝあらんか國家の權利を擔ぎ出すと比して孰れぞ。況んや彼等は單に生活問題にのみ逼まられて渡航し來るにあらず、半ば政治上の動亂壓迫も之れ有るの國民にして、其外交の軟弱をすら攻めざるをや。吾人同胞たる者能く之に鑑む可き也。宜なる哉、彼等が最も少數に在留する此加州に於て、所在到る所イタリアンマーケットを認めざるはなきを。吾人は卷末に於て我同胞發展の觀察を添え置きたるが、偶々伊太利移民實力の一端を瞥見して、聊か苦言を呈したるなり。

編輯中俳三昧(四)

退 步

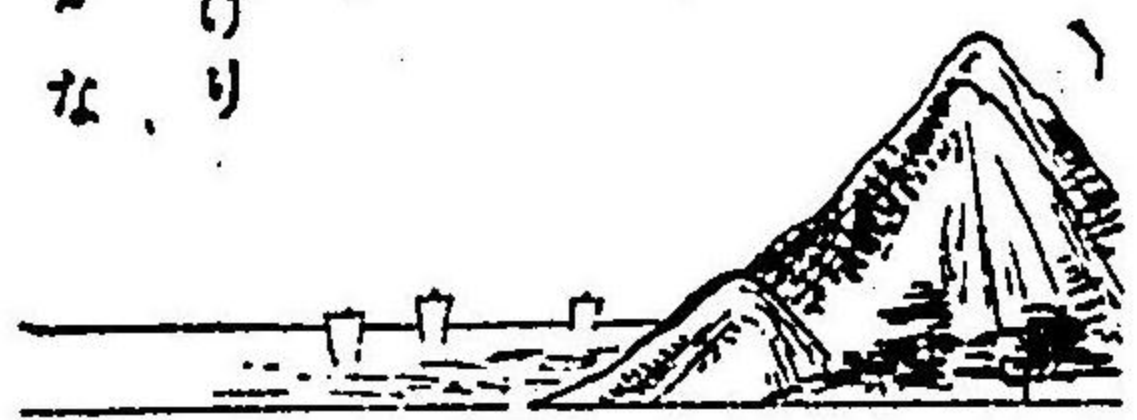
沐ぎつ、誰れか相撲ふと挑みけり
同文の國に土産の扇かな

ベカスフキルド

油山タンキ構の早かな

ホゲの主出で、來す馬芥子を噛む

耳慣れし蟬や虫眼も明らかに



第 四 サンフランシスコ

▲桑港概観 北米太平洋の沿岸、灣内水深く波穏かなる事他に其類例なく、帆檣高く掲ぐる各國の彩旗は、常に翻々として翻へり、汽笛の濃霧或は深夜を警しむる聲ホトトと、出舟入舟の足しげき良港は、云ふまでもなく桑港なりとす。廣袤二萬六千餘エーカー、人口約五十萬、金融機關資産三億弗餘、個數國立銀行を除きて六十、地勢高低一ならずして恰かも醉人の足の如く、山脚兩々迫りて谷をなせる最低地を商業中心地とし、名けてマーケット街と謂ふ。チカゴ以西大都會として又其建築物の高層なる唯一と稱せられしも去る千九百六年即ち明治三十九年四月の震災により殆んど全部轉覆及び火災の厄運に逢ひ、人心一時恟々たりしに次ぎ經濟界の亂調は好望の聲絶えて無く市内に入り込みし労働者の過剰となり、一般に不景氣を嘆きしが、國力充實せる米國の事とて間もなく救済の方法を講せしかば、鐵骨を材とせる家屋の處々に建築するを見。今後數年を出でずして舊に復したる外觀の美を致すや疑ひなし。而して合衆國總貿易額の壹千九百七年(明治四十年)に於て參拾三億二千萬弗に對して桑港貿易總額は八千萬弗を示し居るのみなれば、統計上誇示するに足らざれども、太平洋貿易即ち東洋貿易に至ては輕々に看過すべきにあらず、壹千九百七年に於て東洋諸國より輸入せる總價額は三千万弗(内日本よりの輸入は第一位を占め約二千萬弗あり)更に輸出額に就て見る壹千壹百萬弗也(内日本への輸出額は八百萬弗を占め之亦第一位なり)此に依て觀れ

ば我日本との貿易は頗る好望なるが如し、しかれども桑港は單に天然の良港たるを、東洋航路の短距離なるが爲めのみ、即ち日本への輸出に於ては鐵材、製革、棉花類其重要なる物にして、加州産石油は直接南加州より送附するを以てなり、詳しく云へば米國に於ける桑港の勢力範圍に屬する土地よりの生産を輸出するにあらざればなり。輸入に於ても亦然り、生絲と云ひ、製茶と云ひ皆是れ一度東部に輸送する、物品なれば也。しかも有税無税の物品を比較して、日本産の輸入する、物品の無税品の遙かに有税品に優るを以て、勇躍する論者あり、是れ實に迂愚笑ふ可き説にして、關税は單に桑港の關税にあらず全合衆國の關税なるを知らざる者なり。更らに我日本生産の趨勢たる單獨品の皆無なるのみならず、聊か宇内に誇るを得し俗に所謂美術品雜貨の中、アルミニウム製造物の如きは既に已に獨逸品に驅逐されたるを以て見る。假りに百萬歩を譲りて有税無税品の多少を比較して喜愛し得べしとせんも、粗製品稱して逆輸入品となる生絲の如き産物のみならんか、到底好望を唱へ得べきにあらざる也。桑港と日本との貿易を論じて、桑港に輸入する物品の無税の多大なるを説くは沙彌の文珠と智を争はんとするものより甚だしき愚なりとす。之を桑港市政に就て見る腐敗亂脈全世界中支那内地を除外して觀得べき土地あらじ、市長にして投獄さるゝあり、警察署長にして水死するあり、法廷に短銃を放ち法官を狙撃し獄裡に同じく短銃にて自殺するあり、我日本人を迫害する如きは眞に猛烈を極むるも行政官平然たり、司直の府吏恬然たり、雷にしかのみならず之を教唆して得々たる者あり。暴狀恰かも文明の羊皮を纏ふ虎狼に等し。極惡劣等言ふに忍ぶざるなり。彼等文明人種は我日本内地に於ける公娼を目睹して國家の耻辱とし、最古の蠻風と嘲ると雖も、試みに桑港市はカチー街附近の電燈燈々たる場處に到れば、半裸牀の淫婦幾千群をなして畜生道のダンスをなしつゝあり。街燈暗き四辻には白狐黒狸巧みに人を吃い込みて醜業を營み居れり、市内各所に散在する一夜泊りの客舎は概ね男女の密會所たり、淫賣の巢窟たり。教會何ぞ、耶穌教何ぞ、寺院何ぞ、此は是れ未婚の處女の接吻所にあらずや、既婚者の密會合圖所にあらずや。清かれ聖なれと敲く鐘の聲なれども、桑港全市には罪なれ、悪しかれと響くぞ是非もなき。之を要するに國力の豊富なる以外、何等人類の向上に資するもの無きは桑港也。金門灣の日出とフエヤモントホテル以外誇る可きを有せざるは桑港也。市監獄内に銃聲を聞き、警吏の金錢を強請するを特色とするは桑港也。人殺し沙汰の多くして犯人の自由に逃げ得る寛大なる宗教心を有するは桑港以外稀に見る所也。無學なる洋服着たる馬方が市の立法部を支配するは桑港市也。而して我同胞は此間に介在してジャップと云はれスケベと稱され今日に至れる也。日東帝國の國民はマカロニを喰ひ靴を磨き塵埃取を業とする伊太利人以下の取扱を受け、屈辱を忍び猶且つ其實力は遙かに彼等伊太利人の下にあるなり。情け無き次第にあらずや。

▲桑港の日本人 我日本人の北米に航せし最初の歴史を有し、故國より直接に渡米する者及び布哇

諸嶋より轉航したる者の上陸地として最も便利多かりしより、桑港は北米日本人社會の策源地となり、日本人排斥の聲も此地より發生せしかば愈々斯く決定したり。原ぬるに明治三十二年頃より三十九年震災前までは、接續して來る我同胞の多數なるに起因して事業大に見る可きものあり、前途の發展期し得べき形勢なりしが、布哇嶋に住む日本人來るを得ず、日本よりも來るべからず、在留日本人は成る可く歸るべしと法三章を異痕鮮かに記したるより、先づ第一に同胞社會の頭痛は桑港在留者に起り、順次各地に波及せし所。蓋其入國人數とて多からざるに拘はらず同胞を虐待する原因は、續々渡來せし三十二年以降同胞の服裝の異様なること、此異様なる同胞を大八流の荷馬車に載せて市内繁華の街衢を引き廻したるにあり、震災後に於て所謂日本人町なるもの、軒頭、何れも淺草觀音前の奉納手拭式日本文字の大招牌を掲げて、人目を集中したるが如きに存す。事皆些細なりと雖も排斥せんとする原因他にあるなれば、別段に恠むを要せざるなり、然らば桑港在留同胞の現状は如何なる實力を示すやと云ふに、官廳としての總領事館、團體としての日本人會、或は縣人會教會を除却して、銀行二個資本金三十萬弗、美術雜貨商店四十見積資本金七十萬弗、日本食料雜貨商二十見積資本金五十萬弗、以上重なるもの、他に業務を營む者四百戸とし、此總金額を八十萬弗として合計二百三十萬弗、在留人數を五千人とし、内三千人を勞働者と看做して、一ヶ月二十弗の所得とせば六千弗なりとす。參考の爲め營業種類別を示さん。

- ▲銀行▲美術雜貨商▲小間物商▲日本食料雜貨▲書籍文房具店▲運送業▲寫真館▲醫師▲通辯
- ▲新聞雜誌▲印刷所▲料理店及び飲食店▲花庭商▲洗濯業▲旅館▲洋食店▲竹細工屋▲洋服業
- ▲菓子製造所▲花屋▲時計店▲日本賣藥店▲八百屋▲魚屋▲球戯場▲大工▲理髮▲湯屋▲産婆
- ▲桂庵▲家屋掃除業▲靴修繕業

此の如き状態にあり困點を附したる營業は其收益の大部分勞働者賃銀中に含まるゝ所也。而して何故に營業別に其個數を附せざるかは、此編各地の章に於て其在留地有數の人物を網羅したるが故のみ。言はゞ同種類の營業にして玉石同架なるが故に調査したる結果代表的人物を拉し來りて現状内容を示すにある也。しかりと雖も編者の意は人物を評論するにあらずして、長所を見て其事業的生涯を記し、後進をして奮起せしむるにあれば、編者の筆致を觀て直ちに我日本人の發展を叫ぶべからず。總論に於て記述せるが如く他人種に比較し來れば、到底及ぶ可きにあらず、たゞ三年にして赤子も三ツとなりし發展のみ。

▲代表的人物 是れより桑港に在留する代表的人物を列記して日本街の中心地及び桑港日本人の今昔を偲ばん。

不用意に無頓着に人世を看過し去れば、百年の長壽淡々水の如く濛々煙に似たり、しかあれど仔細に観破し來れば、起伏あり

波瀾あり。同じ雨にても花を養ふあり花を泥土に委するあり、時に狂濤萬丈天に冲せしむる風あり、時に疎竹を過ぎて幽かに聲を發せしむるの風あり。人の一生は豈管に重荷



を負ふて行くの數語に盡くるものと云はんや。磯野徳二郎君の閱歴は是を證左して餘りありと云ふ可し。

君は大阪市西區京町堀に生る時に明治六年四月也。家は洋傘製造販賣業を營む。君十四

歳にして東京に出で神田區小川町松屋洋品店に入り、二十一年大阪に歸り二十六年に至るまで生家に留まり、二十七年三月足尾銅山に赴き計算係となり滞在五ヶ月にして志に酬ゆる能はずして再び故郷に歸り株券現物買賣を業として三十一年に至る、同年東京に出で新聞雜誌賣捌店東海堂の計算係となる、居る事一年也。かくの如く轉々して留まる所なしと雖も未だ以て君が安住地なかりき。

しかるに布哇と小笠原嶋との間に介在する南島嶋に於ける植民事務を掌る管理人を求むる者ありしかば、君は勇躍して之に應じ其長となり、孤嶋に滞留する事三年、亡母の一周忌に際して歸阪。爾來一年間前記植民事業擴張増資のため運動したり、しかも事志と違ふて果たす能はず、茲に於てか君は男兒碌々たらんより、思ふ存分に手腕を振ひ能ふ可き米土に渡航せんと惟ひ、先づ大阪毎日新聞紙上當時連載せし米國事情を精讀し、且つ歸朝者相嶋氏等にも聴き取りて略決心したるが、十年以上同一場所に留まりて精力を集中するにあらざれば効果を收め難しとし、此目的を抱いて桑港に上陸したるは實に三十五年七月也。同月直ちにウォーナツグループに向へり、是れ農業視察の爲めなり、同處にて果物の摘採をなし、櫻府平原に出でハツプス園に就働したり、此間二ヶ月にして六十餘弗の賃銀を得たり。當時思ひらく畢竟農園に従事せんと思はざれば望なし、左らば相當の資金も調べざるべからず、知人も多からざるべからず、又英語も學ばざるべからずと、乃ち桑港に歸り、直ちに家内の勞働に従事せり、而かも僅々二ヶ月間に就働先を代へる事七八回に及びたり而して此餘暇には新世界新聞の配達をもなしぬ。しかるに不幸同年十二月病魔に冒され、翌年三月の頃まで快々として快ならず、借財の積もる八十餘弗。君はあゝに於て獨立事業を想起したり。時偶々サクラメント街三〇三九玉置靴直し所の半を割いて貸與するを耳にしたれば、其事實なるを確めて借り受け家屋掃除業を開始し、二三の同志者を引き入れ君は賄方より一切を擔當したり。かく

磯野徳次郎君

洋服部 桑港オスト街一八〇七
農園部 大和植民地

て借財の始末をつけ、或は家具を買ひ入れ、苦み乍らも略其緒に就きぬ。更らに君は父と妻を呼び迎ひ得るの運に達したり、時實に三十六年九月なりとす。其家族の來着するやラーキン街一五四三に家屋を借り家族一同と共に該所に移轉し、夫人は刺繍に巧みなればブルーム帽子製造所に招かれて入り斯術に従ひ、君は依然として前記家屋掃除業を繼續し、傍らブツシユ街紀州屋旅館の下層を借りて桂庵業を開始したり、是れ上陸後農園々主たらんごせし時に於て思考したるを實行せしものなり、しかれども約半歳にして閉鎖し、三十七年五月花岡某氏の君を尋ねて來り其職の洋服裁縫なるを以て君は君が家屋の下層を貸與し、猶君は洋服の注文取りをなして補助せり、蓋し是れ君が洋服業に身を委ぬるの因となりしものと謂ふ可し、斯くて君は花岡氏と共同此業を經營する事となり、全力を注いで其擴張を企劃し前途洋々たりしが、三十九年の震災は、君が五年間の風霜を凌ぎし財富を擧げて一炬に附し去りぬ、君當時を追想し語りて曰く『萬事休す』と、然りと雖も此嘆聲は君が不屈の胸中に十分間以上の跋扈を容さずして、非常の際非常の覺悟を有するにあらざれば人世の敗者たるのみ吾盍ぞ之に甘し得べきと奮然として起ち家族一同をして避難せしめたる後或はアラメダに王府にパークレーに家屋を搜索せしも、亞郡一帶如何にも片田舎の臭味を脱せざるの觀ありて面白からざるより桑港市中に之を求めんと奔走せし結果同年五月一日サター街に四軒の家屋ありしを發見して直ちに借入契約を整へ移轉せり、震災後に於ける家屋借入者は恐らく君を以て嚆矢と

せんか。已にして洋服店、ルーム貸し、十五仙めし、洗濯等の各事業を創設し、皆機宜に適したるより大に利を占めぬ

纏て前記の事業は一切他に譲りて植田、前田の二氏と相計りポスト街の空地を賃借して家屋を新築したる事あり、九月大和植民地設立の議唱導さるゝや君は組合員に加入して八十二エーカーの土地を購買し、今現に葡萄桃等の苗木を栽培し居れり。更らに或は大坂ミートマーケット（肉類販賣店）、魚類販賣所を設けたるあり、支那料理店を經營したるあり、人皆其多能なるに一驚を吃したり、しかも農園以外は全部他に之を賣渡して、悠々閑々たる事六ヶ月四十二年八月に至り洋服部を設け爾來今日に至れり、君曾て編者に氣焔を吐て曰く『春風秋雨幾年の間斯業に従事するものにして成功せざるは日本の所謂職人にして商人にあらざるが故なり、即ち職人肌なるものにして、顧客に對しては言語應對粗雑に流れ、且つ散財の揚句は休業に至る是れ第一の原因をなし、遂に消極的となり其日々々々を送れば足ると云ふ事に到ればなり、之に鑑み我商店は顧客に對しては商人之に當り裁縫は専門家をして當たらしむ云々』と。

渡米早々農商の二途を擇ぶに迷ひ、農園に就働したるの末ボースたらんとして能はず、商界に入りて緒に就かんとして天災に遭遇し、一時は落膽再び奮起して巨利を得。當初撰擇難を嘆きし農商二ツながらに達せんとする君が衷心の快察するに餘りあり。君の今日ある恐らくは前記の風餐雨伯の日誌之を語るもの歟非歟。

市 田 利 助 君

日本食料雜貨品卸商

桑港クレー街三百二十三番

同胞學童隔離問題を導火として、布哇轉航禁止となりしより、在留者は悲觀し寒心したる矢先、泣顔に蜂の譬の通り、經濟界大恐慌の波浪は遠慮もあらばおろ汎濫して、不景氣の嘆聲は、疾風枯葉を吹き飛ばし、坐ろに末枯の山里の秋を偲ばしめ、北米の地遂に大和民族の隻影だに留むる無きの日の、近き將來にあるかと思はしめたる三十九年以來、第一に此慘狀に出會したるは商業家なりとす。殊に日本食料品商の如きは、在留者の數と正比例をなすものなれば、踵を接して歸朝せし昨四十一年の如きは、恐らく人の知らぬ苦勞に夜の眼も眠られぬ者多かりしなる可し。おゝに市田利助君ありて兵勢靜かに傍觀したるは多とするに足らずや。君は滋賀縣八幡の人、明治十五年に小學校を出で、近江商人の風習として君は京都市山田吳服店に商業見習となり、山紫水明の地徐ろに他日の雄志を養ひつゝありしが、居る事一歳餘にして病氣の爲め歸郷、快癒の後、十七年獨立事業を企てんとて東京に出で、商業實習の必要を感じたるが故に、同郷の出身にして關東第一の蠶表問屋西川甚五郎商店の店員となり、後三年にして西川商店主庇護の下に、令兄と共同して日本橋區小網町に同じく蠶表販賣の店舗を設けたり。蓋し斯業は關東に於ける九軒に依り組織せる強固なる組合

ありて、此組合以外の者に其産地たる三備の生産者にして賣却するあらむか、組合商店は同盟以て購買せざる内規の存する程鞏固なるものなるが故に、此同盟者たらざれば事實上斯業を營むを得ず同盟員となるは頗る難問題たり。而かも君は加盟するを得たりしより、此難關を通過し勤勉日夜汲々たり。しかれども名にし負ふ西川の如き大商店にありし事とて萬般の事皆大規模に流るゝあり、且つ二十三年には令兄の病死せるあり、更らに君が大父の永眠せられしあり、何んとなく人生の無常を感じ斷然閉店に決して此旨東京の諸新聞中に廣告の上債權債務俱に一の停滯なきやう處理の後歸郷、家督を相續し、悠々として風光明媚の地に氣を養ふ事三屋霜、心機再轉して以爲へらく、長く活動を停止するは人生の常義に反すと、單身飄然北海道に渡り千熊萬様の事業を經營せしが、天運未だ熱せずして失敗に畢り、また東京に出でぬ、時實に三十七年なりとす。旅裝早々君は親戚なる東京日本橋區小網町岡田商店に至れり、是れ君が海外に身を置くに到りし原因なりとす。岡田商店主の君が北海道より來るや、君に慇懃するに海外貿易を以てし切々否み難く、同商店組合員の一人として布哇に航し醬油を主に罐詰等を副とし、業務に精勵せし事二歳、商況の如何を探究し盡したるを以て君は普く太平洋沿岸に在留する同胞の事情を知らんと欲し、三十九年桑港に上陸し、間もなく震災に遭遇して一切の企圖は畫餅となりぬ。かくて暫しヘート街青年會に滞在し、機運の一轉せしと見るや直ちに醬油及び副食物を輸入し、ブッシュ街に家屋を賃して卸問屋を開始し、幾多の

難境に處し能く今日の隆盛を致したる也。
 我日本に於て商業家とし着實にして且つ大膽なる者は近江商人に若くはなし、阿部彦太郎は即ち此典型也。聞く所によれば東京の岡田商店は醬油問屋として關東屈指の雄、君近日同商店主と内外呼應の大飛躍を試みんとす。根底確固なる自然の勢の然らしむる比較的他に比して價の廉なるも是れ今日あるの一因ならずとせんや。陳腐極まる言ながら失敗は成功の素因てふ意義は君が過去の道程と現在の進路とに照らして更らに新なるを覺ふ、君夫れ自愛せよ。



●●●●●
編輯中併三味(五)

退 步

分限者のホテル住ひや蕭衣香
 掛香や屑のころまで戻初を讀む
 日本着は蝶の翼と蕭衣香
 埃及の聖を思ふ蓮かな
 奇夢さめて探す灯や蛾の消しにけん

今井常吉君

今井寫眞館主人

桑港アッシュ街一九五〇

寫眞術の流行何ぞ夫れ熾むなる、猫も杓子もとは現代斯術界を説明するに最も適合せる言語也。しかれども誰れ彼れが新聞紙興りて文章廢ると喝破せしが如く、割合に眞意義に於て斯術の蘊奥を極めたる者の少なきは明白なる事實也。曲折變化の詩趣に乏しき米土の風光をレンズ方寸の裡に捕捉し來りて其技の妙を示さんとす談豈容易ならむや。人物撮影に於ても亦然りたゞに人間の通有性なる弱點に投じ、強ゑて眞を覆ひ商賈繁昌を本位に据え置くにあらすして眞を寫し而して拙に落ちざるは風光以上の難問題なり。編者の如き門外漢の上下すべきにあらざるが、東洋の彩華嶋なる日本の風景を寫し、變化なき面貌を有する日本人を寫すは、さまで苦しまざるべきも、茫漠として薄眠き大陸の平野を一葉の寫眞によりて其米國なるを知らしめ、悲しければ眞に泣き喜ばしければ眞に笑ふ最も表情に富む米國人を拉し來るは實に至難の事なるは察するに由なしとせじ。『太陽』誌上今井寫眞館撮影の能く撰に入るは、君が餘技たる風景也、是れ此一事君が技術を説明する所君をして斯界の代表者とす、何人も肯せん。

君は山口縣柳井町の人、明治六年を以て生る、明治廿五年渡米を企て同年パンクローパーに上陸せ

り。目的は何ぞ即ち寫眞術研究にあり。上陸早々時のバンクーバー領事能勢氏の許に在りて英語を學習する事三星霜、能勢氏の他に轉任となるや、君は別れてシヤートルルに出で留まる事一ケ年半、既に學習せし語學の力を應用して寫眞に關する化學上の智識を吸収し、轉じて桑港に來りては孤立勞働に従事したるも其目的を貫徹せんには、寫眞館に就働するを最も策の得たるものと思惟したれば、種々搜索の末、マーケット街イーワード寫眞館に入り、日本人内山某にも就て研究し、更らにハインス寫眞館にも入り研鑽せり、此間餘暇を以てテラー街に獨立して斯術を開始し、次でポーク街に移り爰に君は眞に獨立の初一步を踏み出だせり。かくの如くにして君は三十三年に至り同年歸朝の上親しく故郷の父母を省し、再び渡米前記の場所即ちポーク街に於て大に業務の擴張を劃し技術の精緻に努めたる結果今非寫眞館の聲價日に噴々たり。しかるにかの震災には身を以て免れ、三十九年八月現在の場所を借り入れ斯術の研磨に日も亦足らざる也。君曾て曰く『寫眞術はたゞ事物の眞髓を穿つにあり』又曰く『現今斯術の最も進歩したるは獨逸にして日本亦侮る可からざる勢也』と。

一以て之を貫くとは孔子の言也。君は此流を掬むの人也。一切の事寫眞術の爲に捧げて毫も惜まざるは之が爲め也。絶世の哲人王陽明にして幾度か業を轉じて支障なしと云ふ可けんも、目下分業の世は自己の職を聖とし神とし佛とし法とし道として信せざる能はず、君は之を實行したる不言の

人也。寫眞も亦無聲の詩也、桃李を拉し來りては春陽を聯想せしめ。枯葉を寫しては蕭殺を偲ばしめざるべからず。祝賀會場に泣男を配し、葬式にカツポンを踏む女を寫し出すが如きは、詩にあらすしてボンチ畫なり、而かも往々此ボンチを觀る在留者間獨り君を得て茲に紹介し得るは編者の誇とする所也。



編輯中併三昧(六)

退歩

日盛りや王良造父木の下に
明け六ツのゆり返し日の盛りかな
ハンモック體の寢床や蚊帳の中
水草を逐ふ民蚊帳の用意かな
馬に乗る移民頭や青嵐

穂積太郎君

正金銀行桑港支店長

『中機根以下の者は參禪を不可とす、去つて他力易行の門に歸入するにしかじ、爾等よ斷じて天魔禪を弄する事勿れ』此言を残して得庵居士は去來際の以前に還りぬと聞く。吾人は彼が截斷底の人なるや否やを識らず。而かも、ヤレ隻手の聲、ヤレ祖師西來の意、ヤレ吹斷し畢むぬ三千里外の燈なんど、眼前の呼吸ををすらす得せざる漢が、消閑の方法として、痴話口説と一般に取扱ふ、所謂擔糞漢の流に出頭没頭するものにあらざるを知る。乃ち善導をして佛の正意は我輩獨り明かなりと誇らしめ、愚禿親鸞をして、驕慢の惡衆生と憐愍せしむる群裡の者ならざるを知る。彼は確かに角煙を見ずして、牛火を捻提し來り得るの士也。

機鋒絶倫、擒縱自在、自ら號するに維摩を以てし、宛然孤狼寒月に嘯くの趣を有せし、彼にして此言を残して近く。吾人尙かに按ふ、碌々子擾々輩、畢竟するに、箇中に腐敗するを。實業界に於ても亦然り。規矩準繩を墨守して、算數の稱名念佛を唱へ、一心一向に本尊如來を頼み參らせば、過誤無きに、下々の機根を有する赤凡夫、乱りに誓願を無視し、縁なき者となるこそ淺ましけれ。穂積太郎君は、正金銀行桑港支店長也。而して正金銀行なるものは、矢の己に新羅に走りしを返さむとする士を養成するの學林にあらず、又支店は機外の機を捕捉せしめむが爲めに設けたるにあ

らず。本店の營業方針を根城とし、之に背反するは、謗法の外道として、一步も譲るなくんば、期せずして百味の飲食供はれる彼岸に到達し得む。吾人は穂積君を以て得庵の如き人なりと認むる能はず。蓋し君は銀行社會の一向宗に屬する人歟。

前桑港支店長戸澤鼎氏は、樹上の鳥だに飛び去らざる、棒喝を振り翳して、瘡毒に罹り、支店をして骨までも絡縛せしめむとしたり。第三期に入れる梅毒を根治せんとするには、快刀を揮つて天馬に跨る人よりは、患者と根氣の競争を爲すの人を要す。此適役として赴任し來たれるは穂積君たりとす。

一昨年末より、不景氣てふ經濟界の乱潮は、在留同胞社會を洗ひ、一縷の希望を正金支店に囑したるにも係はらず、冷々然相知らざる如く、怨嗟の聲擧がれるも、白眼安然たる所。金門銀行の支拂を停止するの休むなきに到り、延いて同胞社會の人心を動搖せしめ、領事館亦事大なりと目睹して長文の電報を主務省に送り、在留の巨頭公、正式に救済を持ち込みしも、斷然頑として應せざる所。君は血涙なき冷酷氷の如き人なるか。あらず。爲替銀行に候と主張する道心堅固の凡夫也。正金銀行を守り本尊として徒らに花の色香に迷はぬ士也。戸澤の後を受け超然世外に高擧して餘念なきの状を見る、君は無策の策士也。無智の智者也。

吾人曾て東部在學中、一ツ橋の煉瓦校舎を目するに、人間と稱する機械を製造仕る本家を以てし

たりき。君にして唯前記の如き能力より外無しとせば、君は正金銀行の総勘定元張の一部たり、將又貸借對照表に捺印する一人たるに過ぎざるのみ。然りと雖も、彼の山猿連中が、空を捫り響を追ふて、夢に狂奔したる際、專擅に類せる在米日本人會に黨して動せざる所、念佛庵主嚇怒居士品川彌二郎に彷彿たるを偲ばしむ。豈這般の木強漢と同一視すべけむや。其跼蹐たる態度は、偶々日本帝國と密接の關係を有する正金銀行を本位とするに依るのみ。

君は三河の産、明治八九年の頃、佐賀縣人松尾儀助、同縣出身の誼を以て、大隈伯の保護を受け起業共立會社を設け、紐育に美術雜貨店を開業せしが、君は十九年前後同店の店員をなし、後米國某大學を卒業したるを聞く、吾人は君の經歷を知る此以外に出でず、故に此編の主意に反したる筆致を招きたる所以なり。

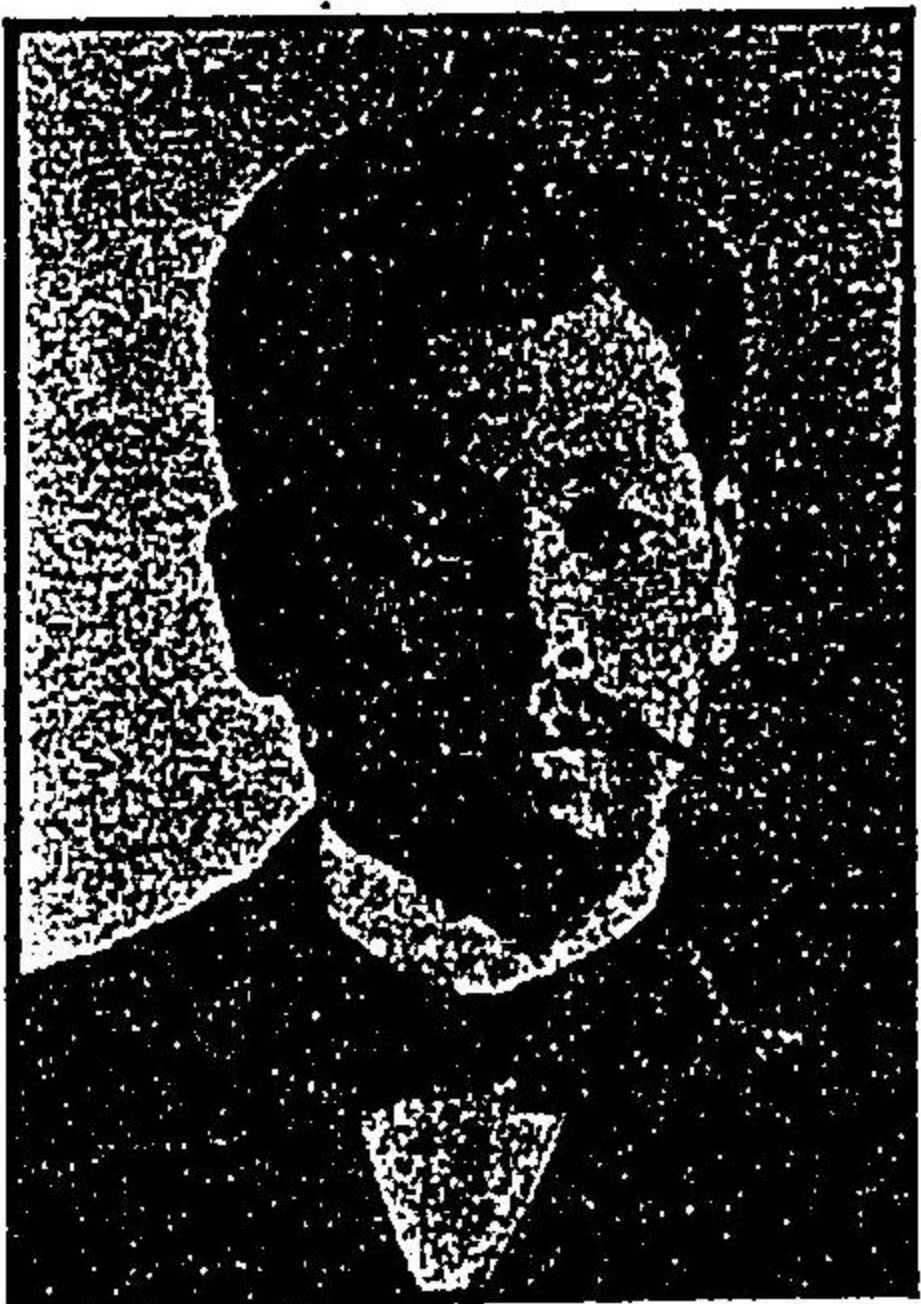
我在留社會、人物を以て擬せらるゝ者、多くは六窓々裡の一獼猴のみ。此間卓然として、造惡海中、弘誓の舟に棹す君も亦偉なる哉。



橋本修吾君

桑港ガール街一六一五橋本病院長

橋本修吾君は岡山縣岡田町の人、明治二年に生れ、八才にして同縣下(川面)に在りし進祥山の塾に入りて漢籍を學び、居る事五年、十四才東京に出で、川田塾に普通學を修むる二年餘、轉じて濟生學舎に入り二十一年全科卒業の上、翌二十二年四月内務省の試験を受けて登第し、開業免許となり、爾來濟生學舎の幹事として、其職に在る事七星霜、此間同輩出身者を取扱ふ事三萬人以上に及び、三十一を卒業して、醫學士の稱を得、桑港震災後現今の家屋を借り入れ、病院となし、病室を造作して專心患者の治療に従ひつゝあり。是れ君が小傳なりとす。



人に尙ふべきは、其職務に忠實なるに在り。自己の本領面目を度外に措きて、餘技に渡るは吾人の視て以て山師とする所。一匙苟も謬れば幽瞑處を異にすてふ人命を掌る最高の職業にして、且つ

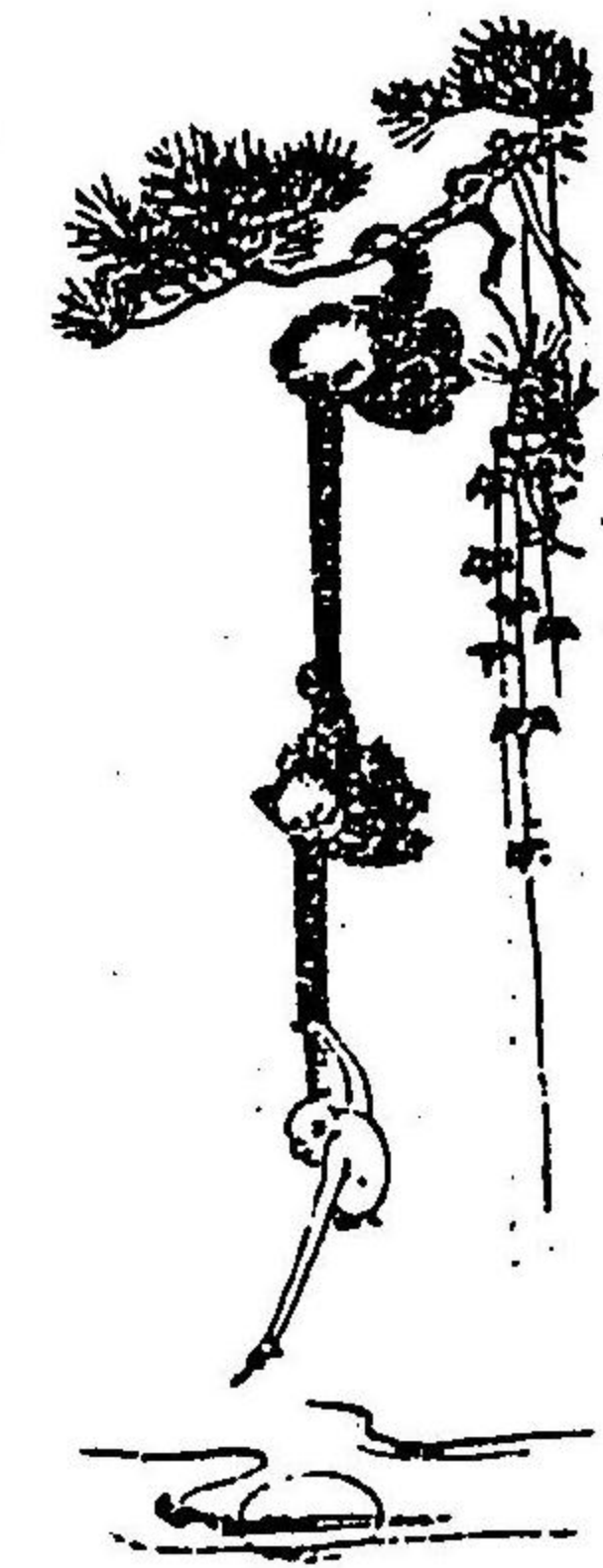
尤も尊敬さる、醫家の如きは、按腹に、診察に、實驗に、學理に、寸毫の違算無きを期せざる可らず、何の暇あつてか、餘技を弄するを得むや。橋本君は此點に於て好箇の刀圭家也。心を潛めて日夜患者の爲めに苦心焦慮する、在留社會罕に見る所なれば也。朴々たる風貌一種莊重の氣を帯び、飾らざる邊幅、掬す可き温情を湛わ、而かも其診察室及び治療所に在るの機械は、大金を抛て購ひし精緻なる物、大略整然たり。安心して治療を受けしむる寔に故なしとすべからざる也。

君は前記の如く、本郷鎮臺、ペランメー將軍、長谷川泰門下の高足也。彼長谷川は醫界の政治家也。智者也。濟生學會を設立して幾多の醫者を全國に供給したると同時に、幾十萬の黄金を積み。一度専門學校規則の發布に會ふや、二一天作の五を考慮して平然校舎を閉鎖し、未來の國手先生が方向を辨せずして、五里霧中に彷徨するも相關せず、茗溪の邊り洒々然として口に六識六根の清淨を説き、風薫る夕べは、獨り出門一笑して小蘇の家に到りて小酌する度量猶才を有する者也。彼は決して聴診器を執り脈搏を數ふる眞面目漢にあらざる也。聞く橋本君の幹事として同業に在るや、大小一切の事、僉君を煩はしたるものなりと、人は四邊の情況に染まざるを期して、仍ほ且つ、幾分か其感化を受けざるはなし。佛教を説くに拳骨を固め、例に女を擧げ、飢れたる狼の如き口調を以て長廣舌を弄する彼の許に在り乍ら、斯の如く慎重なる之亦君を珍とするに足る。

「世人の多くは獨逸を目指すに、醫界のオーソリチーを以てすと雖も、學問上の議論を立つる組織

は兎に角に、予は佛國の醫界を最も重大視する者也。又日本斯界の進歩を説く、凡そ如何なる者も其國々の經濟狀況に正比例して發達するを知らざるは愚也。我日本の如きは精巧なる機械を使用するの資力乏しきより、外科手術に於ても、可及的簡單なる機械を以て治療するに發達し、此米國に到ては出來得るだけ多數の機械を使用するに進歩し居れり、現に室内空氣消毒の方法をなし得るが如きは我日本に有らざる可し云々」と、以上は君が編者に直話せられし一節なりとす。

君は昨四十一年、日本より令閩を迎へられ、其披露の宴を一大ホールに開きて、時人を吃驚せしめたりき。此俗界に屬する一事は、是れそもく君が師たる長谷川の膽氣に學ぶによるか、將又天稟に依るや。何れにしても、在留社會刀圭家由の珍たるに足ると謂ふ可き也。



布哇轉航禁止以來、直接に打撃を蒙りしは桑港の邦人を得意とする商賈也、此商賈の中最も苦痛を感受せしは旅館業者也、三

十九年の震災を物ともせず、家屋を新築して、捲土重來の勢を以て進まんごせし、日本埠止場附近の旅館は更に最も甚だしき苦痛に接觸せり。漫

に先見の識なきが故なご道ふらん。桑港に現在する商賈を以て相應の實力ありごせば、之より歸納してサウスパーク附近に於て爾來繼續今日に至れる旅館業者の實力を認めざるべからず。こゝに玉吉馬場君を拉し來れるも即ち如上の理由に他ならざる也。

君は廣島縣安佐郡八木村の出身、明治七年を以て生る。十三才にして商人たるを志し、僅に五十



馬場玉吉君

馬場旅館主

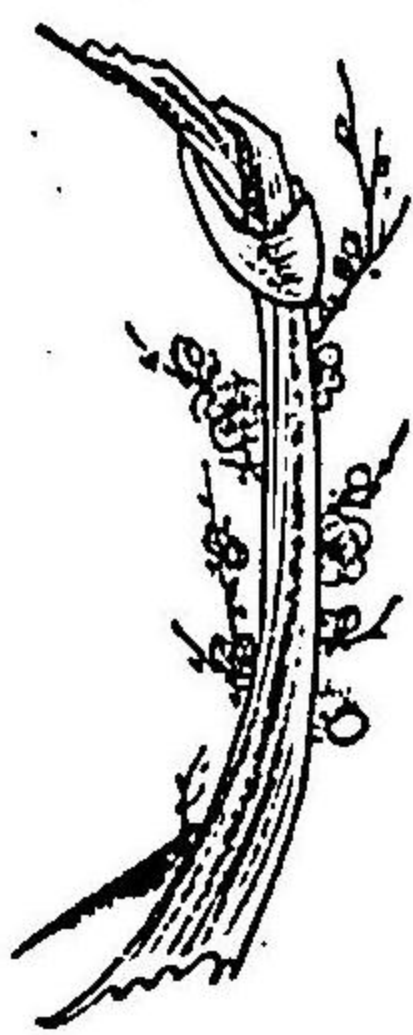
桑港サウスパーク百七十一番

を休めよ。所謂在留民中智者なる人にして學童問題解決の末、急轉直下して、彼の轉航禁止の來るを豫想し能はざりしにあらずや。地を代へて轉航し得る事依然たりごせば如何、敢て説明するまでもなか

錢の資本を親父より貰ひ受け行商をなし、資稍々増殖するや、漁撈網を四方に供給して、奇利を博したるより、勇躍して喜び、業に精勵する事數星霜、二十七年日清の風雲甚だ穩かならざるを目睹し農夫亦干戈に及ぶ可きを機微の間に察して、乾魚類を購入したるに、果せる哉、間もなく宣戰の詔勅降下して、龍車を親しく廣島に進ませらるゝあり、大本營をよゝに移轉あらせられ、軍政を覽はせられしかば、君は巨利を得、商戦場裡慶殺を恣にし得べかりしが、惜むべし海魚網に鈎らず、不漁又不漁の間資金の更らに廻收し來るものなかりしを以て失敗に畢りぬ。已にして日清の役も熄み平和克復して我大和民族膨脹の機運至りしかば、君も海外に雄飛すべきを企劃し、地を北米ご定め遂に實行せしは明治三十一年十一月ごす。桑港に上陸せしも言語不通の爲めアラメダ郡マウンテンの塩濱に至り、製鹽作業に従ふ事六ヶ月にして、フレズノに赴きテラー氏の農園に就働する事半歳、約一千五百弗の貯金を獲得して、迎妻の爲め一たび歸朝再渡米し、三十三年六月、桑港ジエッシー街に旅館を創立し、名付けて馬場旅館ごし、業日に月に盛大に赴きしが、三十九年の震災に逢ひ、一身ご病の床に臥しつゝありし愛妻ご家族ごを殘すの外は皆祝融氏の甜むる所ごなり、逃れてオークランドに至り、現在の地の頗る適當なる場所なるを感じ、新築して再開業したるなり。君が開業して間もなく、日本人排斥の聲全加州の地に浴ぐ、邦人洋食店を破壊するの劣等なる労働者ごへ現はるゝに至り、學童問題を導火線ごして、無慘同胞が活氣を添ゆる唯一の呼吸器ご頼みし

布哇より渡航し得たる移民の禁止となり、茲に大恐慌を惹起し日本人社会何處も同じ秋の夕暮の感あり、中にも君の如き旅館業者は霜枯三月の光景、いと哀れなりしが、斯くて有る可きにあらざればと、勇を鼓舞して、労働者をば各田園に、鐵道作業に送り、且つ君が夙に所有せし、フォールトンの田園(二百エーカー)に送りしを以て此苦境を凌ぎ、猶前途大に劃策し、發展せんと期待し得る所たり。

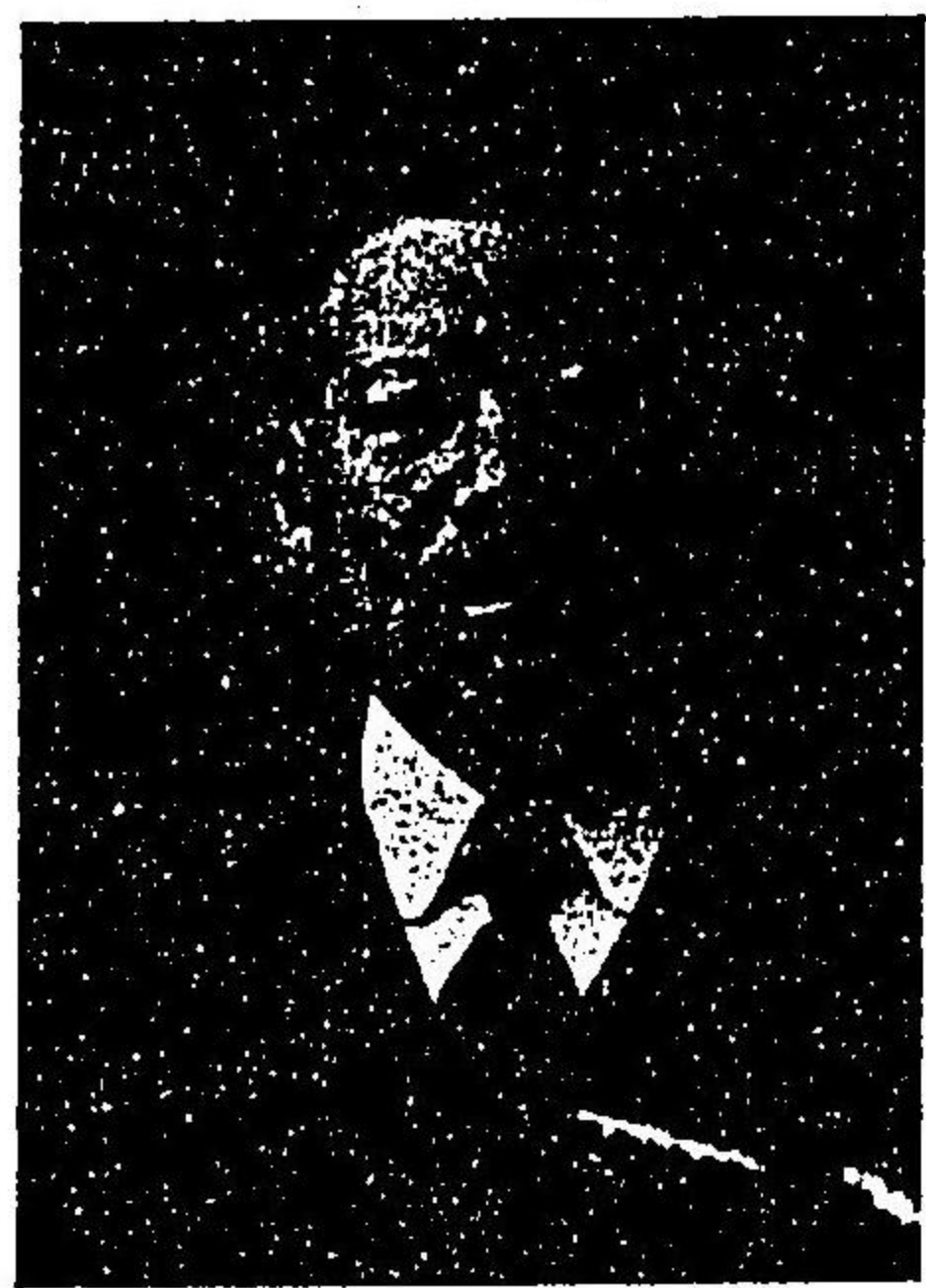
君の公的生涯として記す可きは、桑港日本人旅館同盟に評議員たるのみ。しかも君資性快活、加ふるに客を取扱ふ親切にして俠氣を帶ぶ、故に板一枚下は地獄の青海原に半ヶ年の生活を營み、やゝもすれば殺伐に流れ易きアラスカ人夫の如きも君に服して大爺の尊號を呈し、蹲居して従順猫の如し、君も亦人物なる哉、是れを君が小傳となす。



荻原真君

金門公園チーガーデン

金門公園に遊べる者にして、チーガーデンを観ざる者は恐らく無からん。眼眸に入り來る四邊の光景皆米國式なるが中に、古色愛す可き東洋流の寺門は恰かも柳暗花明十萬戸を過ぎ三家村裡秋風に吹かるゝの思あらしむるもの即ち外人にはチーガーデンと稱せらるゝ荻原公園なりとす。日本風の庭園の所々に喫茶店を設け、眞の日本茶の趣味を解せしむる筈に雅なりとのみ云はんや、利なりとのみ



横濱にて〇キと屋號し名ある生絲商なりしが、君の十五歳の時白玉樓中の人となり、君大に落膽せしが斯くて止む可きものならねばと、當時の禁を犯して旭日旗を船に樹て横濱に商をなし發見されて公事を起し、後甲州に於て製絲場を経営する事五ヶ年、普く日本國中を遊歴し遂に北海全道を踏破して函館に出で漁船の桑港に向て解纜するに會して、之に乗り込み一帆直ちに太平洋の風を桂て

謂はんや。儘かに日本を紹介するの一助たるを疑はず。編者は此公園内喫茶店の主人を紹介するの義務ありと信ず。主人公とは誰ぞ、姓は荻原名は真君、出身は山梨縣東山梨郡平等村なり。先考傳助氏は

桑港に着するや、其船長の妻より二十五仙を貰ひ受けて逃走しぬ、しかも當時君の服装如何と云ふに餘りに香ばしからぬ日本服の事とて注意を引き、路傍に於て巡査の見る所となり、親切にも査公はダンプクロ一着を持ち來りて君に與へしかば君は大に喜びて之を着けたるが、知らぬ事と心急くまゝパンツを前後に着たるのみならず、短少の君に長大なる古着到底相應するものにあらざるより止むなく日本着の兵古帯を以て腰邊を縛り付け、走りに走りに公園に潜伏しブレットを嚙り乍ら露命を繼ぎ以て逮捕を避れたり、かくて二三日を経過するや在留邦人の知る所となり下町に在りし某下宿屋に連れ行かれぬ、是れ明治十年前後に属す。偶々八百哩を距つる田舎に勞働口あるにより行く可きを慈愼せられて之に赴き月二十弗を以て三ヶ月間居り桑港に歸らんとして逃走せり。然るに路を失して印度人の部落に至り、林中漸く毒を喰ひて凌ぎ、遂に貨車に飛込を得て歸桑し、テヅロンの干鰯製造所に就働し、主人より北海道に於て其製造所を起す可きを勧められ、約略は纏りたるも船舶破綻修繕の爲め中止となり。船員の料理人として船に乗込み月六十五弗を得たる後、日本料理店大和屋を始めたり、是れ蓋し邦人料理屋の先祖なりと謂ふ。

斯の如く君が閱歷は傳奇的にして之に文字の絢を以て着色せば儘かに一片の小説たる可き也。二十五仙の銀貨を貰ひ、ダンプクロを巡査より惠まれし當年の素寒貧は月に六十五弗を取り更らに一軒の主人となりしより歸心矢の如く遂に加州産鶏を手土産として携ひ、思出多き横濱埠頭に至れり

しかるに鶏を所望する者頗る多く暫時にして夢の如き利益を得、幾多の知人と憧がれし親族等を訪れたる上再び桑港に來り王府に於て料理店を經營して失敗に終り、偶々香港博覽會の開設あり、市公園掛に向つて君は日本喫茶店の開始方を請願して許され之に着手したり、然りと雖も多くの白人は皆如何にして飲む可きを知らず、故に君は種々なる方法を講じて之を知らしめ大に日本茶販賣の途を促進せり。是れ即ち萩原公園の起源たりとす。元來公園内に於ては南京豆一個だに賣却するを許さざる規定なるに拘はらずチーケーキと稱して煎餅を茶に添へて日本風俗を紹介しつゝあるは是れ君の功なりと云ふ可し。猶君は同公園附近のエチ街に二百四十尺と六百尺の花園を所有し内外の花卉を蒐集栽培しつゝあり其規模の大なる恐らく此右に出づる者なかる可き也。

四十年四月南米ゴオテマラー國に於て日本の庭園を作らんとして其指揮監督者を探索せし末、君の之を能くするを知り同國大統領は懇望して已まざりしかば、君は應じて同國に至り七百尺に千二百尺の日本庭園を作りたる上、滯在中博覽會の開催あり爰に亦之を作りて褒状と金牌とを贈られ猶茶を賣弘めて歸桑し、昨四十年よりは親族の一人萬太郎氏を同地に送り居れり。

君公共的事業に關しては前には日本人協議會の評議員たり、現には君が主唱の許に設立せし山梨郷友會の會長也。

弱冠にして父を失ひしより五十三歳の今日に至るまで殆んど他の歩み得ざる徑路を走りたるの君意氣の旺盛なる壯者を凌ぐも故無しと謂ふ可けんや。好漢夫れ自愛せよ。

海東盛太郎君

アラスカ鮭罐詰人夫受負業

論語を講ずる者は仁者、佛教を云々する者は佛弟子、祈禱を捧ぐる者は博愛者と決定し居らば人は太平無事ならん。然りと雖も斯の如くなれば曲折變化の妙趣無く、平淡無味なるに倦怠する必定とす。王侯將相何ぞ種あらんやと放言せしは、事に激したる一時の感嘆詞ならんも、

或る意味よりすれば又人生の變化窮り無きを説明したりと見るを得べし。幾多の年月を経過するも南瓜の蔓に茄子の



くありてこそ世の中は面白きものと謂ふ可し。

君は茨木縣新治郡土浦町の人、老西郷が城山の露と消えたる明治十年に生る。郷塾を卒へ水戸中學に入り、業成るの後東京工業學校(東京高等工業學校の前稱)建築科に入り、卒業せしは二十八年なりとす。東京府の技師となりて各地方に出張する事二ケ年。勃々たる覇氣禁する能はず、北米に

實らざるものとせば、人生の一半は是れ枯木寒巖、遂に活氣を喪失して滅却するより他無けん。工業學校建築科を卒業せし海東盛太郎君のアラスカ漁業罐詰事業に従ふて成功せる寧ろ人間社會の狀態、か

望を嘲して建築業視察を名として渡航したり、時に三十一年也。上陸の當時にありては君とて夢にだも日東海國の男兒を引卒して極北の地に白帆を挂らしむると思はざりしなる可し。君とて他と等しく學僕となり、家屋掃除となり就働せしは變る事なし、然るに君はコールビルディング内に事務所を有せしダンなる者に雇はれて建築用の圖畫を作成する事となれり、而かも君が得意とする此業は君が活計を償ふ事能はざるより、再び勞働に従事せんと決してナトマに赴き、當時竹崎屋吉氏經營の田園に入り居る事二ヶ月にして歸桑酒卷幸佐氏と相識りぬ、時に三十二年とす。氏と相知るや君が生涯は一轉したり即ち同氏と共に、世人の最も冒險事業として危懼したるアラスカ鮭罐詰事業入用の人夫を供給する事となりしは之が爲めなればなり。己にして二回の航行は失敗に墜りしが不撓不屈、遂に三十七年にはアラスカバックス會社と直接契約を訂結し、依然として酒卷氏と提携し専心斯業に従事したる功空しからず、爾來好成绩を擧げ得たり、邦人斯業者中酒卷海東を知らぬ者は恐らく一人も無かるべし、而して編者は此點に就て酒卷氏の小傳に聊か詳記したるを以て略し、唯一事の記す可きは、アラスカの一語、人をして鬼胎を抱かしめし此業をして今日の如く秩序ある組織とせしは、君の力與て大なる即ち是れ。君編者に語て曰く「アラスカの事業に就て、兎角の批判を招くは決して故無きにあらず、其原因多々ありと雖も畢竟するに多年の宿弊は一、一攫千萬金を夢みたる是二、何等の制裁なかりしものは三、而して其最大原因をなすものは間接受負即ち支那人

の配下に屬せしに據る所是四也』。

社會百般の事業何れも其創設の際に當りては一害の伴ふは免るゝ能はざる所。比較的健全なる可き銀行すら往々にして破綻を來すあるを以ても明瞭なり。況んや新開地の氣風未だ消磨せざる土地真に板一枚下は地獄の青海原に往復二ヶ月間生活するアラスカ漁業に於てをや、此人夫等を律するに陸上生活を持続して縛せんとするは俱に當世の務を談するに足らざる腐儒の徒と謂ふ可きのみ。而して此難事をして徐々光明の境界に導きし者に對しては寔に感謝すべき也。編者は此點よりしても君を紹介して榮とする所なり。

君容貌魁偉、一見木強漢に似たりと雖も、祖藩の遺風を傳ふるものか、仁俠克く他の難に赴くを辞せざるの概あり、是れ動もすれば殺伐に流れ易き人夫を御し得るものならん。年齒漸く而立を超ゆるのみなる君が今後は容易に端倪すべきにあらざるべし。



香 川 常 吉 君

日本酒輸入事業香川桑港支店
桑港コンマシヤル街四一



の口より邦人の米國化を稱へざる事の一日だも思みしを聞かず、しかれども此聲は概ね小川亭大黒屋其他あらゆる日本割烹店の樓上より漏れ來るぞ面白き。純良なる日本清酒の杯を啣んで日本人の米國化

在米同胞は二様の矛盾せる精神界の影響を蒙り居るなり。陛下聖壽の無量無窮ならんを祝し奉る天長の佳節に際しては天孫人種なるを自覺して、吾は日本帝國の人民也と呼號し、獨立祭に當りては晚鐘數杵天下に自由博愛平等の眞骨髄を示したるワシントンの遺風を欽慕すること是也。而して我同胞

を説く是れ驚く可き矛盾にあらずや、しかも此矛盾の存する所茲に千古不磨の大和魂の存する也。此清酒を想起する毎に桑港の香川支店を連想する在留者の尠少にあらざるは蓋し眞の日本酒を販賣するに由る所。茲に紹介する常吉君は同支店長也。

君は廣島市天満町に生る、幼より温順にして篤行、中學に在る事四ヶ年、渡米の目的を立て上陸

したるは明治三十年四月なり。同郷の出身田村徳之助氏方に在りて英語を習得し、勞働より得たる學費を以て更にヒールド商業學校に入り卒業したるは三十五年十一月也。現今こそ簿記の一ツも知り居れば邦人商店に店員たるは六ヶ敷き事に屬せずと雖も、當時に在りては容易のものにあらずしが、在學中君等の主唱によりて設立されたる廣陵俱樂部に在りて勉學の餘暇野球等の運動に身体の鍛鍊を努め居りし際神川理一氏の弟幸一氏の研學の爲め來り投じたるが君をして幸福ならしめたる也。乃ち君をして商業實習の大學に登らしめたる所以也。君卒業するや神川兄弟商會に入るを得たるは、早く幸一氏の紹介にて理一氏と相識り居たるが故也。帳簿の整理より一切の店務を掌握し居る事一ヶ年、君が商業の如何なるものなるかを解得したるは實に此時にありし。聞く君の同商店に在るや精勵絶群儕輩等しく驚嘆せしと。かくて三十七年五月西村脇本事務所の鐵道事業受負を契約するや君は懇請されてワイオミング州シャイエン市に設けたる事務所に入り留まる事一ヶ年にして偶々故郷より叔父寅吉氏日本酒を携ひて來るに際會し、遂に君は香川商會桑港支店を設置すべき運命に接したり。蓋し寅吉氏の日本酒を輸入したるは獨立して店舗を開くにあらず、たゞ見本として持ち來りし位のものなれば、他店に賣却せんとしたる也。しかるに他の問屋は相聯合してか、それかあらぬか相談に應せざりしかば、氏は略其策略の氏をして困却せしめたる上踏倒し値に賣らしめんとするにあるを看破し、あゝに奮然として日本酒卸賣の招牌を掲ぐる事となりし也。即ち常吉君

と相計りコンマーション街五七一に香川桑港支店は生れたる也。時に三十八年とす。爾來君の業務に熱心なる日本清酒販賣専門を以てしては頗る艱難の時なるにも拘らず、灘山邑太左衛門醸造の荒牧屋正宗の一手販賣を特約するあり、かの震災に遭遇し一時リツチモンドに避け三十九年九月現家屋に再び開業したるなり。これより先き副嶋八郎氏の經營に係る日本清酒醸造會社の失敗に歸するや、植田、光勢等の諸氏より懲慙され叔父寅吉氏が斯界に多大の經驗あるを幸ひ、之を引き受け醸造所をエメルビルに移轉して着手せり、而して良好なる結果を得しかば辨天正宗と命名して市場に賣出だし前途望ありしが、寅吉氏は一家の都合上歸朝の息むなきに立ち到り、遂に之を廢止したり。聞くに君が取扱ふ清酒一ヶ年の賣上高は十萬弗を昇降すと。君は年齒未だ而立に達せず而かも其商機を捉ふるの敏活なる老成の商人をして舌を卷て嘆せしむ、且つ英語を練る頗る流暢。君の如きは邦人社會稀に見るの商業家と云ふ可きなり。宜なるかな藝備人産業組合の専務理事にして櫻府銀行の取締役たるや。君がアラメダの住居の如き數千弗を投じて土地と共に購求したるもの清新の氣四隣より迫り來りて一日市塵に塗れし俗腸を洗ふに足る。編者は矢大臣の獎勵論者にあらずれども、純良の清酒を傾け盡して異郷正氣歌を唱ふるは決して害毒を流すものにあらずるを信じて疑はざる也。否精神界に貢獻する無しとせんや、香川常吉君を紹介する序に斯の如しと云爾。

海田豊三郎君

桑港ケリー街千五百十四番
デントタルメカニツク

浮世は永久也、一生は短縮也、十歳の青春公に孤負すべからず、謠へや歌へ手拍子揃えて花やか
にと踊り狂ふ者、古往今來何
ぞ限らむ、しかも現今程是の
如き不健全極まる思想の傳播
せし事有史以來未だ見ざる所
也。人は云ふ明治の世は元祿
時代に彷彿たりと、しかれど
も如何に寛活伊達を競ひ、細
ます、道徳を云々するを嘲弄して人倫は骨董販賣の店舗にて取扱ふ可きものと思惟する事を。此間
に在りて卓然時流の外に挺むするの人ありとせば偉となさざるを得ず。是れ編者が茲に豊三郎海田
君を紹介する所以也。



君は山口縣玖珂郡新庄町の人、明治二年二月を以て生る、幼にして郷校に學び、長じて當時山口

味の大小に金銀を填鏤して青
樓に通ひしとも、彼等は公々
然にはあらざりき、士てふ階
級は嚴として秋霜烈日の如く
存したりき。而かも見よ今は
相場町一朝の順流忽ち王侯と
奢を争ふも、人之を見て恠し

縣獨眼龍の稱ありし白井小介氏の塾に入り、學を卒ゆるや助教授に擧げられて母校に教鞭を執り、
更らに山口に出で訓導の免許狀を得て爾來育英の事に従ふ、既にして大勢の赴く所を察して渡米、
晚香坡に上陸したるは實に二十六年七月なり。曾て君が同郷の人よりして聞くに君の青春時代は其
勤直方正なる又苦心のたゞならざる隣里の人々をして驚嘆措く能はざらしめたりと。君は上陸後間
もなく桑港に來りぬ。君の渡米と決したる當時の目的は、半貯蓄と半研學にありしかば齒科醫とな
るの最も適切なるを知り、マーケット街一〇〇一に治療所を有したるバンブルーム氏に就て孜々之
を學び、今日猶同氏の許にあり。バンブルーム氏は現在四ヶ所の治療處を有して著名の斯術大家也
此大家が二十六年以來君をして他に轉ずるを許さざる、一班已に君が技術の凡ならざるを知るに足
る。約十有六年の歲月を同一の家に力行勉旃する君の精力豈偉とせずして可ならんや。朝に就働口
を得て夕に浮浪の身となり、春風秋雨幾年の間、桂庵の裡に電話の鈴聲を待ち、金門灣頭何時エブ
ロン姿を改め得るの豫定無き徒輩や少しく君が此行に鑑みて慙死すべきなり。君はかく一方技術の
深義を研究したると同時に、積錢亦寡少にあらず、餘慶は亞米利加物産會社たり、クレー街六四九
には石水氏と共同してポントン洋食店を經營し居れり、ポントンてふ名はストーチ博士の考案に拘
るものなりと、事繁梅に似たるが此洋食店は將來頗る好望なる地位を有し居るが故に家賃の如きも
二百弗を支拂ひ居れりと云ふ。君性銃獵を好み其期節に入りて閑暇だにあれば、郊外に出で、氣を

養ふ。而して君の辯説は在留者間の珍にして、壯重森嚴遺憾なく君が性格を發揮し、君を知らざるものをして舌を巻かしむ。

桑港人心の腐敗や實に我日本現下の比にあらず、在留の同胞も亦隨て然るものあり、名徒らに美且つ大にして實更らに無く、聲のみ高くして肚腹空々、人を欺瞞するのみを策士と呼び、智者と云ひ、外装を華やかにして無暗に有志家振る輕薄才子を紳士とす等、乞食にして綾羅を纏ふたる者擾々たり、此風尙を白眼にして、自己の本領を守り有志家てふ馬鹿騷ぎを敢てせず、悠々たる海田君の如きは、寔に是れ得易からざるの人物なるかな。

田尻 宇作 君

熊本屋旅館主

桑港サウスパーク五六

三四年以來桑港同胞社會に於て時々吾人の耳底を透れる語あり、不健全分子淘汰説是也。吾人之を聞く毎に思ひらく眞に是れ用の無用なりと。直情を述ぶるを容せば猶額大の同胞社會如何にして健全と否とを區別し得るや疑はしければ也。人事界の叫聲は其大半常に用の無用をなさざるはなし然るに自然界淘汰の理に到りては人事經濟社會にまで波及して、其根底の薄弱なる者は遂に滅亡を

迎るゝ能はざる也。即ち天然は公平にして實力を有する者最後の優勝者となる所以なりとす、吾人之を稱して無用の用と謂ふ。此天然の公平なる淘汰ありし後適者として存在する者は、孰れも皆現在に於て存在の價值を有する者と云はざるべからず、しかも階級は人世の常、優の優なる者を選びて紹介するは吾人の任也、茲に田尻宇作君を記する乃ち此理由のみ。之亦無用の用歟。

君は熊本縣熊本市の人、明

治十二年を以て生る。少にして商に志し時々米穀取引所に出入して隣里の人を驚かしたる事もありしが、一夕郊外に散策して地方の規模到底我志を伸張する能はざるを感じ、

たるを農園所有主より認められセコンドボスに採用され、續々入り込む邦人労働者を使用し果物詰込の練習をなさしめ利する所尠なからず、偶々フレスノ地方葡萄摘採事業の有益なるを聞きて此處に赴き、氣候不順の爲め熱を病みて桑港に出で治療せり、故にフレスノ行は失敗に歸したり。かくて全快後は桑港に在り夜間労働に服したる事二ヶ月、鐵道人夫受負協本組を経てアリゾナ州フラグ



成功を海外に期して渡米と決し三十二年グイクトリアに上陸し、事情の通せざるより同地の農園に就働したる後三ヶ月にして櫻府平原ビッグスに來り同縣人津田伊之吉氏の受負農園に投じ、忠實に労働し

スタアフ(同地は桑港より八百五十哩あり)に赴き就働したり、しかるに食料の粗悪に起因し。労働者の紛擾を醸したれば君は去て附近のホテルにポーター(掃除人の一種類)となり、停車場に客引きをなせり。同地に來る宿泊人の多くは東部諸州の商賈なれば、概してホテルに陳列室(サンブルーム)と稱して日本の旅館には類なし即ち商品陳列室也)の有無を聴き訊すを常とす故に君は見本入りの大砲の運搬等をなして外人客引と競争したる結果、体力に於て遙かに彼等外人に及ばざるを以て身軀綿の如く疲勞せるにも屈せず、日々午前六時より午後十二時に至るまで粉骨碎心の忠實を盡せしより、所得の金銭も意想外に多額に上りたり、しかるに君が従弟に當るの人のアリゾナ州ウインズローに客死せりとの報に接して同地に至り葬儀を終結せしめ、白骨を故國に送附せんとて懷中の所持金をば使用せずして之に當てんが爲め或は徒歩に或は漁車の飛乘りに、漸くにしてロスアンゼルスに出で、此目的を達し再びビッグスに來り止まる事數ヶ月、時に桑港の同縣人にして熊本屋旅館を經營し居れる桑原信五郎氏よりの書狀により、桑港に歸り茲に君は此旅館を引受くる事となれり。是れ君が今日の熊本屋旅館の濫觴たる也。

君が此旅館を經營し初めたる時には我同胞の渡來者便船毎に一千人より二千人以上なる事もありしかば其多忙名狀すべからず、且又同業者間の紛紜あり、競争あり。しかれども此時代の旅館収益は又従つて大なりしは吾人の實見に徴して斷言するに躊躇せざる所、事態斯の如きを以て君は宿昔

の志漸く緒に就きたりてヘート青年會細貝富十郎氏の媒をなすありしを好機としてストリジ博士夫妻の立會の下に木村うめ子嬢と華燭の典を擧げたり、是れ君が現在の夫人也。うめ子嬢は元帝國大學総長たりし木村氏の令姪に當り、教育あり基督教信者として信仰心の厚き婦人なるが一度び君と結婚してより、旅館の妻君として孜々營々布哇よりの轉航者、鐵道人夫等を待つこと一見教育ある婦人の如き振舞なく、且つ夜間も二三時間以上は君の夫人をして眠に就くを許さず、爲めに懐胎時に於ても事務所の椅子に假寝の己む無き事幾度なるを知らずと云ふ。蓋し其の如きは同旅館が廣く田園に鐵道に労働者を取扱ふに原由する所、殊に隣家を賃借して三層の煉瓦造となして客室となしたれば也。しかも三十九年の震災に類焼の結果王府に到り、所持せし五百金を以て熊本屋旅館を再興し、當時の避難客に向つて大なる利便を與へ、三たび桑港現在の場所に新築移轉し、業日に盛大に赴き富鉅萬を成す。夫人語て曰く『妾等が結婚して凡そ二ヶ年間は苦心慘憺の狀口舌の盡す所にあらず今にして之を思へば只だ戰慄の外なし』と熊本屋旅館の盛名の一半は慥かに夫人に負ふ所君今現に共同消費會社の重役及び市内有数の銀行の株主並に旅館同盟の會計たり、君の資性圓滿且つ親切なれば、各地よりの労働者にして出桑する者の君の許に投宿するは之が爲めなり。君一介の労働者に身を起して今日を致したる慥かに成功したりと謂ふ可し、邦人商賈人等の競ふて物品を供給せんとするは君が信用を確認する尺量たらざらんや。

龍野 鉦次郎 君

桑港アキヤナン街一六一五
日米物産商會主

桑港は世界各國人の合宿所なり、而かも主人公を有せざる合宿所なり、此各國人中我邦人程虐待されつゝある者あるなし、然らば我同胞は他に比較して劣等なりやと云ふに決して左る事實を認め得ざるのみならず却て善良なる市民として耻しからざるは事實之を證左する者あり。吾人は寧ろ米國文明



吾人は傲然として常に心中に豪語す、曰く歐米の文明とは何をか意味するものぞと、しかれども形象に之を顯現するは決して吾人の賛成する所にあらず、深く自ら韜晦して他日機到りし時に用ゆべきのみ、即ち戦はずして勝つ可き實力を養ふ可きにあり。現下の在留同胞は日本外交の不振を咎め米國爲政者の非禮を鳴らす可き時にあらずして、所謂不言實行の時代にありとす。然りと雖も持久

の念慮に乏しき短所を有する我同胞は動もすれば爆發して蝮蛇に終れるは往々に實見する所、此點に於て龍野鉦次郎君の如きは大に多とすべき善良なる市民也。

君は長野縣小縣郡東塩田村の人、明治五年を以て生る、家は地方の豪族也。しかも君の幼時に君が先考の養蠶製絲等に着手して意外の失敗を招きしを初めとし家産漸く傾きしかば君は十四歳にして同縣小諸町に出で叔母の許に在る事四星霜。此間常に新聞雜誌に依りて社會事情の推移を知り日夜東都に出でんと苦心して果さぶりしが、ゆくりなくも先考の永眠に會して、是を好機となし去りて千代田城下に到り、當時操觚界の重鎮たる朝比奈泉先生の家に寄寓して、東京英語學校に通學する事三ヶ年、偶々故榎本氏等の熾んに唱導せし墨國移民に傾耳して西班牙語研究會に其國語を練習したる後墨國行の途次桑港に上陸したり。時に二十七年とす。語學の研究に餘念も無く目的地に赴くを唯一の樂みとして居りしに、世人の知る如く榎本子等の計畫は全然畫餅に歸したるより、君は茲に福音會に入り、或は勞働に従事し、或はベドラーとなり、漸くにして若干の資を蓄へ、デュ

ポント街五〇四に日米物産商會を起したり、時に三十五年九月とす。此後二年を経て商況視察を兼ね東部各州の都市を漫遊し、親しく米人商業の如何を研究して歸來、益々改革を加へ愈々擴張を計り基礎漸く鞏固になりしが三十九年の震災に遭遇して全部灰燼に歸したり、しかれども君は同年七月ガーナ街に再興しデュポンド街六二一番に支店をも開業するの運に達したるなり而して日米物産

商會は小デパートメントストアにして食料品を除くの外其名の示すが如く兩國の物産は殆んど網羅して餘すなしと云ふ。君は昨年歸朝令聞を迎へて渡航し商業の他に何者をも省みず孜々として努力し居る所、一見すれば蓄財以外何等の抱負無き人の如し、しかりと雖も君が常にアラスカ人夫請負者の後援者たるに徴して看る、胸中炎々燃ゆる不撓の精神を有するを察す可し。

君昨年歸朝の折り、久しく會はざりし知泉先生を訪ひしに君が頭髪の白きに驚きたりとの事なるが、是れ蓋し君が智慮の致す所と謂ふ可し。吾人の君を以て善良なる市民なりとする所以のものは君が胸中の抱負を披瀝せずして着々躬行しつゝあるを以てなり。在留同胞の欽慕たるお祭騒ぎの先驅者たらずして、日に實力を養ひつゝあるを以て也。吾人は在留者にして悉く君の如くんば桑港邊の蠻的彌次馬連中と雖も、邦人排斥の口實無きに苦しむ可きを想はざる能はざる也。今年七月、君本店を現在の地に移す、支店は尙ほ依然たり。

動中の静、静中の動、素一如なりと雖も吾人宜しく工夫すべきは這箇の趣きにありとす。深山に看經して源平の戦を知らざりし老僧あり。知らず現代の商賈之を解し得る者幾人あるを。

谷口文彦君

新世界新聞支配人兼主筆

六分の俵、四分の氣を有して在留民社會に重きをなせし、鐵堂副嶋八郎により創立され、滿身唯

野望と猪突の勇とに充てる畸形兒倉永照三郎に依りて、日刊十二ページ大に至り、倉永没落して壇の浦の平家に畢るや、二代に奉侍したる記者湯川貫一氏新たに社長の職を襲ひ、支配人兼主筆として入社したるは谷口文彦君也。君や鉄堂の俠氣なく、照三郎の猪勇なし、君の本領は勤勉、君の面目は温行にあり。新世界の現況は之を比するに粗暴にして磨斗の如かりし彌太郎の後を受けし弟彌之助守成時代に彷彿たるを覺ゆ。牛尾亦識力潤達、策略縦横の人にあらずして、略ぼ君と同形の人也。而して牛尾はベタルマの田園に、昔は相思の人、今は伉儷の夫人と共に養鶏を業として社は殆んど



君は和歌山縣熊野の人、明治十一年四月に生る。二十七年四月米國に航し、桑港ポリテクニック高等學校に在る三年半、此間美以英語學校に教鞭を執り、卒業後雜誌記者となり、英語學校校長左近義彌の不敬事件を惹起して、職を罷免せらるゝや、其後任となり、居る事二年、東部シカゴよりニューヨークに遊び、三十五年九月首府ワシントン所在のコロンビアン大學法科に入校し、中頃法理及び外交科に轉じ、在學三年にし

願みず。故に新世界一社の向背は皆君の方寸に出づる所。紙面生氣に乏しきは聊か遺憾に堪えざれども、温健着實を旨とし孜々として倦意なきの俤は紙上に躍如たり。

て卒業し、法學士となれり。蓋し此大學は千九百五年即ち我が三十八年ワシントン、メモリアル、アツンシエーションより巨萬の寄金を得て、四個の大校堂を増築し、落成と同時にジョン、ワシントン大學と改稱せり。斯くて君は業成りしかば、三十八年六月歸朝の目的を抱いて桑港に來り、未だ一年ならざる中、桑港の震災に遇ひ、需要に應じて法律事務を取扱ひ、歸朝の機を失し、四十年前記の如く倉永の去るや新世界に入社したる也。君は又大阪毎日新聞の特派員なりと。

新聞事業は計算器と相容れざる營業也。僅々七萬の人口より有せざる在留民社會を舞臺としては殊に然り。新聞記者は其腦力を使用し、勞力を費やす割合に貧窮を忍はざるを得ざるに共に、世間よりは美望され嫉視され怨恨さるゝの職業也。而して新聞社は此記者を優待せざるべからず、又勞働賃銀の高き當地に於ては、職工を最も優待せざるべからざるの困難を有す。吾人は曾て此經驗の一部を嘗めたる者、君が這般の配慮の決して尋常にあらざるを察知するに難からざるなり。

然りと雖も、吾人の見る所を以てすれば、君は到底惡策を弄し、智略を用ひ、紛々として蝸牛角上の争鬪をなす、在留民社會新聞紙經營の適任にあらず。瓢箪より駒を出だして得意がる法廷裡の奔走は君の能くする所にあらざるべし。聞く君は近く歸朝の意ありと。吾人をして君が故山に歸りて後の囑望を述べしむれば君は多年含蓄せる英語を以てせんのみ。斯の好くんば日本帝國の一角には、必ず子弟教育の適任者を増すものと云ふ可し。君以て非となす歟。

田村徳之助君

桑港 ホスト街 一一一五号

田村族箱主



少壯にして其故郷藝州より雲州に至り奇智を以て巨利を得、一宵五百金を酒樓に擲て盛宴を催し警吏に怪しまれて其身分を調べられ、當時本願寺廣島別院を除きて斯の如き建築物なしと四隣の人の噂に上り、後桑港に來り旅館を營みて大なる成功を收めたる田村徳之助君も亦偉なる哉。君は廣嶋縣宇

は再びある可きにあらず吾宜しく卒先して之を爲さん』と、かくて君は直ちに郡立養賢傳習所に入りて之を學ぶと同時に桑樹の必要を覺り、桑樹を栽培すれば他日必ず利あらんと思惟し兩親に秘して桑種を二反歩の畑に蒔きたり、時人之を見其何たるかを知らずして恠みしと。而かも君は自信を有する事として其萌を出すのみを翹望して朝から夕に至る迄植ひたる種を荒す鳥を追ふて日を暮らし

漸くにして土中より生ひ出づるや培養大に努め、やゝ生長に及びて其桑苗なるを知るや諸他の懇望
 黙し難く、一本八厘を以て一反歩苗を賣却し。更らに生長するに隨ひ殘餘一反歩の桑苗を六反歩に
 植ひつけざるべからざるに至るや一本二十五錢に騰貴し、愈々激して接木に要する一節にして三錢
 に賣捌くを得るに至り、已に既に君は四千餘金の純益を得て茲に獨立養蠶室を建築し、莫大なる種
 紙を掃き立て得るの準備をなしたり。而して其如何に機運に乗じたりしかは、君が僅々六十圓を以
 て君の先考に賣却せし桑樹畑は應て千圓となり之を賣拂ひて購買したる五反の田地は現に残り居れ
 りと云ふに徴しても明瞭なる所なり。

かくて君は十九年雲州に赴き土地の富豪清水米次郎なる者の所有に係る桑樹の賣却するや否やを
 本人に談じ、米次郎之を諾するや却て現今桑樹の價格の騰貴を教へ、去て出雲大社の所在地に至り、
 先づ交番の查公に就て土地の人情を知らんとし、吾は桑樹を賣却する者なるが此地に於て商賈人に
 して正直なる者あらば教示に預りたしと、尋ねしに、查公容易に之を諾し之亦土地の豪家伊藤家に
 事情を具して紹介したり、しかるに同家の主人の曰く我家に出入する古福清太郎なる者斯業に精通
 し居れば宜しく同人を使用せば可ならんと、君大に喜び直ちに清太郎君を卒先となし、九日間に十
 九萬本の桑苗を買占めたり、正價格は三錢平均なりき、而かも旬日にして騰貴し十五錢平均を以て
 悉皆賣却し、茲に此行一萬七千餘圓を利しぬ。是れ君が雲州平戸割烹店「三嶋」に於て豪遊の結果、

警吏の怪しむ所となりし原因なりと。更に滑稽なるは偵吏君が原籍地即ち廣嶋縣安佐郡に至り先づ
 君が家内をば物色せんとして女の帶地行商人として赴きしに君が留守宅にては新築最中にて斧鉞の
 聲丁々恰當棟上式の目なりしより此似非行商人をも大に御馳走したるに偵吏は案に相違し携ひし帶
 地を祝儀として走せ歸り之を君に話せしより當時好話柄となりしと傳聞せり。以て見る可し如何に
 君が得意の境にありしかを。

二十一年に至り桑樹賣買も大勢已に定まり香ばしからざるを目睹したる君は全部を他に譲り渡し
 冒頭記せしが如く宏壯なる家屋を建築したる後布哇渡航を出願せり、しかるに郡吏未だ其手續を知
 らず、君に勸むるに北米行を以てす、君之に隨ひ神戸に出で便船に塔じて、グイクトリアに上陸し
 たり時實に二十六年五月なり、バンクーバー、シアトル、タコマ、ポートランドを経て桑港に來る
 蓋し此際には三十人一團となりて罐詰會社に就働すべき契約の下に來桑せしものなるが、來て見れ
 ば全然根も葉もなき虚偽なりしかば、君はプレゼントンに赴きてバツプスの摘採をなし再び桑港に
 出で渡航の折持ち來りし若干の貨物を賣り拂ひ、同年十一月九日歸朝の途に就き、二十七年五月、
 造花竹細工等を携ひて再渡航したり、乃ち是れ獨立祭に利を占めんとしたり、しかるに不運なる哉
 着荷せざるを以てネバダ鐵道に赴きて十時間壹弗の給料にて勞働せし事七十餘日、偶々着荷の報あ
 り又旅館の賣物ありし爲め此旨を勞働者監督に告げ、同監督より旅館を營む以上は人夫を供給す可

きを依頼されて出桑、ゼツシー街五二一番地に旅館田村を開業せり。

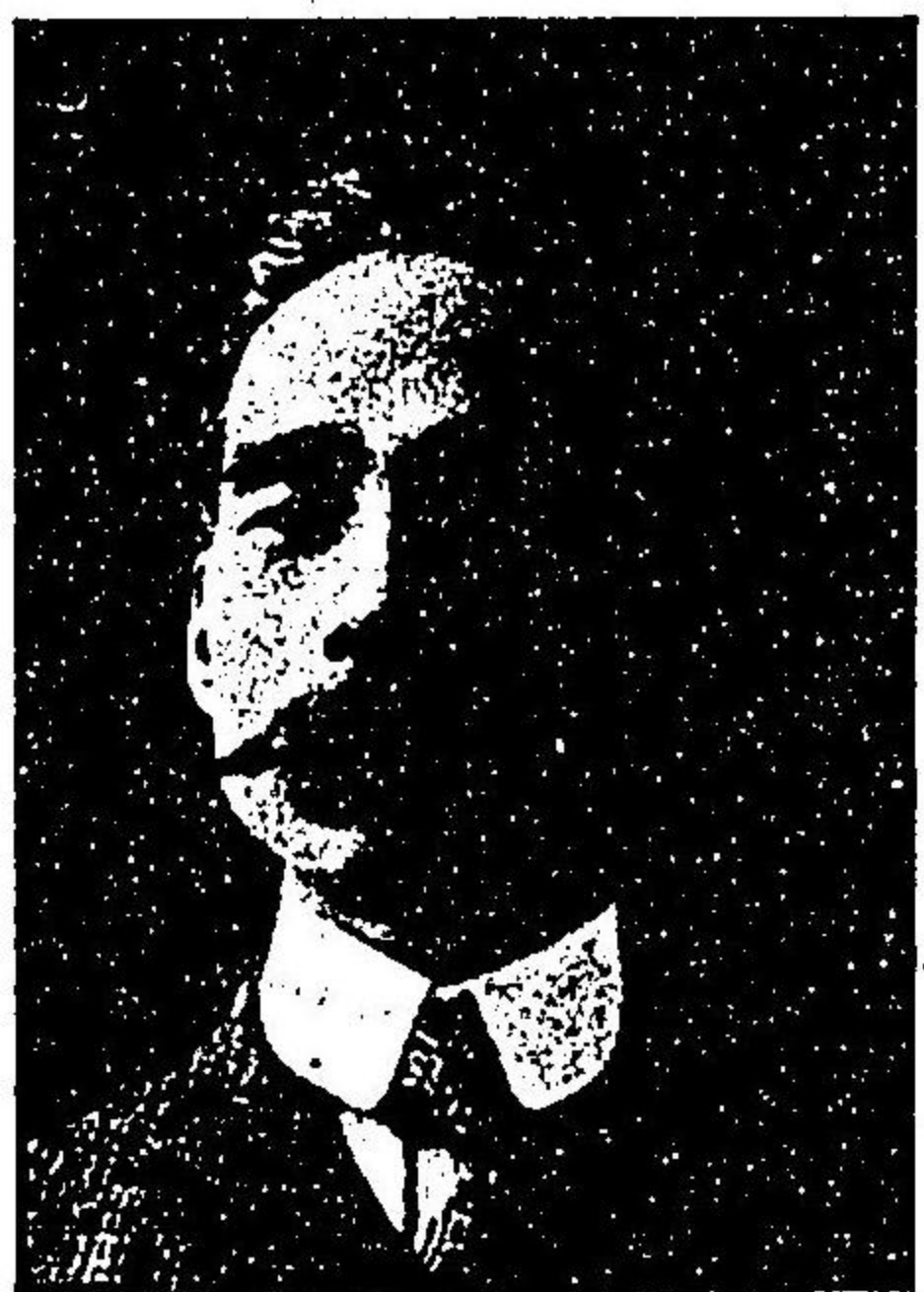
爾來脇本倉永二人の依頼にてサンタファイ鐵道にも人夫を供給したるあり、又從來鐵道行人夫周旋料は五弗を人夫より徴集し居たるを三弗に低減したるあり、三十二年人夫募集を他より依頼されしに歸朝大に内地各地方の旅館業と提携して歸桑せり、是れ一時大紛擾を醸したる旅館同盟に對して君が平然として動かざりし素地なりとす。君の性は實直なるに加へ、以上の如く運動したる結果は各埠頭に各停車場に田村旅館を目して投じ來りしかば、他同業者の嫉視する所となり、茲に旅館同盟の大破裂となり、結んで解けざる事三星霜、遂に君と雄を争ふ者なかりしは當時の新聞紙の報導に依りて明か也。不幸震災に遇ひ、現在の家屋を借り受け隆々今日に至りし也。

君や資性温厚篤實、未だ人と口論だにせし事あらず、常に豊饒なる面貌に微笑を湛え、喜怒色に現はさず、一人の愛子と共に日夜、旅館に球場に洗滌場に、精勵親切以て顧客に接し居る所。會ては大金を一宵に擲ちし人と見るを得ず、しかれども大量の人時に焰を包み光を藏むものごせば大差なかる可し。



塚本松之助君

桑港第二十三街三五〇〇
サンセット洗濯會社長



兎角の評判は別として、明治年間の教育者としては、三田の先生福澤雪池を以て白眉とす。而かも彼が晩年に及びて公表せし
獨立自尊の眞髓を得たる者の
寥々たる。説く先生盡さるり
しか、聴く門生臻らざるか。
擾々たる沙彌長老の大衆、拈
華するも微笑だに漏さず、忙
々然として肝膽を蠟燭町の風

君は安政四年一月、千葉縣
香取郡貝塚に生る。八才にし
て父を失ひしより、君は伯父

千葉中兵衛の養子となり、行儀見習として東京牛込廣源寺に入れられ、世は維新となりて砲聲上野に響くや、生家に歸還し、再び農を業とせし叔父の許に到りて十九才に及ぶ。君思へらく斯の如くんば將來何等の事をか爲し得べきと。然りと雖も願れば後邊には、父を失ひし當時に於て抵當とせし土地家屋の依然たるあり、母君の在すを安慰し參らす可き責任のあるあり。遂に小見川驛に赴き

三年の間、油搾りとなりて精勵したる結果、茲に孝養の一部を達し、二十二才初めて寺院の寺男として住み込み、四書五經の素讀を學び、更に同地方に於ける篤學者篠崎に就て左傳、國語、史記、漢書、禮記及び作詩の一斑を授かり、明治十五年即ち君が十五才の時、東京に出で警吏となりて、芝區高輪派出所詰を命ぜられ、親しく天下の形勢を觀、文物の推移を鑑みるに、從來の漢籍のみを以てしては、到底出身の途にあらざるを知り、同僚二三と共に英語を學修し出しぬ。而して其熱心なる、三田附近巡回中、暗夜なるを幸として、大師堂の中に潛み、エー、ビー、シーを繰返し居れるを、管轄の警部に發見され、免職となりし滑稽を演じたり。然るに此巡查奉職中に君は福澤先生の支關番たるを欲し、傳手を求め置きたりしが、之を要する旨、申來るに會ひ、同家に赴き、夫人に面會して、將來の希望を陳辨する事、縷々二時間餘、夫人は君が眞摯の態度を賞して直ちに同家に入りぬ。雜用の旁ら慶應義塾に文明式の教育を受くるは満三ヶ年。學業漸く成りしを以て、此後の君が社會に出づる方針如何を先生に質せしに、言下實業界に身を投ずる事機宜に適したる處世法なりと答へられしかば、小笠原嶋に製鹽業を起し居る田中鶴吉の許に到れり、時に十九年五月とす到り見れば、豆大の小嶋、其能く爲す可からざるを察知し、歸京す。茲に於てか再び福澤先生の門を敲きたり、恰かも可し同志の人北米の天地に模範的殖民郷を建設せんとする議ありし際なれば、君は大に賛成して先生後援の下に此行に加はり、二十年六月五日横濱出帆のサンバアヴロウ號に乗

じて、桑港に上陸し。早々ハレスノープリング地方に赴き三十エーカーの土地を買ひ受け、農業に従事したり。是を君が北米の人となりし順序とす。不幸經驗なかりしが爲め、土地は耕作に適せず、携ひ來れる資金は空しく狡奴の懐中を肥やしぬ。かくて同行者の一人井上角五郎氏は、再舉を圖らむが爲めに歸朝し、氏漸く資を得て再航せんとする間に、朝鮮事件の關係者として政府より捕縛せられ、事遂に志と違ふ。然れども君は當初の目的を抛擲するなく、殘存せる數人と努力せしが、永住の決心を有する者無きと、貯蓄金も飲乏を告げしかば、已むなくサンタローザの長澤鼎氏方に到り、次でサンノゼに出で、花卉栽培を業としたり、時に二十三年也。偶々テブロンに洗濯屋の賣物ありしを見、花園を他に譲りて買收し二十五年開業せり。業務繁昌の結果、翌二十六年諸機械を購入し、擴張の爲め現在の場所に移轉したり、是れサンセット洗濯會社の幼兒也。爰所に開業早々近隣白人の迫害を招き、蒸氣機權使用權を法廷に争ふて、首府ワシントンの大審院まで上訴するに至り、震災後之が使用を許可され。四十年八月深く内外の趨勢に慮りて會社事業とし、蒸氣に代ゆるに電氣を使用する事となり、茲に全くサンセット洗濯會社の成立を告げぬ。たゞ遺憾なるは没分曉淡、此電氣機械に故障を持ち込み、此稿を草する時猶法争しつゝある事是也。

君の篤實眞摯なる、曾て公共的團體に於て黨を組みたる事なし、而かも言はんと欲する所は、斷乎として言明するを躊躇せず、現に在米日本人會の參事員なるが、動もすれば黨同伐異に流るゝ間

に介在し、卓然として重をなし居れり。吾人は三田臺上幾千の健兒が、不斷の花と誇るペン交叉の帽章は、君が發案に由るものなる事を知る。雪池翁の特に君を撰びて、殖民地建設一行の會計役としたる眼識ありと云ふ可く、君としては譬ひ此事業の失敗に畢りしと雖も、此一事を以て慰め得るに足らずや。況んや其門下生多くは成功熱に浮かされて、滔々庶業家たる今日着々として事業を進捗せしめつゝあるをや。我塚本松之助君の如きは、是れ獨立自尊の眞骨頭を得たるの人歟。

中 林 正 己 君

桑港バイン街一八一一番

日本病院副院長

編者は故國に在りし際、嘗て仙臺に遊ぶ、大内青精居士と片山國嘉博士と高等學校内に樹立せる道交會てふ佛教研究者の請により來りて長廣舌を振ふと聞く、時は夏季休暇の際一浴の後晚風を衣袂に領し右演說會場に至る。恰かも好し國嘉博士かの豪傑然たる躰軀を壇上に運び將に開口せんとするの時なりき。拍手の聲は場の四隅に起りぬ。聽て博士は冷々然氷の如き態度を以て縱說横說佛教僧侶の悪口を並べ、痛罵嘲笑到らざる莫し、而して博士が斯の如き坊主共に據り引導を渡さるゝ亡者は千年萬年到底宇宙に迷ふて佛果を得ずと結論するや、聽衆中に名譽會員として列席しつゝ、あ

りし青葉城下の僧侶達は顔色を變じて怨恨し、其情定に憐む可きものありき。次で青精居士は悠揚通らざる身を壇上に起し、開口一番博士の言を是なりとし轉じて坊主や博士の言の如し現今の杏林果して此坊主に類したる藪なきや土手なきや竹の子なきやと巧みに掀翻し去るや滿堂思はず其痛快なるに喝采し暫しは鳴りも止まざりき。諺に之れ有り、醫は仁術なりと、而かも現代の杏林果して仁の一字を躰し得たる所の人幾人かある。編者今ま日本病院副院長中林正己君の爲人を見て之を紹介せんとするに方り往事を聯想して筆茲に及びたり。蓋し君の如きは慥かに青巒言中の者にあらざれば也。



りし青葉城下の僧侶達は顔色を變じて怨恨し、其情定に憐む可きものありき。次で青精居士は悠揚通らざる身を壇上に起し、開口一番博士の言を是なりとし轉じて坊主や博士の言の如し現今の杏林果して此坊主に類したる藪なきや土手なきや竹の子なきやと巧みに掀翻し去るや滿堂思はず其痛快なるに喝采し暫しは鳴りも止まざりき。諺に之れ有り、醫は仁術なりと、而かも現代の杏林果して仁の一字を躰し得たる所の人幾人かある。編者今ま日本病院副院長中林正己君の爲人を見て之を紹介せんとするに方り往事を聯想して筆茲に及びたり。蓋し君の如きは慥かに青巒言中の者にあらざれば也。

て郷に鳴りしものなりと。君幼にして醫たらんと志し縣立長野中學を卒ゆるや、第一高等學校醫學專門部(千葉に在り)に入る。螢雪の功成り得業士として世に出づるや一年志願兵として第十五聯隊(高崎に在り)に入營し、更に第一聯隊(東京)に轉じ士官候補生より三等軍醫に任せられ除隊となる時に君二十五歳、大學撰科に皮膚病、梅毒、小此木耳鼻醫院に其専門科、傳染病研究所に微菌學を

修め屹々として學究に餘念なかりしが、一夕同志の友竹村、吉田の二氏と相會し、書生の氣未だ消磨せざりし事とて牛鍋を突いて杯を囑し、互に相謂て曰く、男兒碌々郷土に老えんより海外に至り飛躍する亦可ならずやと談直ちに決し、目的地を北米と定め竹村氏先登第一に渡航し、君は第二番目に竹村氏を追ふて金門灣頭に上陸せり、時に三十三年十二月なり、しかるに之より先き竹村氏はフレスノに於て横死す、之を知らずして親しき友に會へる事よと上陸したるに、奚んぞ知らん埠頭に出迎ふるを期待せし其人の悲しき訃音に接せんとは、茲に於てか君は竹村氏死後の整理をなし人々のフレスノの地に開業するの好望なりと憐愍して熄まざるを、見るにつけ聞くにつけ涙の種なりとて之を謝絶し、閑靜の地讀書以て氣を養はんごサンノゼ市北第二街に居を卜したり是れ三十四年二月とす、此年五月加州政廳より開業免狀を得、翌年五月黒澤格三郎氏の獨逸留學に際し、此時已に王府に在りし吉田俊造氏と共に黒澤診察所格致堂を受け繼ぎ、六月より州立醫科大學大學院實地研究所に入り爾來一ヶ年間米國斯界の如何を窺ひ、明くれば三十六年、東洋の風雲甚だ險惡羽檄頻りに事の急なるを目睹し、宣戰の大詔降下せし二月、阿修羅場裡慈悲を躰せる活人刀を振り、苦痛を救濟せんとして歸朝四月召集され直ちに臨時中央馬廠附兼下志津衛成病院勤務を命せらる。蓋し是れ閑職也、爾氣勃々たる君の久しく耐得る地位にあらず、さゝに於てか百方運動の末、第一師團臨時衛生隊附を命せられ、七月愈々出征せんとするに際して親しく 天顏に軍裝拜謁仰付けら

れ、有史以來の惡戰たる旅順攻圍軍右翼隊附(二〇三高地方面)となり該城投降するに至るまで駐屯したり、此間君は右腕に流彈の爲め負傷し幸ひに事無く二等軍醫に昇進し、三十八年一月二十五日出發、北進して行々咸廠に着するや、間髪を容るゝなくして砲聲の殷々たるを聞き直ちに開戰となり、更に北進して二月十四日より奉天開戰となり、三月十六日終結するや特別任務を帯びて興京に赴き後備第一師團司令部附勤務を命せられ、更らに五月には鴨綠江軍(川村軍)に醫部補助勤務を命せられ、六月混成第八旅團の到來と同時に司令部軍醫部附となり、昌圖に滯在中、乾坤一擲の大勦業は居中調停の爲め、長蛇未だ全く捕捉し得ずして早く平和克復となり、十二月一日無事神戸に上陸し、其所屬團所在地弘前に凱旋し東京に於て除隊となり、三十九年四月一日勳六等功五級に叙せられ、順天堂病院長佐藤國手の姪と華燭の典を擧げ、暫し同病院に居る、今の君が令閨は即ち是れなり、已にして君は同年七月再び渡米黒澤氏と共に日本病院を組織し、邦人刀圭家中嶄然頭角を現はし名聲日に旺んなり。

君編者に語て曰はく『今後の醫界は外科の進歩に伴ふて内科の領分を蠶食するに在り』と、此言によりて見るに君が得意とする所は外科にあるや必せり、君の閱歷は略ぼ斯の如し。一言にして言はざれば學校を出で、醫師となりし當然の徑路を當然に歩みしものなりと雖も、平淡無味の裡貫くに日露大戰の色彩を以てす、故に在留者間生々出色の趣味を帯ぶ。且つ夫れ在校時代よりして佛書を読み

活殺の機を參禪の捧喝に鍊ふるに至りては眞に是れ萬綠叢中の一點紅。最後に編者は魔醉惺裡人を
して蘇生せしむる神の如きを庶幾して擱筆する者也。



編輯中併三味(七)

退 步

蚊彫れの腕頼もしき繪はりもの

廣重か繪にも稞の道中かな

和冠史にのこる稞の騎兵かな

不治の治を思ふ史緒や夏の川

草鞋になれし異人や夏の川

成富嘉太郎君

桑港運送株式会社々長

桑港ラゲナ街一四一五



一竿の天秤棒に雙筒の破れ篋を擔ふて、霜降る秋の朝寒に豆腐々々と東北の一隅福嶋町を呼び歩
てふものゝ籃輿に乗りて、粗
大の頭腦を根限り鞭撻せしに
由る。編者の成富嘉太郎君が
閱歴を聞くに及んで、君は決
して所謂好運兒にあらざるを
知り、更らに此好運兒ならざ
る君の今日を目睹して、其財

人事の測り知るべからざる運
力に於てこそ、到底市兵衛の比にあらずと雖も、其精力勤勉に於ては決して遜色あるものにあらず
と云ふも敢て過褒にあらざるを知りぬ。
君は明治元年十一月を以て佐賀市に生る、幼にして天資英敏、年十二初めて中等教育の門に入りて
暫くして偏僻の地以て學ぶに足らずとなし蹶然郷關を辭して長崎に出づ、而かも志學に達せざる弱

冠學資を得るの途に窮し、遂に此旨を父母に通じ送金を促せしに來る可きものは來らずして、嚴父の重忠の報に接し、茲に早々歸郷再び同門に入り、業卒へて東都に遊ばんとして果す能はず、二十才の時父を失ひ、斷腸の餘り勇心挫折せんとしたりしが、碌々たるは君の天性の容るゝ所にあらざる學業をなす能はざる鬱憤は商海に漏れ、簿記を稽古して銀行に投じたり。此間に於ける君が苦心や能く筆紙の盡し得べきにあらず、乃ち一家の支持は全部の責任懸て君が双肩にあるなり、而かも其素志や伸びざるを得ずてふ境遇にありしなり。人生の不幸は反對せる二方面を走らざる可らざる時より大なるはなし。君は此不幸に遭遇したり、茲に於てか此二方面をして少くとも平行線となさざるを得ず、此線を左思右考の末に發見したり、即ち是れ亞米利加行の一念ありとす、剩す所はたゞ實行のみ、而して此實行も決して容易の業にあらず、先づ一家の支持を計らざるを得ざるより君は令聞をして産婆を習得せしめて獨立以て自活し得べきを儲めたる後鵬翼漸く張る可しと桑港に上陸したり、時實に三十五年五月なり。

上陸後サンノゼ地方の農園に勞働したる上鐵道事業に刻苦する事一年有餘、貯蓄したる數百金を懐にして半肩の夕陽鐵路羅府に至る。君の同地に着するや直ちに地理を知らんが爲め出で、市井區劃を観る事數日頗ぶる運送業に適するを察し、此用意を整へて此業を開始しぬ。是れ君が北米に於ける獨立事業の初歩なりとす。君が觀察眼は過たず僅々二三ヶ月にして業務愈々繁昌し、名聲大に

揚がる。時偶々桑港に大震災あり、此報一たび君が敏捷なる頭腦に響くや、君は勇躍して喜び機逸すべからずとなし、徹夜數百の天幕を製造せしめ、早忽桑港に出で市街戦後も斯くやと思はるゝ焼跡に右テントを張りて食物を鬻げり、此一舉は儘かに機宜に適し大々的に好望なりしが、吁奈何せん、外人ユニオンの迫害の強烈横暴なる言語に絶し涙を呑んで之を中止せざるべからざる事となりたり。君の遺憾寔に同情すべきにあらずや。かくの如く空しく運命の弄する所となりしが、窮して極まるは薄志弱行の徒、君や然らず再び運送業を開始し晝勉力行日夜に怠らざりしかば、先の失敗を愼するを得、三十九年十一月桑港運送株式會社を設立したる際推されて社長に就職し、本年二月歸朝に際し副社長となりしなり。編者をして少しく同會社の現狀を語らしめよ。是れ君と關連する所大なればなり。

蓋し桑港運送會社の起る所以は各小規模の同業者のみにては到底單に同胞間のみ希望に添はざるのみならず、其運賃の均一ならざるより事端を醸す事多大なりしがば、市内同業者合意の上三萬弗を資本金として茲に成立したるにあるが如し。同會社の資本として算すべきは馬二十八頭、荷車十八輛、而して使役する人員は十六、株主は十五名ありと云ふ。外人の迫害を蒙らず加ふるに斯界に熟練なる君の在るあり、支配人辻本氏の在るあり、設立以來の好成績豈故なしと云はんや。

君は又株式會社日米銀行の監査役にして、兼ては桑新港開の十傑投票に當選したるの人也。猶聞

君は郷里に在りし際、常に斗酒傾け盡して平然たる飲酒家たりしが、志を立て、太平洋を渡りし以來一滴も口にするなしと、之に依て見る時は又克己の力の非常に大なる人也。君本年漸く四十一歳思慮將に圓熟の境に入らんとす、幸に健在なれ。

名 和 陽 一 君

株式會社金門銀行副頭取兼本店支配人

名和陽一君は株式會社金門銀行の取締役兼本店支配人なり、而して金門銀行は途預金者の取附に會ひ一時閉鎖の已むなきに至れり、茲に於てか直接の貶評は支配人たる君が頭上に浴せられたり是れ誠に平常の地位よりして然らしむるもの、君たる者平然として之を甘受して可ならずや、然りと雖も編者たる吾人は金門銀行の歴然中流の低柱の如く存在せると否に依りて君が代表的人物の價値に差あるべしと思惟するを得ず、殊に此銀行の破綻や、素より行務の粗雑に因るものならんも、能く其仔細を観察し來れば吾人は寧ろ在留同胞社會發展の基礎の未だ以て或者等が誇稱する程に鞏固ならざるを嘆息したりと謂ふの可なるを覺ゆ。即ち金門銀行を一の噴火口として天定りて人に勝つてふ實を示したるものなり、談餘波に渡るが如しと雖も、一言すれば北米在住の同胞は互に己れ

先づ薄氷を踏むの思ひあり乍ら強て之を隠さんとして大和民族の發展を説き、其内實の如何を顧みざらんとしたる痕跡は炳乎爭ふべからざる所。此一事よりして吾人は唯一人の當事者を攻むるは頗る苛酷なりとする所なり、并はさて措き君は明治四年大阪府堺に生る、中學を出でし後高等商業學校主計部に入り卒業したるは二十四年なり、翌年内務省屬となり居る事三ヶ年、轉じて三菱銀行部に入れり、時に二十八年なり



是れを君が銀行業に經驗を有するに至りし原因とす三十二年職を辞し旺勃たる覇氣を太平洋に漂はして北米に渡り直ちにオマハ市に至りて商店を開き専ら日本茶及び雜貨の販

して且又美髯公の名を博せる、宗方茂八氏の不幸にも意外の兇變に斃るゝや、君は擧げられて其後任者となり、着々歩を進めて在留社會金融機關の重鎮として奮勉努力せしが、奈何せん前記の如く掀翻する所となり、現に此稿を草するの時、一身以て熱罵冷嘲の金的となりつゝあり。而かも以上の閱歷よりして見る、單に君を以て其職とする銀行業に盲目たりとは云ふ可きにあらず、否寧ろ在留

社會に於ける同業者中の經驗兒と稱す可きを至當とす。此點よりして吾人は天ま定めしと謂ふを得。物一たび破れんか之を舊に復するの困難は創立するよりも甚し、特に神經過敏なる經濟界に於て其然るを見る、君專念一向に此恢復策を講じつゝあり若し其實現を見るあれば茲に始めて根底の確立を來たす可し。蓋し君に於ては好箇の試金石たらずとせんや。

君は一見蒲柳の質、競争の劇しき生存界に奔走し得るの人にあらざるが如しと雖も、其根氣の強烈なる人をして意外を感せしむ、且つ自己の思ふ所を斷言するに躊躇せず、故に會て在米日本人會の參事員たりし時代は、決して沈黙以て自己の無能を蔽ふの亞流にあらざりき。銀行破綻の全責任を君に歸するが如きは曾に苛酷なるのみならず、是れ當世の事務を談するに足らざる迂儒の見なりと云はざる可からず。人生誰か破綻を希ふ可き、然り昨日までは在留者間の紳士として目されしを今日は冷笑を以て送迎さるゝ破綻をば誰か好んで招ぐものぞ。吾人は事の茲に到りしを深く遺憾とし、更に此遺憾を同胞一般に願はんを欲す。

牛 島 謹 爾 君

在米日本人會々長

『江河水碧流縱橫、千里蒼田一望平、這裡耕成無限產、博來天下薯王名』此詩は是れ前桑港領事上

野季三郎君が、牛島謹爾君に贈りしもの也。文詞の如何は措きつ、實にや君は薯王の名を天下に博したるの人。

君の郷里は福岡縣久留米市、生は慶應元年也、幼にして學を好み且つ卓然、長するに及びて東都に遊び、福澤翁の門下生となる、君が在留者巨頭公連中に於て、家鷲群中の一鷹の羽毛を有する如き文字の才あるは、乃ち之が爲め也。明治十九年不動の一心を持して渡米し、實況を視察せし後農を以て身を立つ可しと決し、二十三年初めて河下地方に土地を契約し馬鈴薯栽培に従事せり、然りと雖も天蓋を祖を君一人の頭上に垂る、をせんや。隨て苦心すれば隨て失敗し、隨て經營すれば隨て蹉躓し、拮据憔悴する事約十星霜、年として頓挫にあらざるはなし。其だしきは地主が憐與の小麥粉以外無一物となり、止むなく之を捏ね糰を以て食せざるを得ざる境に達したりと傳ふるを聞く落魄の狀察す可きにあらずや。日は没して途や遠し、加ふるに星明りだになき暗夜、剩へ虎狼の出没するに遇ふ。君とて鐵石にあらず、神佛にあらず、切れば血の出る赤凡夫の身の、行く水に數かくよりもはかなき人の世と感せざるを得んや。危機一髪、あはや幾年來遠大の志望を一擲せんとす、かくれども未戀の情のあるありて告別の爲め地主に面して、涙と俱に此意を以てせり。然るに君が運の盡きざる所か、抑も亦天の命數か、地主は費用萬端を支辨し與ふるが故に、今一年經營すべきを切に從順す。茲に於てか君大に喜び遂に最後の決戦をサクラメント河流の下域に試みる事と

なりぬ、軍容は嚴、兵勢は靜、鞭聲今更らに肅々たり、時に明治三十一年四月即ち米西戦争のありし同年たる也。米西戦争の擧は常食物たるポテトをして暴騰せしめぬ、君は此決戦に據りて敵將信玄と一騎打の勝敗を決し得たり、黒装せる入道謙信は越山併せて登州の景を得たり。爾來旗幟を京畿に樹つるを得て、乃ち冀王となりたる也。君が現在の馬齡薯耕作地一萬七千町ありと云ふを以てす、其如何の状なるかは多言を要せざる所ならん、嗚呼當年の寒措大一飛直ちに斯業界の帝王となる、好箇の奮闘的生涯ならずとせんや。

落魄を極めし末、時運に際會して時めくに至れる者は多く私を先とし、公を後とすの習癖を有するに反して、君が能く公に殉するの心厚きは頗る異數とするに足る。桑港震災に際して觀、サクラメント地方洪水に際して見、本年の伊太利震災に際して先登第一に電報爲替を以て義捐金を送れるに徴するに、其然るを証左するなり。又君に學ぶ可きは是非なく推されて在米日本人會々長たる以外野次的に其名を會社銀行に列する無く、一心専念農園經營に努力し、餘暇以て或は林間を逍遙し、或は文を學ぶの點にありとす。

君の住居は灣頭の閑靜地、パークレーに在り、其家屋の宏大なる凡々たる白人輩の企圖する所にあらず。昨年末君斯地に移轉せんとするや、阿蒙の白人輩之を拒まんとして力及ばず、君悠々乎として、同地所在の加州大學に金若干を寄附して同地に移りしなりと。聞くに加州大學内にはシマル

ムなるを設けて、君が寄附を永久に紀念として保存すと。名を求むるが爲めの寄附ならざらんも亦君が名譽にして、日本人の名譽たるやも計られずと云ふ可し。

君は慥かに膽力ある意志の人なり、故に時あつては倨傲尊大なるを免るゝ能はざるが如し、其風貌の堂々たる當年の福島正則を彷彿たらしむ。然れども君が本領は事業界の徳川家康歟。吾人は亦幽かに謙信たるを認め、又謙信たらん事を望む。七分の俠は疲勞せる我在留同胞社會に執つて、米鹽を送るの將に該當すれば也。田甫一徑青き處、夕陽西に没し去らんするの時、君之を讀んで感如何。

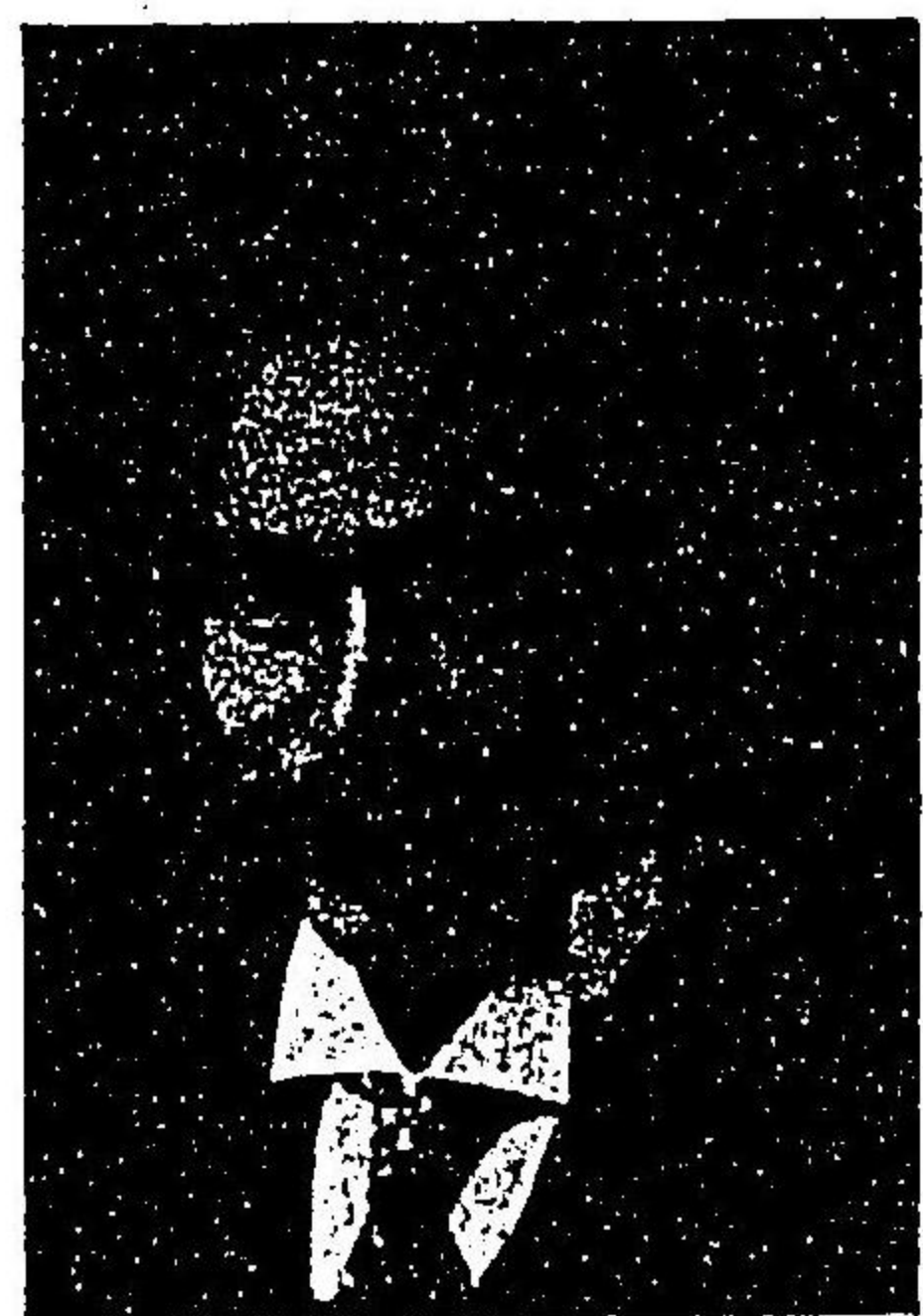
渡 邊 金 藏 君

牛島農園支配人

潺湲として岩間を流るゝも水也、風に激して怒り狂ふ大濤も水也、水は則ち一にして、其相を異にするは、是れ縁に因りて生ずる所のみ。桂太郎も人間也、ロックフェラーも人間也、お三ごんも人間也、人間は則ち一のみ、是れ天地盛衰の殺、變化の流に依るのみ。水は大濤に限り、人は宰相のみならんか、停滯の極唯滅亡あるのみ。前滅後生の刹那だに變化あり、自ら此變化を喜ぶ人生社

會堂之無くして可ならんや。排日本人の風吹き荒むも變化也、轉航禁止然り、渡航困難然り、而して渡邊金藏君が、北米日本人社會の情況を故國に知らしめんとして歸朝したるも亦然り、更に在米同胞の發展を呼號したる舌根下、日本朝野の士より在米日本人會の基金を蒐集したるは、より大なる變化となさざるを得ず。然りと雖も善惡是非の障礙眼よりせずして、月明の夜歸路を指す底に住して觀れば落花粉々雪粉々たるのみ也、敢て國家興亡の危機にあらざる也。乃ち渡邊金藏君は澎湃天に冲する水にあらずして、間斷無く流るゝ小川の水の變化なりとす。

君は新潟縣新發田の人、明



治三年に生る、幼にして京に入り、日本全國を遊歴し、明治二十三年渡米、爾來農耕作を契約して加州を踏破し、後牛島謙爾氏に知られて、氏の帷幄に參じ、善謀善斷苟も牛嶋氏を知る者、咸君を知るに至り、昨四十年二月、日本人渡米の途斷えたるを慨き、陳情委員として歸朝、商業會議所に、大學に、國際法學會に、交詢社に、在米同胞の爲め氣を吐く事數萬言、朝野幾多の士の同情を得たる後、日本人會の爲め二萬圓を齎らして同年十二月歸桑し、現在仍ほ牛嶋氏と左提右携、農園經營に意を注ぎつゝある也。予輩は君に就て知る所如上以外に出でざるを憾とす。

筆硯の友なる予輩をして、姑く在留活社會の人、所謂有志家先生の班に列せしめて、君の歸朝を評せしめんか、君の歸朝は二萬圓以外何の得る所もなかりき。君が牛嶋馬鈴薯王を介けて。能く功果を奏するが如くになし能はざりき。然りと雖も是れ君が無能の罪にあらざる也。よしや世界無類の外交家をして歸朝せしむるも、君以上の事をなし得可からざるを以て也。蓋し日米目今の事風あるも濤を激せしむ可きの時にあらず、即ち變化の流をして力の及ぶ限り、小ならしめざるを得ざるの時なればなり。因縁所生と諦覺し修養をなさざる者は、俱に變化を語るに足らず、變化を知り、能く變化をして善果を結ばしむるを要とするは、人間の職責たる也。在米同胞の現今は此修養の時にあらざらんや。此時に際し發展の旗幟を翻して故國に呼號したるは、予輩の以て君以上の功果を奏し得ずと爲す所也。若し夫れ君が歸朝をして有功とするあらんか、恐る狂濤遂に堤を潰して、國家存亡の機となりしにあらざりしかを。

在米同胞の多數は、無意識に流車に塔じ居る痴漢の如く、其流車の走るを知らずして、山野走り電柱走ると思惟し居るに似たりと云ふ可し、君の如き機に觸れ所に接して同胞の境遇の變化を知らしむ可きにあらずや。至囑々々。

牛 尾 萬 吉 君

桑港スタクトン街一〇二四
食料品雜貨卸商

世には一種吹聴狂とも稱す可き輩あり、他人の葬式に際して殊更ら人目を引く服装をして會する如きは也、世には又黒袴博士と呼び倣さるゝ徒あり。權門勢家の死亡廣告を新聞紙上に尋ねて死したる人の知人なりとて其家へ赴き葉書大の名刺を差出して自己の廣告をなす者の如きは也。此二者共空名



實力に歸す。金剛石は磨かすとも炭にあらず、黄金は鍛えずとも光輝到底鋼鐵の及ぶ處にあらず。天性の痴は百年猶且つ痴漢たるを免れず、理は正に同一也。吾人茲に紹介する牛尾萬吉君は、實力の人なり、空名の人にあらざるなり。君は廣島縣安佐郡伴村伊藤家の三男に生る、二十歳の時同郡三篠町綿商牛尾家に懇望されて養子となり、明治二十六年分家獨立し自ら酒造業を始の拮据經營十

年大に隆むるを見しが未だ意を安するに足らず、後事を令弟富次郎氏に托して亞米利加行を企て明治三十六年數千弗の食料品を携ひて渡航し、桑港に上陸し留まる事半歳、略ぼ土地の商況を目撃し且つ食料品も全部賣却したるを以て歸朝、六月永住の決心をなして再航し來りスタクトン街に於て日本食料品雜貨の卸賣屋を開始せり是を牛尾商會の濫觴となす。爾來専ら業務に熱心せしかば日に月に繁昌に赴きたり、而かも三十九年の震災は商品全部を灰燼と化し去りたり、君は此業務漸く緒に就きたる際の火災に、痛く失望したり、然れども失望して止む可きにあらずとて、勇氣を鼓舞し同年十一月サウスパーク街に帝國商會を設立し、次で昨四十一年三月業務擴張の結果、現在の店舗に移轉し再び牛尾商會と號す。

之を他の同業者に聞く、君が得意とする所は市内にあらずして各地方にありと。店頭客あるを見ずしてたゞ荷造にのみ多忙なるは蓋し之を証明するものならん歟。君は質朴の人温順の人にして又自己の主張を枉げざる意志の人也。其實力の人と云ふ所以は昨年日本人實業會の設立さるゝや選ばれて會計となりしに徴しても、將又自ら吹聴せず、自ら廣告せずして一昨年來不景氣を繰返す嘆聲裡悠悠々自若として動せざるに照らしても爾かく斷言するを得るなり。スタクトン街は同胞社會に於ける花柳傾斜の地、君の質朴を以てして此巷に店舗を卜す已に奇とするに足る、而かも其賣捌く物品の食料品にして卸賣を専門とするに於ては愈々奇とせざるを得ず。蓋し君も亦深山白雲裡の禪僧

にあらずして、四條橋上活機を弄する商界の一体を以て任ずる人と云ふ可し。

植 田 憲 三 君

日米銀行頭取

桑港サター街一七五二番

株式會社日米銀行の頭取にして大阪府人會々長と在米日本人會理事とを兼ね、リーディングストンに一千エーカーの葡萄園を所有し、在留同胞間の重望を双肩に擔ふ植田憲三君は、そもや如何の人ぞ。一攫千金の僥倖兒か、運鈍根てふ偶然宗の信徒か、成功熱の患者か、曰く然らず、君は度最大にして精力絶群の人也。請ふ其理由は君が經歷に聽け。

君は慶應二年を以て大阪府泉南郡の農家に生る、學修の後二十四歳に至るまで家業を助けしが、同地方一帯は有名なる密柑の産地なるが故、君は之を海外に輸入すれば必ず販路の擴張をなすを得可しと感じ、是れが動機となりて渡米と決し、桑港に上陸したるは實に明治二十四年九月三日とすかくて學僕となりて學校をフルーツマーケットと定め勉勵する事六ヶ月、やゝ其如何を覺ひしかば輸入したる密柑の外諸他の果物を仕入れ之等を賣捌く店舗を開きしが抄々しからざりしかば之を他に委任して、行商となり、ウエーターとなり、サンアンゼルスに赴きてアツテンドボーイとなり、

牧畜業者の許に乾酪を製造して時には乾酪にならざるに仰天し内密に他より買ひ來りて不手際を隠したる滑稽談を貽し、更らに牛乳配達をなし、再び歸桑の上牛乳配達にて經驗せし御馬の術を利用して運送屋を開業す、是れ實に桑港日本人運送業の開祖也。しかも驚く勿れ此資本金たつた三十弗此三十弗にて馬一頭と荷車とを購求し、茲に初めて六尺大の色黒き男は堂々たる獨立獨歩の人となり。しかれども名にし負ふ價高からぬ馬の事とて日に幾回と無く路傍に倒れ白人の冷笑を招きたり、己にして此運送屋開始は君に幸福を與へぬ、开は此事業の性質として常に税關等に入出入するより税吏にも懇意の間柄となるは勢の然からしむる所、平民國の官吏先生葉卷の一本も貰ひしや否やは知る所にあらずと雖も、兎に角日本より輸入する花蔴の税の數月後には必ず騰るべきを漏したるを以て君は直ちに買占を行ひ奇利を博したり、是れ花蔴を輸入し販賣するに至りし原因にして又邦人間の元祖なり、しかも一方密柑輸入は落日の勢ひ金扇を振て呼び返さんとするも應せず五萬弗近くの密柑は腐敗したるあり、しからざるは價格低廉の爲め引合はざるありて失敗に歸せし也。聞くに此當時は君も神佛ならぬ凡夫の身の落膽の果に一時は酒色の巷に若い時二度無い三度ない五邊目のヨモヤに引されしが、一朝故國の令兄より全財産を滅燼するも關するなし故に男兒須く乾坤一擲の快事業を企つ可き也との訓諭に接し、翻然として大悟し、故國より令聞を呼び迎へられしなりと而して之より先き君は酒色を近づざる一方法としてヒールド商業學校に入り一時に半學期の月謝を

仕拂ひ以て克己の一助とす。令聞來着の際人あり勸むるに生命保険を附して君萬一不慮の際妻子の爲め安全を計るを以てす、君之を拒絶し、百五十弗餘の月謝を直ちに仕拂ひ、着早々東西をすら辨せざる令聞をして無理にドレスメーカーの學校へ行かしたるなり。按ずるに身命は寔に朝露の如く亦電光の如し、財産は消費すれば煙の如く亦霧の如くと感じ、身に附随したる技藝は終身の財産也と考量せしものたらん歟。此事と相前後して君が令弟等の渡米となり、花菴密柑輸入販賣の植田商會と共に依然運送業を營み、令聞は已に習ひ得たる技藝を以て白婦人を雇入れ裁縫に従事せり、一門一族相集りて植田家の興隆に努力したり。事態の如し君は勇躍一番大々に密柑を輸入し悉く貨車に或は汽船に東部諸州に送り、電報を發して其狀況を聞きし後、リノーよりオクデン、オマハ、シカゴ、デトロイト、フォトウエン、コロンバス、バッファロー、ピータソン等を経てニューヨーク、ポストンに至り密柑販賣を勉めたり。君の紐育に赴くや同市發行の新聞紙トリュビュンは腐敗し易き物品を持ちて世界の半球を横行する彼等黄色の短小人は、馬鹿か、狂人か、何れにしても恐る可き人間なりと驚歎して吹聴したりと云ふ。更らに君はポストンを發してトロント、モントクオール、ニュージャシー、ヒラデルフィア、バルチモアを密柑と觸れ歩いて首府ワシントンに着し爰に悠々氣を養ふ事旬日、ハリスバーグ、ピッツバーグ、アルバニー、ルイスヴィル、シンシナチー、インディアナポリス、セントポール等を馬鹿と云はれし目的物を携へて賣捌き、路を變じて

スポーツケン、シアートル、グイクトリア、ヴァンクラーヴァー、タコマよりポートランドを経て歸桑せり。此行或は利し或は損し紐育よりリヴァーブルに轉送したるもありし事とて、君が豫想程利益あらざりしが如し、たゞテキサス州の狀況視察に赴きて同地産出米の買占をなして巨利を博す。是れ亦邦人間に於ける嚆矢也。再び眼を南方に走らせ、花菴を携ひて即ち腐敗せざる物品を持ち先づローサンゼルスに赴きツツソンに至りエルバツソ、サルフォア、サンダソン、サンアントニオ、ヒューストン、ガルヴェストン、ニューオルレアンス、フロリダ、レークチャールズ、ウエストチャールズ、バアーモント、オレンヂ、カンサス、ダラス、ワツコー、イーグルバツスよりメキシコに入りモントレ、チアカタガ、オーガスカンエンター等の各地を該品買込の後メキシコ市に入りベラカツズ、ユカタ、オーサカ、ワダワダラより再びローサンゼルスに出で、歸れり。蓋し南部及びメキシコは殆んど此花菴の需要を感せざるを見受けたりと雖も其奇なる風俗習慣を仔細に觀察したるは多大の効果ありしと謂はざるべからず。君に直接聴く所に據れば密柑は研究の結果到底競争に見込なきに至り、花菴は今猶繼續しつゝあれども他に同業者増加したれば前年の如く力を入れざるなりと。思ふに君が斯の如く諸他地方を跋渉せしは百聞一見に如かずとの古語に准したるものならん。

たゞ君をして今日の地位に至らしめたる一半の功は君が令聞の賜にして、君の日米銀行に入るに

際して婦人服裁縫業を廢したりと雖も其内助の如何なるものなりしかは在留者間嘖々として定評あり。君度量頗る寛大、膽亦斗の如くにして商機に敏、恰かも君が迫らざる容貌は之を表示して遺憾無しと謂ふべき也。在留者間の重鎮として切に自愛せよ。

野田 音三郎 君

大和 殖民地 支配人

人世一般に向ては須く一殺多生なる可し、自己心中の修養に關しては斷じて多殺一生たらざる可からず。古往今來英雄豪傑君子哲人、悉く然らざるは無きを睹る。石田三成は其志望の天下以外は何物をも殺したるにあらずや、徳川家康は天下の爲めには其實子をすら誅殺したるにあらずや、超然世外に高擧するの君子は、天地の大道以外自己心中の賊徒を征服したる也。深山の絶壁に坐して源平九年の戦をすら知らざりし僧は、衆生法度の他は皆惡魔を降服したる也。俗に二兎を追ふ者は一兎をも得ずとは則ち是也。

然りと雖も其社會の狀態によりては、故國實業界に於ける澁澤榮一男の如く、双肩に千手觀音を擔當せざる可からざる時代あるを忘る可からざる也。安孫子久太郎氏によりて、漁村モントレイの

隱居士と稱されし、野田音三郎君が、紛々たる在留民社會に紹介され、移民問題にて首府ワシントン大使館に派遣されし以來日本人會の代議員殖産會社の支配人、老農懇親會の發起者、北米農報の肝煎役、金門銀行の破綻を救はんとして奔走するあり、布哇同盟罷工を調査するあり、其實績功果の如何は問ふ處にあらず、兎にも角にも、三顧の恩に感じて出度してよりの君の活動振りの雄々しきを多とすべき也。

君の郷里は佐賀縣小城郡南多久村にして、生れしは明治元年なり、幼にして熊本縣下に出で、長じて阿蘇の絶頂に於て氷製造に従事し、更に霧島山中氷製造所の教師となり



港上陸早々農園に入り莓の摘採をなしたるを初めとし、諸種の勞働に従事し、二年にして、ワードランドに於て勞働組合を組織したり。蓋し是れ農園に於ける団体組織の嚆矢となす。かくてワインタース、バカビルに於て再び同様の組織をなし、サクラメント平原に出で、ハップス、ビンズの受負耕作をなし、洪水の爲め失敗したる揚句病魔の襲ふ所となりて、轉地療養としてモントレイに

偶々農事改良の聲旺盛なるを聞きて、九州各地の農業を視察したる後、或る機會に依り時の熊本縣知事の徳源する所となりて渡米に決しぬ、時に明治二十年なり、而して實行せしは二十二年なりとす、桑

至り傍らサリナスに於て砂糖大根の小作をなし、次でモントレーにて漁業を開始し、以て昨四十一
 年春に至るまで敢て倦まざりし也。然るに前記の如く白砂青松の間に、パチルスの僅少なる新鮮の
 空気を呼吸して餘念なかりし一漁翁は、車馬喧器裡に南船北馬の客となりぬ。是亦社會の必要に出
 でしもの歟、浮世とや云はん、吁誰が謂ひしぞ山の中にも鹿ぞ啼くとは。

逆境に居るものは割合に蹉躓するなく、順境に在るものは多く失敗するは凡夫社會の常情也。吾
 人は君が現在を以て順か逆かを判す可からずと雖も、如何なる集會にも君が名の署せざるある無
 きを目睹して、其地位の決して低からざるを知る、君たる者慎重して日に三省すべきにあらずや。

小門 鶴 松 君

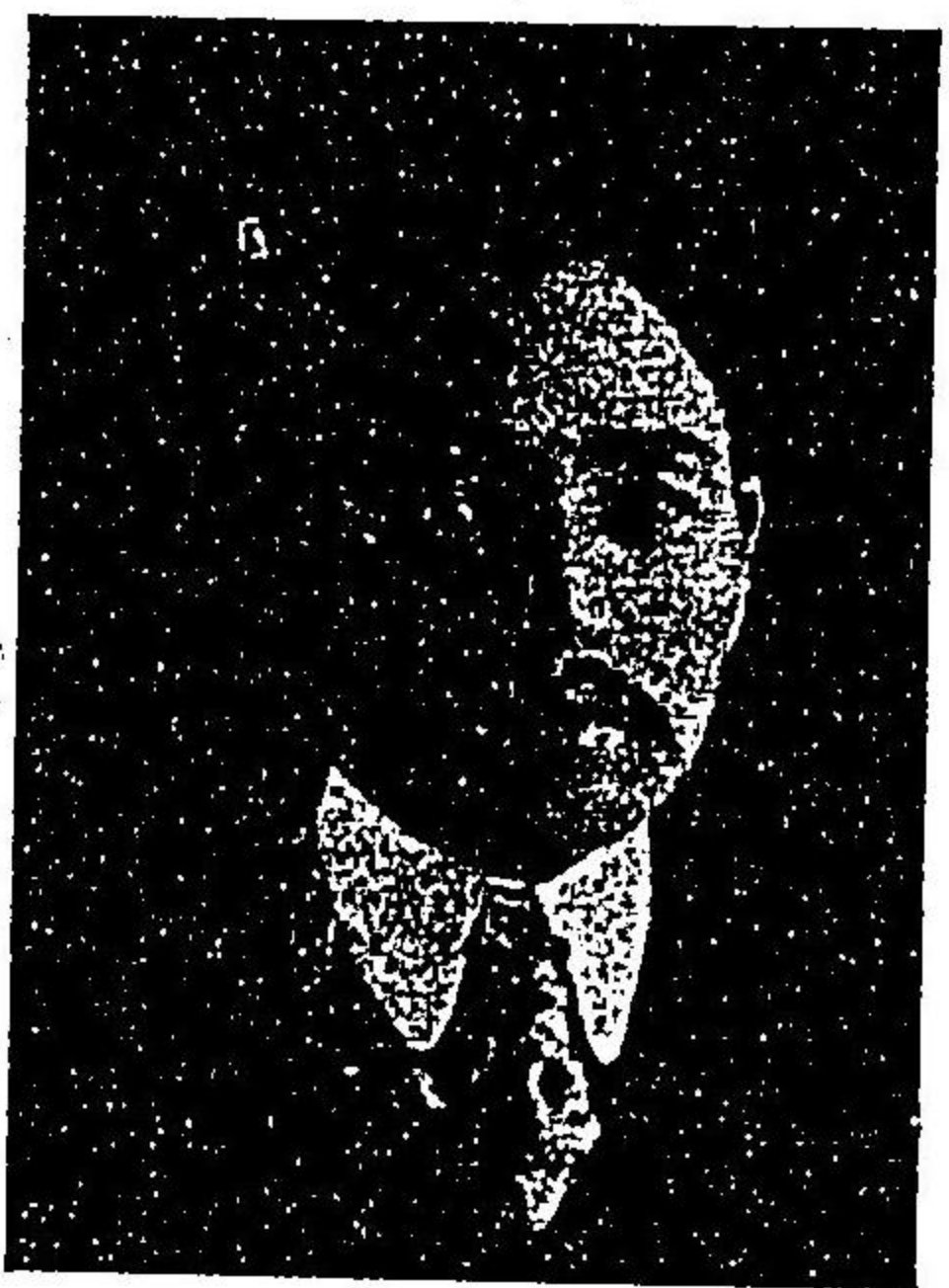
桑港ゲリー街一五七

紀泉商會主

天佑なる語は日露戦争後、新意味を帯びて復活したり。而して其意義は至誠以て事に當りたる上
 は唯天命に任すべきにありて、即ち幾分か運命論者と似たる所あるらし。吾人は全然運命論者に左
 相する者にあらずと、人生の大半は之に支配され掀翻さるゝを信せざるを得ず。至高の哲人の眼

よりして見るも恐らくは所謂天道の是非も此差別界に於ては疑ふ可し。有りもせぬ智慧を有るが如
 く装ひ俗に山師の玄關流なる者の得々として翺翔するを得。思念する所皆實直に行ふ所成道に合す
 る善良の民、却て窮巷の裡薪炭の憂に苦むは、北米の日本人中にも常に吾人の實見する所なればな
 り。實に運命の潮流は測るべからず、猿が啼く岩下に暫し舟停めて月を觀んとするも能はざるなり
 花咲く岸邊に繫留して賞せん
 とするも能はざるもあり、明

治三十九年四月の桑港の震災
 に遭遇せし者に就て見るも此
 類例の多きを知るに難からず
 たゞ同じ運命に乗りても此運
 命を利用し得る手腕と實力如



何に依りては天道誠に公平な
 るを失はず。小門鶴松君の如
 きは能く此運てふ潮流に棹さ
 して災に由りて烏有に歸せし
 財を挽回せしもの歟。

君は和歌山縣海草郡貴志村
 宇榮谷の人、元治元年に生る

普通教育を受けし後商業に志して千辛萬苦を嘗めたる末米國渡航と決し、桑港に上陸したり時に二
 十三年十一月スクールボーイとして二三年を経過し、二十七年奥野徳松氏と共同し初めてファイルモ
 ア街に美術雜貨骨董品販賣店を開業したり、是を紀泉商會の濫觴とす。君は紀州奥野氏は泉州の人
 なるに因みて斯く屋號を附せるものならん。同處に經營する事四年、マーケット街一四二二に移轉